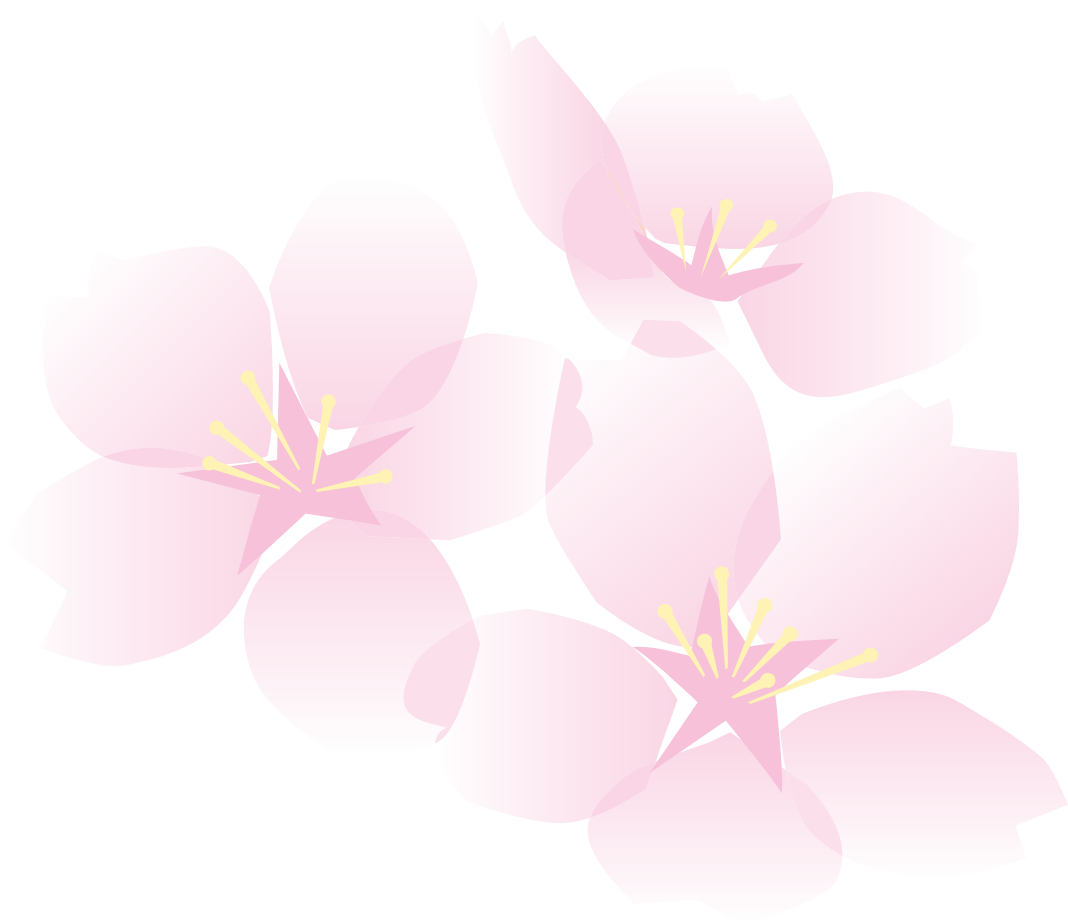


年報-2025

ANNUAL REPORT of
SEIREI SAKURA CITIZEN HOSPITAL



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院

〒285-8765 佐倉市江原台2-36-2 TEL043-486-1151 FAX043-486-8696

<https://www.seirei.or.jp/sakura/>



病 院 の 理 念

キリスト教精神に基づく「隣人愛」に立ち

患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

目 次

1.	2025 発刊によせて	1
2.	事業報告	3
3.	沿革・概要	5
	・ 沿革	6
	・ 病院概況	11
	・ 施設基準	13
	・ 2026 年度組織図	18
	・ 設備概要	20
	・ 主な器械備品	22
	・ 2026 年度会議・委員会名簿	24
	・ 職種別人員	26
4.	病院統計	27
5.	部門報告	41
	● 診療部	42
	● 看護部	62
	● 医療技術部	77
	● 事務部	84
	● 健診センター	93
	● 医療安全管理室	94
	● 感染管理室	95
	● せいいい訪問看護ステーション佐倉	96
	● せいいいケアプランセンター佐倉	97
6.	研究・業績	98

2025 発刊によせて

2026 年 1 月より、鈴木理志前院長の後を引き継ぎ、病院長に就任いたしました小谷俊明です。私は、当院が「聖隷佐倉市民病院」として歩み始めた 2004 年の開院当初から、20 年以上にわたり勤務してまいりました。長年、現場の医師として多くの仲間に支えられてきましたが、病院長という重責を担い、組織全体を見渡す立場となったことで、これまで以上に「現場で働く一人ひとりの職員を、心から大切にしたい」という思いが深まっています。

2025 年度を振り返りますと、物価高騰や人件費の上昇、人員不足に伴う稼働病床の縮小等、病院経営にとって非常に厳しい 1 年でした。特に 6 月頃までは赤字が大きく膨らみ続け、先行きに大きな不安を抱える時期もありました。しかし、この最大のピンチを救ってくれたのは、他でもない職員たちでした。「生き残り戦略プロジェクト」のもと、限られた人員の中で各部署が柔軟に知恵を絞り、費用削減や業務効率化に力を尽くしてくれました。その結果、第 2 四半期以降は見事な V 字回復を果たし、黒字を達成することができました。全国の民間病院の 6～7 割が赤字と言われる中でこれを成し遂げたことは極めて意義深い成果であり、逆境を跳ね返した職員たちの底力を心から誇りに思います。

診療面においても、未来につながる大きな前進がありました。2025 年 6 月にはがん医療の要となる最新の高精度放射線治療装置を導入し、11 月にはコロナ禍以降休止していた「緩和ケア病棟」を、看護部の協力と医師たちの尽力により 5 年ぶりに再開することができました。さらに、各科の医師が自ら近隣クリニックへ足を運び、地域の先生方と「顔の見える関係」を深めたことで、紹介患者数も大きく増加しました。ピンチの時にこそ発揮される「聖隷佐倉の結束力」を実感した 1 年でした。

人材面でも明るい動きが続いています。採用チームが懸命に取り組んだ結果、2026 年 4 月には 2025 年の倍以上となる新卒看護職員 33 名をはじめとする多くの新しい仲間が入職してくれました。また、きめ細やかなサポートにより離職する職員が着実に減っていることも大変喜ばしく感じております。管理部門においては「職員の幸せと成長を支える組織」をテーマにワークショップを開始し、活発な議論が交わされています。そして 2026 年 4 月からは、聖隷淡路病院で総看護部長を務めていた中野由美子総看護部長が、新たに当院へ着任いたしました。中野総看護部長がもたらす新しい風は、すでに看護部に新たな活力を生み出しており、病院全体のさらなる活性化にも大いに期待しています。

病院長就任にあたり、私は「職員の笑顔から、患者さんの『幸せ』を創る病院を目指す」という方針を掲げました。職員がゆとりを持って笑顔で働ける環境づくりのため、今後は AI の活用を推進し、医療 DX による徹底的な業務効率化を図り、人にしかできない「心を通わせるケア」に多くの時間を注げるよう、改革を進めてまいります。

昨今の診療報酬改定等により、病院には厳しい時代が続きます。しかし、悲観する必要はありません。状況に合わせて柔軟に知恵を絞り、職員一丸となって前向きに対応してまいります。皆さんが「聖隷佐倉で働いていること」を誇りに思える魅力あふれる病院づくりを進め、頼もしい職員たちと共に、しなやかで強い組織を築いてまいります。今後とも、地域の皆さまの温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 小谷俊明

聖隷佐倉市民病院 事業報告

2025 年度は、物価高騰による様々な費用の増加が進み、さらに人員不足による稼働病床の縮小等、病院経営にとって厳しい一年であった。反面、持続可能な経営基盤の再構築という課題が明確になり、より強固な組織を作るための契機と位置づけた。管理会議発信の重点取組事項を共有し、職員一丸となって患者の受入や費用削減に取り組んだ。また、新たな打ち手として人員不足の中、看護部の全面協力の下、5 年振りに緩和ケア病棟を再開した。再開後は医師の協力もあり安定した運営ができています。職員の奮闘により経営は改善し、結果として V 字回復することができた。2026 年 1 月には病院長が交代、新体制がスタートした。

1. 地域医療へのさらなる貢献

救急患者の受入を迅速に行えるよう日中ファーストコール医師体制を設け、受入体制を再構築したが救急車要請件数の減少に伴い、年間 2,137 台の受入実績となった。また、全科の医師が近隣医療機関へ訪問し、顔の見える関係構築を行ったことで紹介件数は 11,092 件となり、2024 年度比 517 件増加することができた。がん医療の取り組みとしては、緩和ケア病棟の再開と放射線治療装置の更新を行った。公的機関への広報活動によりレスパイト入院、リハビリテーション科によるリフレッシュ入院など、安定した地域包括ケア病棟への直接入院の流れが整備できた。

2. 安心して受診できる医療の提供

全ての職場から IA レポートが提出され、医療安全に対する職員意識の向上を図った。防犯対策としては 1 階フロアにて防犯グッズを用いた防犯訓練の実施、佐倉警察署の協力を得て不審者対応訓練を実施した。また、広域災害を想定して佐倉市と連携した地震総合防災訓練を行った。課題は山積しているが公的機関と共有することで自院のみでなく、地域の災害対策を真剣に検討できる機会となった。

3. 利用者には選ばれる病院づくり

広報委員会の積極的な活動により病院インスタグラムのフォロワー数増加と病院ホームページを更新することができた。また、地域住民参加型イベントとしては、6 年振りにアイアイフェアを開催し、多くの方に参加をいただいた。利用者の利便性の向上では、昼夜問わず利用者から来院希望日時を web で申し込みができるシステムを導入した。利用者からの投書についても改善活動に活用することができた。

4. 人材確保・定着と働きやすい環境づくり

2024 年度より活動している多職種による採用チームが大規模就職説明会への積極的な参加やインスタグラムの活用による求職者向けの情報発信などに取り組み、2026 年 4 月には新卒看護師 33 名の入職に繋がった。業務負担軽減においては、会議の開始時間や開催頻度の見直し、DX による業務の効率化への取り組みに着手した。

5. 経営と運営の両立による健全経営

職員へ経営情報とその取り組みを発信することで経営参画意識の醸成を図った。また、職場毎に費用削減策を検討し、病院共通の内容については全病院的に費用削減に取り組むことで費用コントロールを実現することができた。

6. 地域における公益的な取組

佐倉市と連携した健康増進イベントや腎臓病・糖尿病教室の開催により、病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。また、高校生を対象に「がんに関わる教育講演」を実施した。

【数値指標】〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外来患者数	803 名	796 名	99.1%	102.4%	入院患者数	320 名	309 名	96.5%	101.9%
外来単価	15,690 円	15,481 円	98.6%	101.9%	入院単価	59,000 円	58,317 円	98.8%	99.7%
職員数	775 名	747 名	96.3%	98.5%	病床稼働率	80.2%	78.5%	97.8%	101.9%

〈健診センター〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
受診者数	198 名	188 名	94.9%	99.4%	単 価	18,690 円	18,870 円	100.9%	102.5%

〈せいいい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	464 件	403 件	86.8%	89.3%	利用回数	210 件	134 件	63.8%	108.9%
単 価	8,000 円	7,819 円	97.7%	102.4%	単 価	11,650 円	10,970 円	94.1%	102.6%

〈せいいいケアプランセンター佐倉〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	124 件	107 件	86.2%	82.9%	単 価	13,275 円	11,172 円	84.1%	91.9%

聖隷佐倉市民病院 健診センター

2025 年度、健診センターは開設 20 年を迎え、日頃の感謝を伝えるため、20 周年記念イベントを開催した。また、健診から病院へのスムーズな受診を可能とする体制の整備や新オプションも導入するなど、受診者のニーズに合わせたドックの提供を行った。

せいいい訪問看護ステーション佐倉 / せいいいケアプランセンター佐倉

2025 年度は e ラーニングや外部研修を取り入れた段階的な教育体制を構築し、職員のスキルアップに努めた。子育てや介護を必要とする職員が勤務調整をしやすいような体制の整備を行い、職員一人ひとりの状況に応じた多様な働き方を進めた。

<無料又は低額診療事業>

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は 21.0%であった。

沿革・概要

沿 革

2004 年

(平成 16 年)

- 3 月 国立佐倉病院の経営移譲により開設
一般病床 200 床
- 6 月 印旛市郡医師会入会
増築棟・透析センター定礎式
- 8 月 救急告示取得
- 9 月 千葉県より 200 床増床（計 400 床）について認可
- 10 月 増築棟・透析センター竣工
神経内科・心療内科外来開始
- 11 月 患者図書室ネーミング決定「さくらプラザ」

2005 年

(平成 17 年)

- 2 月 オーダリングシステム稼動（投薬・検査）
健診センター準備室開設
- 4 月 印旛市郡二次救急輪番制参加
外来リハビリテーション開始
- 6 月 B 号館改修工事完了
- 7 月 B3 病棟（緩和医療科、リハビリテーション科）38 床開設
（計 238 床）
健診センター開所
- 8 月 緩和医療科外来開始
- 9 月 血管外科外来開始
- 10 月 亜急性期入院医療管理料病床取得（B3 病棟の 18 床）
- 11 月 オーダリングシステム二次稼動
（看護支援・画像生理・手術申込・リハビリ管理）
和漢診療科外来開始
- 12 月 乳腺外科外来開始

2006 年

(平成 18 年)

- 4 月 柏原 英彦 名誉院長就任、南 昌平 院長就任
- 4 月 一般病棟入院基本料 7:1 取得
- 6 月 亜急性期入院医療管理料病床数変更（18 床→15 床）
- 7 月 健診センター 政府管掌健康保険「生活習慣病予防健診」
実施医療機関に選定
- 10 月 健診センター内に X 線撮影装置を設置

2007 年

(平成 19 年)

- 4 月 婦人科、皮膚科外来開始、小児科外来を拡張移転
日本病院会「人間ドック・健診施設機能評価認定」取得
- 6 月 C3 病棟（緩和医療科）18 床開設 （計 256 床）
亜急性期入院医療管理料病床数変更（15 床→12 床）
- 9 月 臨床研修病院（管理型）に指定
- 11 月 日本医療機能評価機構の認定（Ver. 5.0）を取得

2008 年

(平成 20 年)

- 1 月 亜急性期入院医療管理料病床数変更（12 床→9 床）
- 4 月 医師臨床研修開始
- 6 月 B2 病棟（循環器科・外科）38 床開設 （計 294 床）
緩和ケア病棟入院料病床取得（C3 病棟の 18 床）
- 7 月 健診後外来開始
外来駐車場拡張
- 8 月 形成外科外来開始
- 9 月 病理科開設
- 10 月 第 2 期工事着手

2009 年

(平成 21 年)

- 3 月 外来医局棟竣工・泌尿器科外来を拡張移転
- 4 月 B 号館ライフライン供給設備機器更新
- 5 月 健診センターに胃部検診車を導入
- 6 月 第 2 期工事内 手術棟着手
- 7 月 DPC 対象病院に指定
院内保育室（さくらんぼ保育園）開設
- 9 月 オーダリングシステム・ハードウェア更新

2010 年

(平成 22 年)

- 1 月 せいれい訪問看護ステーション佐倉開設
- 4 月 手術棟竣工
リウマチ膠原病外来開始
リハビリテーション室移転
- 5 月 新手術室（6 室）稼働開始
- 8 月 放射線治療科開設・放射線治療開始

2011 年

(平成 23 年)

- 4 月 代謝内分泌・生活習慣病センター開始
聖隷佐倉市民病院 糖尿病地域連携パス運用開始
- 10 月 ホームページリニューアル

2012 年

(平成 24 年)

- 3 月 レントゲンフィルムレスシステム（PACS）導入
- 4 月 南 昌平 名誉院長就任、佐藤 慎一 院長就任

	人間ドック・健診施設機能評価の認定を更新
2013 年 (平成 25 年)	11 月 日本医療機能評価機構の認定を更新 (Ver. 6.0) 2 月 北側駐車場拡張 4 月 第 3 期工事着手 6 月 千葉県がん診療連携協力病院 (胃がん・大腸がん) に指定
2014 年 (平成 26 年)	2 月 外来棟竣工 3 月 健診センター棟 (透析拡張含む) 竣工 新外来棟稼働 透析センター拡張フロア稼働、オンライン HDF 導入 10 周年記念式典開催 4 月 新健診センター棟稼働 7 月 院内保育所の敷地内移転 (定員 40 名) 8 月 外来駐車場有料化開始 9 月 透析センター改修フロア稼働
2015 年 (平成 27 年)	2 月 A2 病棟 5 床増床、A3 病棟 5 床増床 (計 294 床→304 床) 3 月 千葉県がん診療連携協力病院 (乳がん) に指定 4 月 地域包括ケア病棟入院料病床取得 (B3 病棟の 38 床)
2016 年 (平成 28 年)	4 月 VEPTR を用いた拡張性胸郭形成術を実施 10 月 一般病棟入院基本料を病棟群単位で届出 (3 棟 148 床 : 7 対 1 入院基本料、2 棟 100 床 : 10 対 1 入院基本料)
2017 年 (平成 29 年)	4 月 人間ドック・健診施設機能評価の認定を取得 5 月 病院基幹システム・ハードウェアの更新 11 月 日本医療機能評価機構の認定 (3rdG : Ver. 1.1) を取得
2018 年 (平成 30 年)	4 月 急性期一般入院料 2 の届出 第 4 期工事着手 7 月 電子カルテ稼働
2019 年 (平成 31 年) (令和元年)	3 月 患者支援センターを開始 E 駐車場 (南西側駐車場) の新設 6 月 せいれいケアプランセンター佐倉開設 8 月 栄養科厨房リニューアル 9 月 B 号館竣工 10 月 病棟引越・再編成・増床 (304 床→334 床) 11 月 地域包括ケア病棟移転 (334 床→338 床)

2020 年

(令和 2 年)

- 12 月 健診センターの拡張
- 1 月 手術室の増室 (6 室→8 室)
リハビリテーション室の拡張
- 4 月 A5 病棟 8 床増床 (338 床→346 床)
コロナ専用病棟設置
- 5 月 放射線科移転
- 7 月 新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定
- 8 月 A2 病棟 11 床増床、B5 病棟 8 床増床 (346 床→365 床)
- 10 月 許可病床 399 床へ変更

2021 年

(令和 3 年)

- 1 月 新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設指定
- 4 月 佐藤 慎一 名誉院長就任、鈴木 理志 院長就任
病棟編成変更に伴い増床 (365 床→377 床)
- 9 月 内視鏡システム・内視鏡医療機器更新
- 10 月 コロナ専用病棟閉鎖
オンライン資格確認システム稼働

2022 年

(令和 4 年)

- 7 月 コロナ専用病棟再開
新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定
- 9 月 医療における子ども憲章の掲示
- 10 月 聖隷コミュニティケアセンター佐倉店閉店

2023 年

(令和 5 年)

- 3 月 日本医療機能評価機構の認定 (3rdG : Ver. 2.0) を更新
- 7 月 紹介受診重点医療機関指定
- 8 月 がん医療支援センター開設

2024 年

(令和 6 年)

- 2 月 電子カルテシステム更新
- 3 月 聖隷佐倉市民病院 開院 20 年
- 4 月 健診システム更新
- 7 月 病棟再編成 (377 床→399 床)
- 8 月 病院公式インスタグラム開設
- 10 月 千葉県がん診療連携協力病院 (肺がん、前立腺がん) に指定
開院 20 周年地域イベント (せいれいフェスティバル) 開催

2025 年

(令和 7 年)

- 3 月 A 号館病棟空調工事完了
- 6 月 ホームページリニューアル
放射線治療機器更新
- 7 月 健診センター 開院 20 年

2026 年

(令和 8 年)

11 月 緩和ケア専用病棟再開

1 月 鈴木 理志 名誉院長就任、小谷 俊明 院長就任

病院概況

(2026年4月1日現在)

開	設	者
病	院	名
所	在	地

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
聖隷佐倉市民病院
〒285－8765
千葉県佐倉市江原台2-36-2
Tel 043-486-1151（代表）
Fax 043-486-8696

開	設	日
理	事	長
病	院	長
副	院	長
院	長	補 佐
総	看	護 部 長
事	務	長
敷	地	面 積
延	床	面 積
病	床	数

2004年3月 1 日
青木 善治
小谷 俊明
藤井 隆之 岸田 俊二
大島 祐二 齊藤 将喜
中野 由美子
石野 実俊
42,956.55㎡
42,769.17㎡
許可病床399床（一般）
稼動病床399床（一般）

職	員	数
駐	車	場
認	定	施 設

666人（常勤）
1,187台
国民健康保険療養取扱機関
健康保険医療機関
結核予防法指定医療機関
労災保険指定医療機関
特定疾患治療取扱病院
無料低額診療施設
日本医療機能評価機構認定病院
公害医療指定医療機関
被爆者一般疾病医療取扱機関
生活保護法指定医療機関
小児慢性医療指定医療機関
指定自立支援医療機関
（育成医療・更生医療・精神通院）
臨床研修指定病院
救急告示病院
二次救急指定病院
難病法に基づく指定医療機関

標 榜 科 目
（ 34 標 榜 科 ）

千葉県がん診療連携協力病院（胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・前立腺がん）
内科、内分泌・代謝科、消化器内科、腎臓内科、
呼吸器内科、漢方内科、緩和ケア内科、
循環器内科、神経内科、心療内科、精神科、
小児科、外科、乳腺外科、形成外科、消化器外科、
内視鏡外科、移植外科、呼吸器外科、整形外科、
脳神経外科、泌尿器科、リハビリテーション科、
耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、婦人科、麻酔科、

診療科

(29 診療科)

学会認定

放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、
臨床検査科、美容外科、血管外科
総合内科、腎臓内科、消化器内科、
内分泌代謝科、神経内科、呼吸器内科、
循環器科、メンタルヘルス科、和漢診療科、
緩和医療科、外科、脳神経外科、呼吸器外科、
乳腺外科、整形外科、形成外科、小児科、
眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、
リハビリテーション科、放射線診断科、
放射線治療科、麻酔科、病理科、美容外科、
血管外科、化学療法科
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本腎臓学会認定研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本麻酔科学会認定施設
日本臨床栄養代謝学会NST稼動施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本病理学会研修登録施設
日本医学放射線学会放射線専門医修練機関
日本気管食道科学会気管食道科専門医研修施設
(咽喉系)
日本人間ドック予防医療学会・日本病院会指定優良人
間ドック・健診施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定
インプラント実施施設
(一次一期再建・一次二期再建・二次再建)
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定
エキスパンダー実施施設 (一次再建・二次再建)
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本臨床栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設
日本乳癌学会専門医認定施設
日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構
遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
呼吸器外科専門医合同委員会専門研修関連施設

施設基準

(2026 年 4 月 1 日現在)

基本診療科の施設基準

情報通信機器を用いた診療に係る基準

初診料 注 2 外来機能報告対象病院 紹介割合等未達通減

初診料 注 15 医療情報取得加算 1・医療情報取得加算 2

初診料 注 16 医療 DX 推進体制整備加算

外来診療料 注 2 外来機能報告対象病院 紹介割合等未達通減

外来診療料 注 10 医療情報取得加算 3・医療情報取得加算 4

急性期一般入院基本料 2

臨床研修病院入院診療加算（基幹型）

救急医療管理加算

診療録管理体制加算 3

医師事務作業補助体制加算 1（15 対 1）

25 対 1 急性期看護補助体制加算（5 割以上）

注 2 夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算

注 3 夜間看護体制加算

注 4 看護補助体制充実加算 2

看護職員夜間 16 対 1 配置加算 1

療養環境加算

重症者等療養環境特別加算

栄養サポートチーム加算

医療安全対策加算 1

注 2 医療安全対策地域連携加算 1

感染対策向上加算 2

注 3 連携強化加算

注 4 サーベイランス強化加算

報告書管理体制加算

褥瘡ハイリスク患者ケア加算

後発医薬品使用体制加算 1

バイオ後続品使用体制加算

病棟薬剤業務実施加算 1

データ提出加算 2

入退院支援加算 1

注 4 地域連携診療計画加算

注 7 入院時支援加算

認知症ケア加算 3

せん妄ハイリスク患者ケア加算

排尿自立支援加算
 地域医療体制確保加算
 小児入院医療管理料 5
 地域包括ケア病棟入院料 2
 注 5 看護補助体制充実加算 1
 緩和ケア病棟入院料 2
 紹介受診重点医療機関入院診療加算
 入院時食事療養Ⅰ・入院時生活療養Ⅰ
 特掲診療料の施設基準
 外来栄養食事指導料
 注 2 外来化学療法患者対象
 注 3 専門的な管理栄養士の指導
 慢性維持透析患者外来医学管理料
 注 3 腎代替療法実績加算
 糖尿病合併症管理料
 がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料ハ
 がん患者指導管理料ニ
 糖尿病透析予防指導管理料
 小児運動器疾患指導管理料
 腎代替療法指導管理料
 二次性骨折予防継続管理料 1
 二次性骨折予防継続管理料 2
 二次性骨折予防継続管理料 3
 下肢創傷処置管理料
 慢性腎臓病透析予防指導管理料
 院内トリアージ実施料
 夜間休日救急搬送医学管理料
 注 3 救急搬送看護体制加算 1
 外来リハビリテーション診療料 1
 外来リハビリテーション診療料 2
 外来放射線照射診療料
 外来腫瘍化学療法診療料 1
 注 6 連携充実加算
 注 9 がん薬物療法体制充実加算
 ニコチン依存症管理料
 がん診療連携計画策定料 1・2
 がん治療連携指導料
 外来排尿自立指導料

肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
造血器腫瘍遺伝子検査
遺伝学的検査の注 1
BRCA1／2 遺伝子検査
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅱ）
植込型心電図検査
皮下連続式グルコース測定
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料（Ⅰ）
小児食物アレルギー負荷検査
CT 撮影（16 列以上 64 列未満マルチスライス）
MRI 撮影（1.5 テスラ以上 3 テスラ未満）
大腸 CT 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
一般名処方加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
初期加算及び急性期リハビリテーション加算
がん患者リハビリテーション料
人工腎臓 1
注 2 導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
注 9 透析液水質確保加算
注 13 慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
ストーマ合併症加算
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）【同種骨移植（非生体）〔同種骨移植（特殊なものに限る）〕】
椎間板内酵素注入療法

脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
 緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
 緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
 乳癌センチネルリンパ節生検加算 1 及び
 センチネルリンパ節生検（併用）（乳セ 1）
 乳癌センチネルリンパ節生検加算 2 及び
 センチネルリンパ節生検（単独）（乳セ 2）
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
 乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
 気管支バルブ留置術
 経皮的冠動脈形成術
 経皮的冠動脈ステント留置術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
 腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
 手術の通則 16 に掲げる手術（胃瘻造設術）
 輸血管理料Ⅱ
 輸血適正使用加算
 貯血式自己血輸血管理体制加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 放射線治療専任加算
 外来放射線治療加算
 高エネルギー放射線療法
 注 2 1 回線量増加加算
 強度変調放射線治療（IMRT）
 画像誘導放射線治療（IGRT）
 体外照射呼吸性移動対策加算
 定位放射線治療
 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅

速病理組織標本作製

保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診

病理診断管理加算 1

悪性腫瘍病理組織標本加算

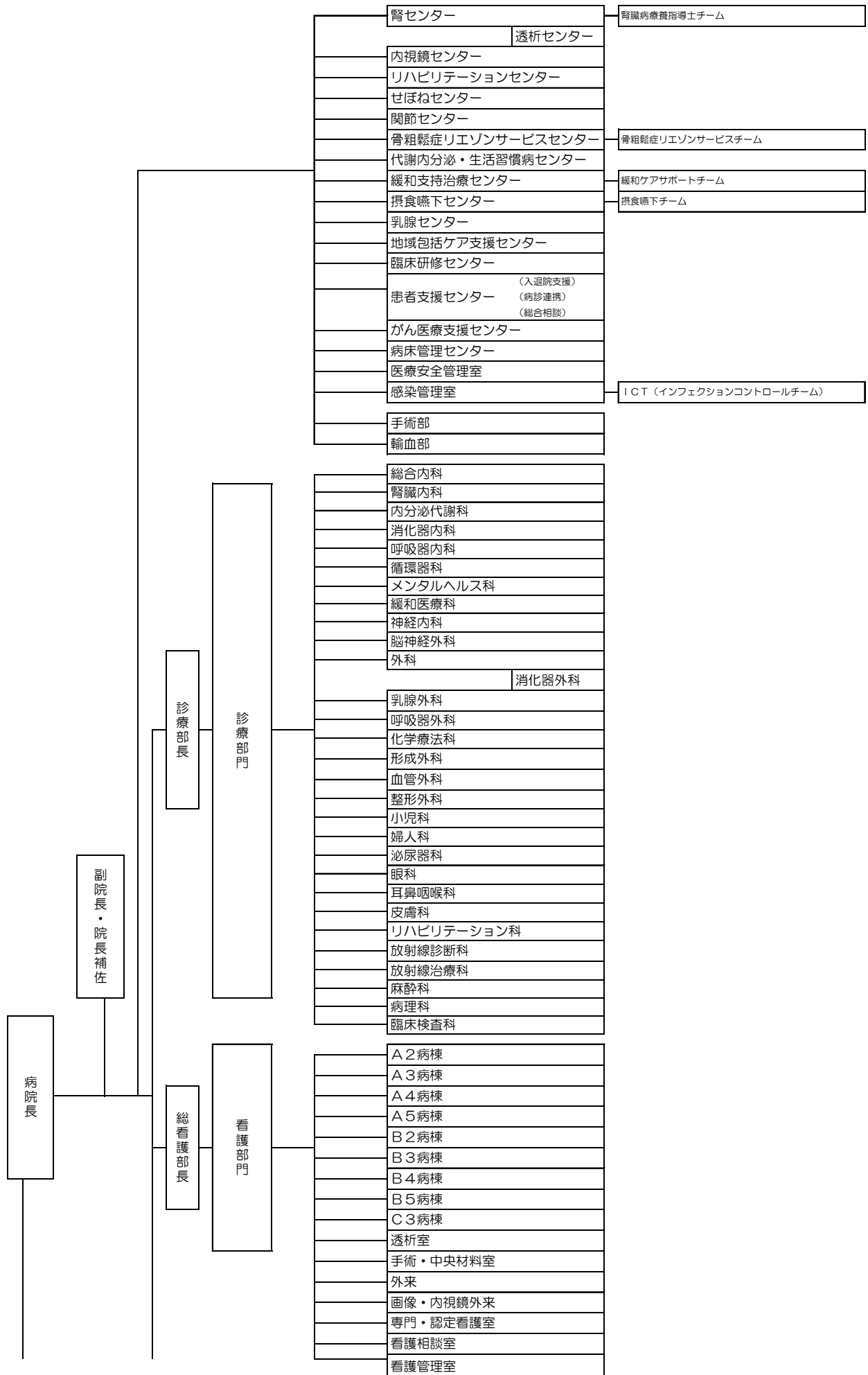
看護職員処遇改善評価料 40

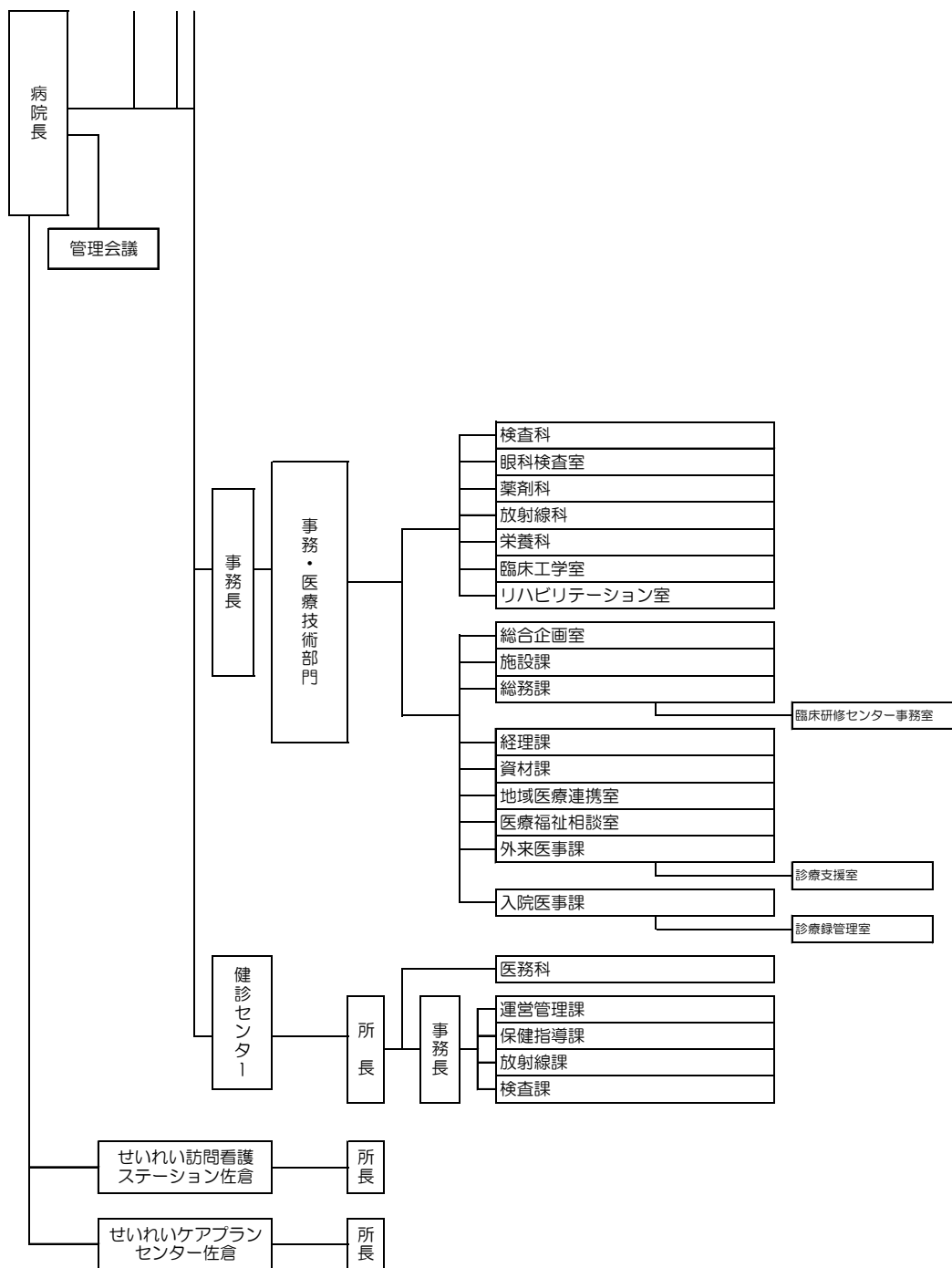
外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）

入院ベースアップ評価料 61

2026年度組織図

2026年4月1日





聖隷佐倉市民病院 施設概要

(2026年4月1日現在)

建物用途	病院
病床数	399床
規模	地上6階 SRC造(一部 S造)
敷地面積	42,956.55㎡
建築面積	病院 17,277.37㎡
延べ床面積	病院 42,769.17㎡

設備概要

電気設備			
契約種別	業務用季節別時間帯別電力		
契約電力	1,900KW (常用・予備用2回線受電)		
供給電気方式	交流3相3線式		
供給電圧	6,600V		
供給変電所	(常 用 線) 佐倉変電所 (予備電源) うすい変電所		
供給配電線路	(常 用 線) 江原線 (予備電源) 間野台線		
非常用発電設備 (A号館)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機		1 基
	容量=400 kVA 出力=376kw 電圧=200V		
	燃料 灯 油 燃料消費量 110ℓ/h サービスタンク 500ℓ		
(B号館)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機		1 基
	容量=450 kVA 出力=387kw 電圧=200V		
	燃料 灯 油 燃料消費量 102ℓ/h サービスタンク 500ℓ		
(C号館)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機		1 基
	容量=625 kVA 出力=544kw 電圧=6,600V		
	燃料 灯 油 燃料消費量 152ℓ/h サービスタンク 390ℓ		
(透析・健診)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機		1 基
	容量=315 kVA 出力=272kw 電圧=200V		
	燃料 灯 油 燃料消費量 77ℓ/h サービスタンク 950ℓ		
地下タンク設備 (A・B・C共用)	地下埋設タンク式・灯油 20,000ℓ		1 基
	(透析・健診) 地下埋設タンク式・灯油 6,000ℓ		1 基
空調設備			
熱源系統			
空冷式熱源機	(A号館)	85kwモジュールチラー×3台	255 kW 1 基
	(B号館)	150kwモジュールチラー×3台	450 kW 1 基
冷温水機	(A号館)	ガス焚吸収式 (二重効用) 燃料 13A	352 kW 4 基
	(B号館)	ガス焚吸収式 (二重効用) 燃料 13A	352 kW 2 基
温水ヒーター	(A号館)	鋳鉄製無圧温水ヒーター (2回路) 燃料 13A	465 kW 2 基(水熱源兼用)
	(B号館)	鋳鉄製無圧温水ヒーター (2回路) 燃料 13A	466 kW 2 基(水熱源兼用)
冷却塔	(A号館)	開放式超低騒音白煙防止角型 (冷温水機用)	1,275 kW 2 基
		開放式超低騒音白煙防止角型 (熱交換器用)	795 kW 1 基
(B号館)		開放式超低騒音白煙防止角型 (冷温水機用)	1,183 kW 1 基
		開放式超低騒音白煙防止角型 (熱交換器用)	823 kW 1 基
熱交換器	(A号館)	プレート型 (熱源水冷水系統)	851 kW 1 基
		プレート型 (熱源水温水系統)	388 kW 1 基
(B号館)		プレート型 (熱源水冷水系統)	740 kW 1 基
		プレート型 (熱源水温水系統)	322 kW 1 基
冷温水機	(手術棟)	冷却塔一体型ガス焚吸収式 (二重効用)	352 kW 2 基
		無圧缶式ヒーター 燃料 13A 缶体349kW	220 kW 2 基(給湯兼用)
空調機系統			
(A号館)		エアハンドリングユニット外調機	19 台
		ファンコイルユニット (4管式)	67 台
		水熱源エアコン (ダイキン)	室外機 26台 室内機 229 台
		空冷マルチエアコン(透析センター)	室外機 8台 室内機 35 台
		フロアヒーティング設備 (透析センター床暖房・業務用蓄熱調整契約)	
		総電力量 57.44kW 総加熱面積 230.4㎡ 設計発熱量 250W/㎡	
(B号館)		エアハンドリングユニット外調機	16 台
		水熱源エアコン (ダイキン)	室外機 24台 室内機 195 台
		空冷マルチエアコン (放射線・健診・栄養 室外機 11台 室内機 85 台	
		空冷パッケージエアコン (放射線・栄養)	15 台
(C号館)		空冷式ルームエアコン	室外機 268台 室内機 387 台
(手術棟)		エアハンドリングユニット外調機	19 台
		ファンコイルユニット (4管式)	61 台
		空冷ヒートポンプエアコン	4 台
		空冷マルチエアコン	室外機 1台 室内機 4 台
(洗濯室)		ガスヒートポンプエアコン	室外機 1台 室内機 6 台
(透析・健診)		空冷ヒートポンプエアコン	室外機 5台 室内機 125 台
		パッケージ型空調機	室外機 8台 室内機 8 台
脱臭装置	(A号館)	オゾン発生装置 2台 吹出口 480個	
	(B号館)	オゾン発生装置 2台 吹出口 419個	
	(手術棟)	2台 吹出口 72個 (内 放射線治療室内 単独オゾン発生器 1台)	
給排水衛生設備			
給水設備			
	給水本管	150mm 引込み管 75mm	
	井戸	井戸口径 150mm 掘削深度 90m 水中ポンプ 2.2kW 揚水管 25A	
	浄水装置	光酸化装置 除鉄・除マンガン装置 活性炭ろ過装置 U F モジュール	
	原水槽	処理水槽 薬注装置	
	受水槽	槽容量 168㎡ 有効容量 134.4㎡	
(A号館)	加圧給水ポンプ装置	水量 1100ℓ/min 設定揚程 42m	
(B号館)	加圧給水ポンプ装置	水量 1100ℓ/min 設定揚程 50m	
(C号館)		水量 700ℓ/min 設定揚程 25m	
給湯設備	(A号館)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW 2 基
		貯湯槽 3,500ℓ 縦型	1 基
(B号館)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 3,333ℓ/h	233kW	2 基
	貯湯槽 3,000ℓ 縦型		2 基
(C号館)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	3 基
(手術棟)	無圧缶式ヒーター 燃料 13A 給湯量 1,823ℓ/h	106kW	2 基(空調兼用)
(医局棟)	ガス瞬間湯沸器 50号 燃料 13A	108kW	2 基
(外来棟)	ガス瞬間湯沸器 50号 燃料 13A	91.9kW	1 基
(透析・健診)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	2 基
排水設備			
	汚水雑排水と雨水の分流方式		
	グリストラップ 1槽 R I 処理槽 湧水槽 中和槽 透析中和槽		

給蒸設備						
(滅菌用)	簡易貫流ボイラー	燃料13A	相当蒸発量250kg/h	熱出力157kW	2	基
(洗濯室)	簡易貫流ボイラー	燃料13A	相当蒸発量 60kg/h	熱出力37. 6W	2	基
医療ガス設備						
液化酸素供給装置	C E 5 型 貯蔵量	5, 114kg	処理量	27. 8m ³ /日	1	基
圧縮空気供給装置	コンプレッサー			3. 7kW	4	台
吸引供給装置	吸引ポンプ			A 号館用 3. 7kW	2	台
				B 号館用 5. 5kW	2	台
				C 号館・手術棟用 1. 5kW	2	台
笑気ガス供給装置	30kg型			1列	4	本立
窒素ガス供給装置	7000ℓ型			2列	16	本立
予備酸素供給装置	7000ℓ型			2列	24	本立
医療ガスアウトレット	酸素 855個 笑気 24個 空気 192個 吸引 850個 窒素 17個 非治療用空気 2個					
アイソレーショントランス	放射線科 2台 病棟 40台 手術室 10台					
防災設備						
G R 型受信機	監視点数 400, 000点 表示機能 最大 500画面					
	A 号館感知器 580個 B 号館感知器 575個 C 号館感知器 469個 医局棟 24個 手術棟 88個 透析・健診 155個 院内保育所 20個 看護宿舍 104個					
スプリンクラー (A 号館)	ポンプ 水量 750ℓ/min				1	基
	補助散水栓				33	基
(B 号館)	ポンプ 水量 750ℓ/min				1	基
	補助散水栓				31	基
(C 号館)	ポンプ 水量 900ℓ/min				1	基
	散水栓				13	基
(透析・健診)	補助散水栓				10	基
	総スプリンクラーヘッド数				4, 378	個
屋内消火栓ポンプ	水量 300ℓ/min				1	基
屋内消火栓					23	基
消防水槽	容量 12. 8m ³ 1槽(A 号館) 35m ³ 1槽(C号館)					
防火水槽	容量 40m ³ 3槽(正面玄関横、保育園横、看護宿舍横)					
消火器	粉末小型 122本 粉末大型 6本 強化液小型 150本 二酸化炭素小型 3本					
窒素消火設備					4	系統
ハロゲン化物消火設備					2	系統
二酸化炭素消火設備					2	系統
フード等用簡易自動消火装置 (B 号館)					7	系統
排煙設備 (A 号館)	排煙機能力 30, 100m ³ /h ×15. 0kW				1	台
(B 号館)	排煙機能力 28, 000m ³ /h ×15. 0kW				1	台
(C 号館)	排煙機能力 26, 000m ³ /h ×18. 5kW				1	台
昇降搬送設備						
昇降機 (A 号館)	一般/寝台用				2	基
	業務用				2	基
(B 号館)	一般/寝台用				2	基
	配膳用				1	基
(C 号館)	一般/寝台用				2	基
	乗用				1	基
(健診センター)	一般/寝台用				1	基
エアシューター (A 号館系統)	φ 150型 17ステーション＋サービステーション				1	系統
(B 号館系統)	φ 150型 7ステーション＋サービステーション				1	系統
弱电設備						
電話設備	電子交換機					
	多機能型電話機	実装	97 回線	現用	94	台
	一般電話機	実装	607 回線	現用	579	台
	I S D N局線	実装	8 回線	現用	8	回線
	アナログ局線	実装	16 回線	現用	16	回線
	リモートメンテナンス					
P H S 設備	電子交換機					
	P H S アンテナ	実装	200 回線	現用	158	回線
	P H S 電話機			現用	624	台
	ナースコール			現用	9	センター
ナースコール設備	デジタル式	ボード型親機	80 局		8	台
			40 局		1	台
自動制御	中央監視装置19型カラーディスプレイ 2SET (バックアップ)					
	最大管理点数3, 000点					

主な器械備品

病院

(2026年3月31日現在)

名 称	数	メーカ－	機 種
MRIシステム	2	GEヘルスケア・ジャパン	DiscoveryMR750w 他1台
マルチスライスCT	3	GEヘルスケア・ジャパン	Revolution Ascend 他2台
2検出器シンチレーションカメラ	1	GEヘルスケア・ジャパン	Infinia 3
X線TV装置	2	キャノンメディカルシステムズ 他	DREX-U180/06 他1台
フルデジタル血管X線撮影装置システム	2	島津製作所	Trinias C16 unity smart 他1台
マンモ撮影装置	1	富士フイルムメディカル	AMULET Innovality
外科用X線装置	3	GEヘルスケア・ジャパン	OEC BRIVO 785 他2台
X線骨密度測定装置	1	ホロシテック	Horizon A型
一般・ボータフル撮影 FPD(フラットパネル)システム	1	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart C 及び CALNEO GL1
ボータフル装置	4	富士フイルムメディカル 他	CALNEO GO 他3台
放射線治療システム	1	エレクタ	VERSA HD
マルチスライスCT(治療専用CT)	1	GEヘルスケア・ジャパン	Discovery RT
一般撮影装置	4	島津製作所	RAD speed Pro
PACS	1	富士フイルムメディカル	SYNAPSE
眼科診療支援システム	1	トプコン	IMAGEnetR4
共焦点走査型ライトレザ検査眼鏡	1	ニテック	Mirante
マルチカラーレーザー光凝固装置	1	ルミナス	ウーリア
光干渉眼軸長測定装置IOLマスター	1	カルツァイス	モテル700
視野計(コーロードマン型ヘリメーター)	1	Inami	L-1560
硝子体手術用機器	1	日本アルコン	コンステレーションLXTモテル
白内障手術装置	1	ジョンソン&ジョンソン	ベリタスビジョンシステム
内視鏡システム	5	富士フイルムメディカル、オリンパス	VT-318S、BL-7000、VP-7000、LL-7000 他
電子スコープ	29	富士フイルムメディカル、オリンパス	EG-760Z、EC760ZP、EC-L600ZP7/L、EG-L580RD7 他
超音波内視鏡	1	富士フイルムメディカル	EG-580UT
内視鏡洗浄機	7	富士フイルムメディカル、オリンパス	ESR-200、OER-4
高周波手術装置	15	コウアイエシ、アムコ 他	FT-10、ForceTriad、VIO3、VIO200S 他
手術用内視鏡システム	4	オリンパス、スミタントネフュー、ストルツ	LENS、VISERA ERITEⅡ、VISERA ERITEⅢ 他
神経機能検査機器	2	日本光電、ニューベイシブ	MEE-2000、M5
赤外線カメラシステム	1	浜松ホニクス	PDE-NEO
手術用レーザー	2	モリタ製作所、エタップ	レザウイン、Quanta Litho
手術台	8	マッケ、ミスホ	アルファマックス1133、MOT-VS600
その他手術台	6	アレン、スミタントネフュー	アレンスベイナルシステム、T-MAX、SPIDER
麻酔器	8	トレーゲル、GEヘルスケア・ジャパン	ファビウスGSプレミアム、ファビウスMRI、ファビウスTiro、エスティハブPro
0-armイメージングシステム	1	メットロニック	0-arm2
ナビゲーションシステム	3	メットロニック	ステルスステーションS8
手術用顕微鏡	3	ライカ、カルツァイス、ナカシマ	Lumera700、S88、SN-PN1
手術用ドライル	22	シンセス、シンマー、メットロニック 他	TRS、コリアリⅡ、サージエアトームⅡ、マイタスレックス
ガラスマ滅菌装置	1	ジョンソン&ジョンソン	ステラット100NX
高圧蒸気滅菌装置	2	サクラ精機	VSシリーズ
ウォッシャー・イスインフェクター	2	ベリメド	WD-290ND
生体情報モニター	68	日本光電 他	CSM1000、CSM1702、BSM6301、PVM4763 他
セントラルモニター	22	日本光電	CNS6101、CNS9601、WEP5208、WEP4208 他
人工呼吸器	8	ハミルトン、ドレーゲル 他	ハミルトンC1、NKV-330
輸液ポンプ	133	(株)ジェイエムエス、テルモ	IP-100D、OT-808、TE-131 他
シリンジポンプ	69	テルモ	TE-351、TE-371、TE-331 他
除細動器	10	日本光電	TEC5631、TEC5531 他
ラジオ波焼灼装置	1	メットロニック	CooltipRFAシステムEシリーズ
人工透析装置、個人用透析装置	101	日機装	DCS-100NX、DBB-100NX
透析液供給装置	3	日機装	DAB-50NX
A剤・B剤溶解装置	6	日機装	AHI-502、BHI-502
RO装置、個人用RO装置	2	JWS	DRO-EX485H、MZ-1
透析通信システム	1	日機装	FutureNetWeb
循環器用超音波診断装置	1	GEヘルスケア・ジャパン	Vivide9 ワークステーション 他1台
ハントフットクロスモニター	1	日立アロカ	MBR-551
自動染色装置	1	サクラファインテック	ティッシュテックプラスマ
超音波診断装置	6	GEヘルスケア・ジャパン	Logiq S8 with Xdclear×2 他4台
超音波診断装置	2	コニカミナoltaジャパン	SONIMAGE MX1
超音波診断装置	5	富士フイルムメディカル	ARIETTA850LE 他4台
超音波診断装置	1	フィリップス	EPIQCVx Transcend 3D
血液浄化装置	1	旭化成メディカル	ACH-Σ
電子式診断用スパイロメータ	1	フクダ電子	SP-790COPD
生理検査システム一式	1	フクダ電子	HIMEDSV1

名 称	数	メーカ－	機 種
多機能心電計	4	フクダ電子	FCP-8800
ハンフリーフィルドアナライザー	2	カルツァイス	HFA740、HFA3
ホルター解析装置	1	日本光電	
血圧脈波検査装置	1	フクダ電子	パセラVS-2500システム
ストレステストシステム一式	1	フクダ電子	
聴力検査計	1	モリタ製作所	インビードシステム SI-50I 他1台
自動採血管準備装置	1	テクノメディカ	BCROB08000RFID/T 62
凍結組織切片作製装置	1	サクラファインテック	ティシュー・テックボーターD
全自動化学発光酵素免疫測定機 ルミバールス	1	富士レリオ	ルミバールス G-1200
全自動輸血検査機 輸血管理システム	1	オソ	Ortho VISION
JMS舌圧測定器	2	(株)ジエイエムエス	TPM-02
自動免疫染色装置	1	タコ・シージャパン	AutostainerLink48
全自動錠剤分包機	1	トショー	Ci2000
安全キャビネット	1	日本エアーテック	BHC-T701Ⅱ A2
眼科用顕微鏡	1	カルツァイス	OPMI Visu210
ワタツチスライサー	1	中西製作所	OSI-06S
身体組成分析装置	1	SKメディカル電子	MLT-550N
ワイヤレス超音波画像診断装置 iViz air	1	富士フイルムメディカル	iViz air
浸透圧分析装置	1	日機装	OSA-33
血液凝固測定装置	1	トライテック	アタタライク(MINIⅡ)
血液凝固計	2	平和物産 他	アタタライクミニ
酵素クラスター除菌脱臭装置	1	カルモア	シルフィード2
自動浸透圧測定装置	1	アークレイ	オスモステーション OM-6060
血液検査用アンモニアキット	1	富士フイルムメディカル	富士トライケムスライト NH3-WⅡ
自動遺伝子解析装置	1	BECKMAN COULTER	Gene Xpertシステム

健診センター

名 称	数	メーカ－	機 種
胸部撮影装置	1	日立メディコ	DHF-155H4
一般撮影 FPD(フラットパネル)システム	1	コニカミノルタジャパン	CS-7
6CH解析付心電計	2	フクダ電子	FCP-7541
MRIシステム	1	GEヘルスケア・ジャパン	OptimaMR360 Advance 8ch
X線TV装置	2	キヤノンメディカルシステムズ	ZEXIRA
デジタルマンモグラフィシステム	1	富士フイルムメディカル	AMULET_ELITE
骨塩量測定装置	1	日立メディコ	DCS-600EXV
健診バス	1	日立メディコ	CLAVIS MOBILE ESPACIO
超音波診断装置	3	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8、S7
超音波診断装置	2	日立アロカ	ARIETTA60
超音波診断装置	1	TOSHIBA	aplio a450
超音波診断装置(婦人科)	1	コニカミノルタジャパン	SONOVISTA FX
自動採血管準備装置	1	テクノメディカ	BC・ROBO-888
自動採血管準備装置	1	テクノメディカ	BC・ROBO-900
解析付心電計	3	フクダ電子	FCP-8800
電子スパイロメーター	1	チェスト	マイクロスパイロHI-801
内視鏡システム	3	富士フイルムメディカル、オリンパス	VT-318S、BL-7000、VP-7000、LL-7000 他
電子スコープ	20	富士フイルムメディカル、オリンパス	EG-740N、EC-760ZP-V/M 他
内視鏡洗浄機	3	富士フイルムメディカル、オリンパス	ESR-200、OER-3
血圧脈派検査装置	1	フクダコーリン	form5
聴力検査計	1	リオン	AAK1B
無散瞳カメラ	1	TOPCON	TRC-NW400

2026年度 会議・委員会名簿

必須	時期	会議名称	開催日	医局	看護	医療技術	◎代表者	○副	△事務局
							事務		備考
		管理会議	原則第1・3火曜日 17：00～	院長、副院長、院長補佐	総看護部長、看護次長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総務課長		
		診療科責任者会	毎月最終月曜日 17：30～ (医局会終了後)	小谷、藤井、岸田、 有田、設楽、川上、川島、 宇井、徳山、村上、小池、 大島、手塚、稲原、 鈴木(繁)、金岡、笹井、 齊藤、山岸、佐久間、田中、 坂本(理)、廣橋、竹内、 木谷	総看護部長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総合企画室長、 総務課長		
		医局会	毎月最終月曜日 16：45～	全医局員	総看護部長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総務課長		
		全体課長会	毎月最終火曜日 16：00～	院長	総看護部長、看護次長、 各課長	各課長	事務長、事務次長、 各課長 (△総務課長)		

【必須】 1.施設基準 2.法的要件 3.事業団要件

必須	時期	運営会議名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
		手術室運営会議	毎月第1木曜日 16：30～	◎岸田、○川島、佐久間、 設楽、藤井、小池、稲原、 金岡、宇井、坂本、竹内、	前岡	石橋、葛巻、掛谷	△柄澤 塚本	*必要時に医事
		腎センター運営会議	必要時開催	◎藤井	高橋(由)、横内	八木、阿部(拓)、福元、 飯塚、堀井、石口	△石井	
		腎戦略ミーティング	偶数月水曜日	鈴木(理)、藤井、 田中(宏)、寺崎、松永、 越坂、山内	高橋(由)、山本 (真)、折山、松信、 田村、長谷川(裕)、 太田、横内、山岸	八木、阿部(拓)、福元、 飯塚、堀井、小倉、 飯塚(光)、田畑	石井、田中、早山、則松	
		リハビリセンター運営会議	奇数月	◎高橋、南	由井、石谷	白井、加藤木、△穴倉、 奥村	横内	
		内視鏡センター運営会議	偶数月金曜日 16：30～	◎齊藤(将)、○矢挽、 小池、住吉、武内、大城、 吉川、坂本(大)	△小笠原、矢崎	新井	佐久間	
		外来フロア運営会議	奇数月 16：30～	◎川島、田中(宏)	小笠原、高橋(由)、 山岸、浦辺	片岡、奥村、原田、西村、 藤田	御手洗、小島、山口、 菅谷、△近藤(奈)	
		生活習慣病センター 運営会議	必要時開催	◎久保田	高橋(弥)、横内、 長谷川(裕)	戸巻、加藤(貢)、大野、 飯塚(光)	△笹岡	
		放射線科運営会議	必要時開催		小笠原	△園田、八木	石野	
		健診センター運営会議	毎週金曜日 16：15～	◎有田、久保田、太田、 鈴木(友)	山脇(健診)、 金子(健診)	佐藤(美)、芹山、檜、 田代	△田代、原、鈴木(君)、 杉山、田中	
		透析センター運営会議	毎月1回	◎寺崎、藤井、田中(宏)	高橋(由)、松信、井上	○八木、阿部(拓)、 福元	△源間	*必要時：飯塚
		乳腺センター運営会議	毎週木曜日 16：05～	◎川島、木谷、佐塚、 笹井、川上	小松崎、岩本、辰野	三和	吉行、△小原	
		地域包括ケア病棟運営会議	偶数月第3火曜日 16：30～	◎高橋、手塚、山内、 佐久間	◎石谷、折山、横内、 神子、岩崎、竹澤(訪看)、 山岸	小原	△岡本(晴)、滋野 逸崎、 加藤(雄)、石井	高木(ケアプラン ン)
		緩和ケアチーム運営会議	年4回	◎村上、川上、木谷	関、小松崎、鎌田	土屋、村本、桑原	△樋口(由)、加藤(雄)、 杉本	*必要時： 竹澤(訪看)
		患者支援センター運営会議	必要時開催	岸田、◎矢挽	吉田(仁)、神子、 山本(真)、岩崎	北田	石井、鈴木(恭)、 近藤(奈)、小松、△小原	
		骨粗鬆症リエゾン サービスセンター運営会議	毎月第1金曜日 17：00～	小谷、藤井、岸田、飯島、 山内、越坂	○藤田、○木村(弘)、 阿部、由井、大西(健診)	加藤木、◎鈴木(諒)、 安、石田、亀元、若井	近藤(奈)、青柳	
		乳腺センター運営会議	毎週木曜日 16：05～	◎川島、木谷、佐塚、 笹井、川上	小松崎、宮崎、辰野	三和	吉行、△小原	
		循環器チーム運営会議	奇数月第1火曜日 17：15～	◎徳山	△穴倉、田中(美)、 崎、木内	○金崎、渡邊(強)、檜、 藤田、三嶽、加藤木、 ○中條、高山	樋口(明)	
1		がん医療支援センター 運営会議	年3回程度17：00～	◎木谷、小池、川上、 村上、矢挽、稲原、山岸、 岸、笹井、廣橋	吉田(仁)、石井、小松崎、 鎌田、矢崎、河野	金子、清水、中嶋(宏)、 福山、秦野	△中島、石井、菅谷、 田中、 加藤(雄)、鈴木(恭)	
		聖隷佐倉キャンサーボード WG	必要時開催	◎木谷、矢挽、稲原、 廣橋	吉田、伊豆	△金子、天野	中島、小原	

【必須】 1.施設基準 2.法的要件 3.事業団要件 ※ 開催時期が「定期的」の委員会・会議は最低でも3月に1回程度開催

必須	時期	委員会名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
1	月1回	医療安全管理委員会	毎月最終月曜日 15：45～	◎大島、田中(宏)、 佐久間、矢挽	○加藤(和)、石谷 竹澤(訪看)、 高木(ケアセンター)	舍川、富田、園田、 八木、大竹(梨)	弘島、△菅谷、加藤(雄)、 田代	
1	月1回	医療安全報告書確認チーム	必要時開催 (1回／月以上)	◎笹井、大島、瀬戸	加藤(和)	△園田、舍川		
1	月1回	医療機器安全管理委員会	毎月最終月曜日 15：30～	大島	加藤(和)	◎八木、富田、園田、 舍川		
1	月1回	感染対策委員会	毎月第3月曜日 16：45～	小谷、小池、久保田 竹内、飯島、山内、 ◎山岸	中野、浦辺(憲)、 金子(健診) 竹澤(訪看) 高木(ケアセンター)	△舍川、佐藤(希)、 石野、高石、平野、 土屋、富田	石野、岡野(力)、原、 保科、柄澤、久保木	
2	月1回	衛生委員会	毎月第3月曜日	小谷、○小池、久保田、 竹内	中野、浦辺(憲)、 宮崎(健診)	舍川、高石、土屋、富田	◎石野、竹澤、 △岡野(力)、久保木、 原、保科	

必須	時期	委員会名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
1	定期的	褥瘡対策委員会	毎月第3月曜日 16：00～	◎宇井、飯島	○青木、高野 リンクナース A2：荻原 A3：五関 A5：小山 B2：上月 B3：大澤 B4：櫻井 B5：林田 HD：池永 OR：吉川 C3：小出	穴倉、大木、宮森	△吉行	
2	年1回	医療ガス設備安全委員会	年1回	◎設案、岸田	前岡	△八木、大木	加藤（寛）	
1	定期的	診療録管理委員会	奇数月第3木曜日 16：30～	◎藤井、岸田、 鈴木（繁）、武内	由井、吉田（仁） 加藤（医療安全）	柳沢、藤木、三和	竹澤、市川、堀口、△吉行	
1	年6回	輸血療法委員会	偶数月第4木曜日	◎大島、飯島	北田、前岡、四宮	△石口、佐藤、月田、 北田（純）	小原	
1	定期的	臨床検査適正化委員会	隔月開催	◎笹井、徳山	高橋（由）	舍川、大竹、芹山、 △佐藤	松本	
1	定期的	臨床研修管理委員会	4ヶ月に1回 （年3回）開催	◎鈴木（繁）、小谷、 岸田、藤井、徳山、 齋藤（特）、小池、田中、 笹井、山岸、廣橋	中野	八木、舍川、富田、園田、 安、白井	△梅井、中村、石野	初期研修医
1	年4回	DPC対策委員会	必要時開催	◎岸田、小池、木谷、 齋藤（特）	高橋（弥）	仙台、富田、園田	△加藤（雄）、小原、吉行、 則松、菅谷、高部	5、8、11、2月 の第2火曜日 16：30開催
1	年1回	化学療法委員会	毎月第1月曜日 17：15～	◎小池、稲原、 齋藤（特）、木谷、廣橋	石井、長谷川、卯野、 小松崎	△天野、中嶋、秦野、 清水	佐久間、五十嵐	外部委員：篠崎
1	年3回	職員処遇改善委員会	必要時開催	◎岸田、久保田、 寺崎（紀）	○中野、 加藤（医療安全）	舍川、園田、八木、 富田、安	△菅谷、大畑、近藤（肇）	
2	定期的	栄養委員会	偶数月第2木曜日 15：30～	◎藤井	石井、青木	△安、金崎、安 松田、吉村、宮森	五十嵐	
		NST運営会議	毎月第2木曜日 16：00～	◎藤井、武内、大島、 高橋	石井、青木 各病棟から選出 A2：伊藤 A3：藤田 A5：斉藤 B2：八川 B3：大澤 B4：木内 B5：塚本 C3：川原	△宮森、吉永、桐谷、 松田、五十嵐、増田、 川上	五十嵐	
		事例検討委員会	事例発生時	◎小谷、大島	中野、加藤（医療安全）	八木	△弘島、石野、滋野	
		薬事委員会	奇数月 17：00～	◎藤井、佐久間、鈴木（繁）、 小池、村上、川島、 齋藤（特）、稲原、山岸、 竹内、廣橋	加藤（医療安全）	△富田、高山	川元	
		購入委員会	毎月1回		中野、前岡	中條	◎石野、△岡野（房）、 弘島、御手洗	
		防災委員会	毎月1回	鈴木（繁）	河野（寿）、伊藤（真）、 板倉	藤田、阿部（浩）、小林、 葛巻、藤井、阿部（拓）	◎石野、△矢澤、樋口、 岡本、岡野、源間、橋本、 伊藤（由）	
		減免委員会	3ヶ月に1回	◎小谷	中野		◎石野、△本宮、滋野、 御手洗	
		医療の質検討委員会	毎月第2水曜日 17：00～	◎田中（宏）、越坂	山岸、吉田（仁） 加藤（医療安全）、神子	佐藤（美）、佐藤（希）、 吉村	△矢澤、中島、菅谷、滋野	
		倫理委員会	奇数月第3水曜日 16：30～	小谷、◎藤井	中野、高野	八木、富田	△田中、石野	外部委員2名
		研修委員会	毎月第3水曜日 15：00～		浦辺	◎白井、大竹、飯塚、 ○園田、中條、吉村	△田代、御手洗、鶴澤、小原、 鈴木（麻寿）	
		院内学会実行委員会	必要時開催	田中（宏）、廣橋	浦辺	◎白井、大竹、飯塚、 ○園田、中條、吉村	△田代、御手洗、鶴澤、小原、 鈴木（麻寿）	
		クリニカルパス委員会	毎月第4金曜日 17：30～	◎小池、坂本（大）	小松崎、河野（寿）	桑原	△則松、榎本、川元	
		接遇委員会	毎月第3金曜日 16：45～	久保田、坂本（大）	矢崎	○小林、七五三木、杉田、 長谷川、薄田、新井、齋藤	◎田代（律）、△小倉、 和田	
		個人情報保護委員会	必要時開催	◎小谷	○中野	塚本（悟）	石野、△加藤（雄）、梅井、 竹澤、逸崎	
		図書委員会	必要時開催	◎川上、佐久間	高野		△柄澤、御手洗	
3	年2回	安全運転委員会	必要時開催		伊豆	白井	◎矢澤、酒井、中村、 △加藤（寛）	
		エコ推進委員会	四半期に1回開催 （年4回開催）			栗原	◎石野、△鶴澤、柄澤、 星名、山内	4、7、10、1月 開催予定
		ボランティア委員会	偶数月第2月曜日	◎鈴木（繁）	岩崎	小原	住江、加藤（寛）、椎名、 △竹内、川口	
		救急委員会	毎月第4木曜日 16：00～	◎齋藤（特）、大島、吉川、 伊勢、松永	吉田（仁）、山岸、浦辺、 小笠原	塚本、堀井、芹山	△弘島、近藤（肇）、山口	
		情報システム委員会	毎月第2木曜日 16：30～	◎岸田、川島	吉田（仁）、小松崎	高山、向井	△竹澤、加藤（雄）、田中（秀）、 住江、石川、堀口	
2		放射線防護委員会	必要時開催	◎瀬戸、○川上	小笠原	△金子、園田、高石、 佐藤（美）、塚本、石橋		
1	年2回	放射線治療品質管理委員会	必要時開催	◎川上、川島	矢崎、小笠原	○園田、△金子、戸塚	石野、弘島	*外部委員1名
		広報委員会	必要時開催		四宮、横内、北田	清水、伊藤、花香、秦野、 藤浪、阿部	◎田中、梅井、清水嶋、 加藤（理）、鈴木（麻寿）、 佐々木、大野、△則松、 △早山	

職 種 別 人 員

2026. 4. 1

単位：人

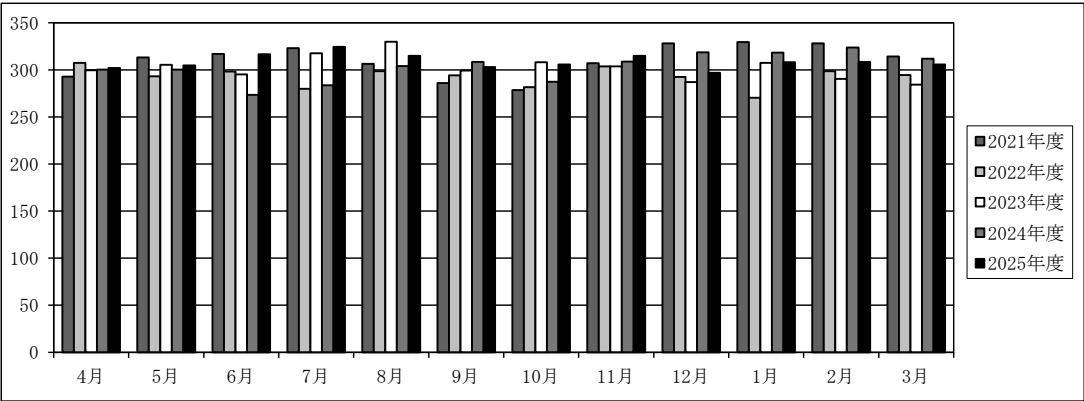
職種	正職員		エルダー・パート	計
	ブロック・地域総合	地区限定		
医師	59	0	0	59
看護師	278	6	60	344
准看護師	0	0	1	1
保健師	5	0	1	6
看護助手	0	32	32	64
クラーク	0	29	3	32
栄養士	1	3	0	4
管理栄養士	11	1	2	14
調理師	3	3	0	6
調理助手・洗浄員	0	0	19	19
薬剤師	23	0	1	24
薬剤助手	0	0	2	2
臨床検査技師	23	3	2	28
診療放射線技師	28	0	0	28
臨床工学技士	39	0	0	39
事務員	30	49	42	121
診療録管理士	0	4	0	4
施設員	3	0	0	3
理学療法士	25	0	1	26
作業療法士	7	0	0	7
言語聴覚士	2	0	0	2
歯科衛生士	2	0	0	2
視能訓練士	5	1	2	8
視能訓練助手	0	0	2	2
相談員	4	1	0	5
洗濯員	0	0	1	1
保育士	0	4	3	7
保育補助	0	0	0	0
救急救命士	0	0	0	0
介護支援専門員	2	1	0	3
計	550	137	174	861

※せいいい訪問看護ステーション佐倉・せいいいケアプランセンター佐倉を含む
 ※欠勤・休職者含む

病院統計

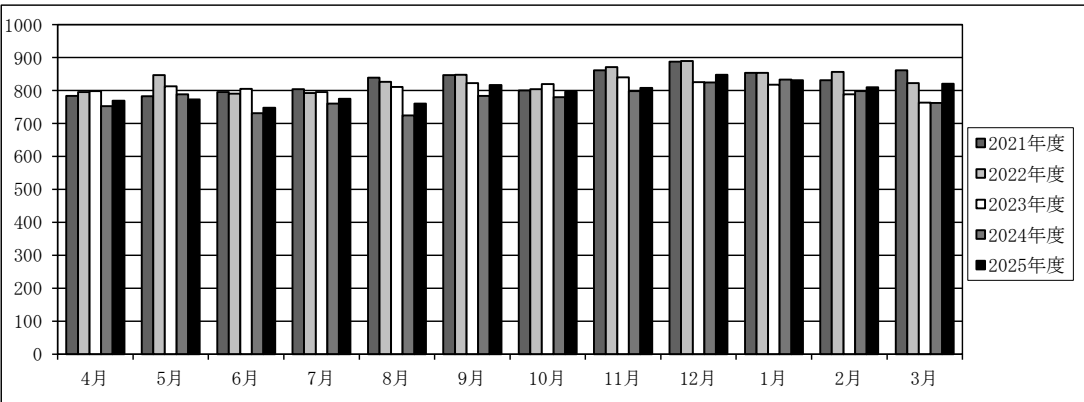
●1日平均入院患者数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	292.7	313.3	317.1	323.1	306.3	286.1	278.5	306.9	328.2	329.4	328.1	314.2	310.3
2022年度	307.4	293.0	298.2	279.9	298.5	294.3	281.7	303.5	292.4	270.4	298.6	294.5	292.6
2023年度	299.6	305.3	295.3	317.6	329.8	299.1	308.2	303.5	287.0	307.5	290.4	284.2	302.4
2024年度	300.2	300.3	273.5	283.7	304.1	308.5	287.5	308.6	318.7	318.3	323.9	312.0	303.2
2025年度	302.1	304.7	316.7	324.5	315.0	303.1	305.9	314.9	297.0	308.0	308.5	305.6	308.8



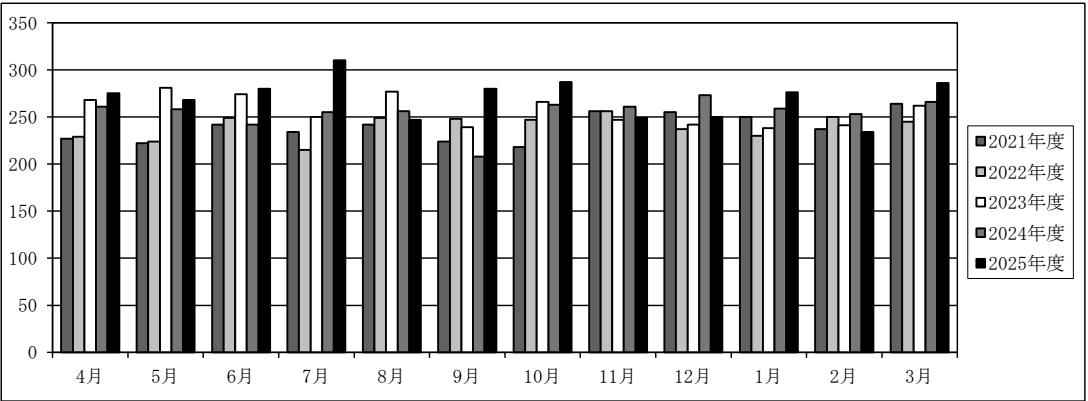
●1日平均外来患者数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	784.1	783.0	795.6	803.8	839.4	847.2	800.5	861.7	887.1	853.2	831.5	861.2	828.7
2022年度	795.7	846.5	790.8	792.6	826.7	847.5	804.0	870.6	889.9	853.7	856.7	822.7	832.1
2023年度	797.8	813.2	805.1	795.0	810.5	822.8	819.6	840.3	825.9	817.2	788.2	763.5	808.1
2024年度	752.8	788.7	731.6	760.2	724.6	783.7	779.7	798.6	824.0	833.3	798.5	762.2	777.0
2025年度	769.2	773.3	747.7	775.3	760.0	816.3	796.7	808.0	848.2	831.0	810.1	820.8	795.7



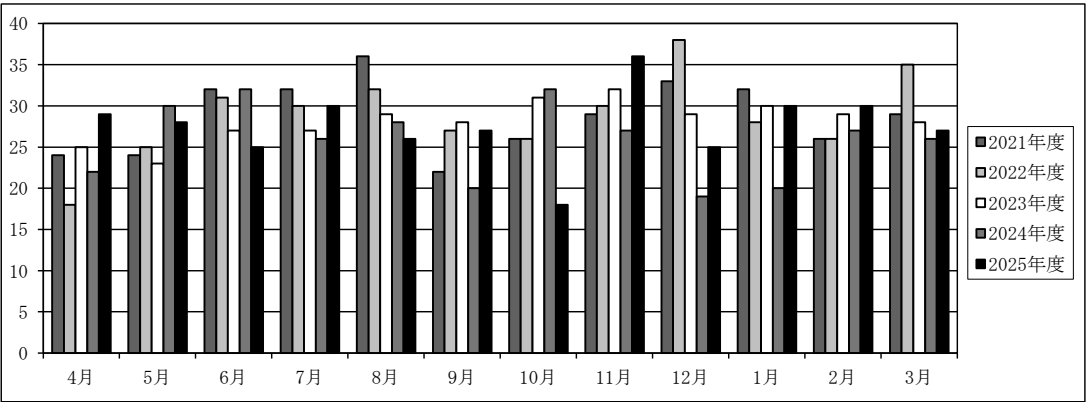
●入院手術件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	227	222	242	234	242	224	218	256	255	250	237	264	239.3
2022年度	229	224	249	215	249	248	247	256	237	230	250	245	239.9
2023年度	268	281	274	250	277	239	266	247	242	238	241	262	257.1
2024年度	261	258	242	255	256	208	263	261	273	259	253	266	254.6
2025年度	275	268	280	310	247	280	287	249	250	276	234	286	270.2



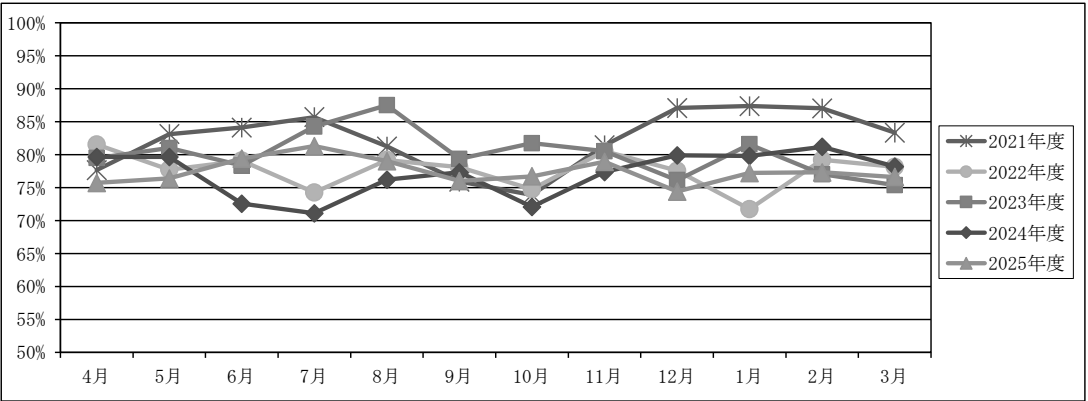
●外来手術件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	24	24	32	32	36	22	26	29	33	32	26	29	28.8
2022年度	18	25	31	30	32	27	26	30	38	28	26	35	28.8
2023年度	25	23	27	27	29	28	31	32	29	30	29	28	28.2
2024年度	22	30	32	26	28	20	32	27	19	20	27	26	25.8
2025年度	29	28	25	30	26	27	18	36	25	30	30	27	27.6



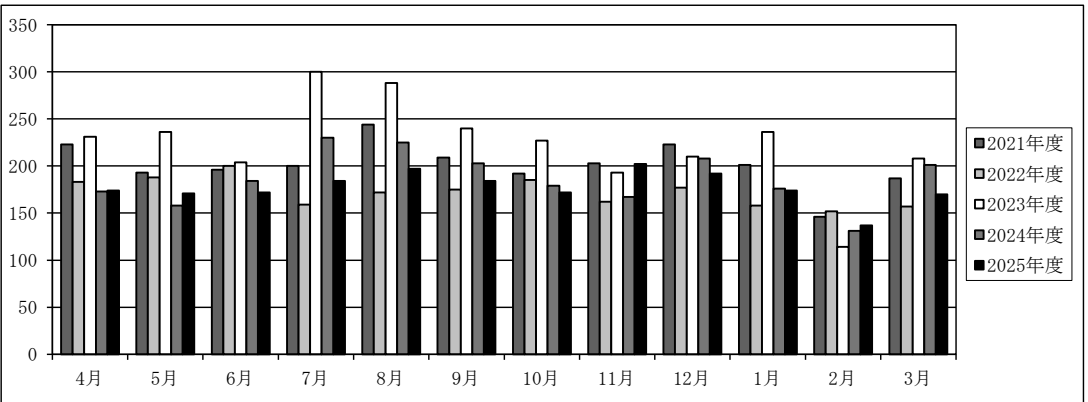
●病床稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	77.6%	83.1%	84.1%	85.7%	81.2%	75.9%	73.9%	81.4%	87.1%	87.4%	87.0%	83.3%	82.3%
2022年度	81.5%	77.7%	79.1%	74.3%	79.2%	78.1%	74.7%	80.5%	77.6%	71.7%	79.2%	78.1%	77.6%
2023年度	79.5%	81.0%	78.3%	84.2%	87.5%	79.3%	81.7%	80.5%	76.1%	81.6%	77.0%	75.4%	80.2%
2024年度	79.6%	79.6%	72.5%	71.1%	76.2%	77.3%	72.1%	77.4%	79.9%	79.8%	81.2%	78.2%	77.0%
2025年度	75.7%	76.4%	79.4%	81.3%	79.0%	76.0%	76.7%	78.9%	74.4%	77.2%	77.3%	76.6%	77.4%



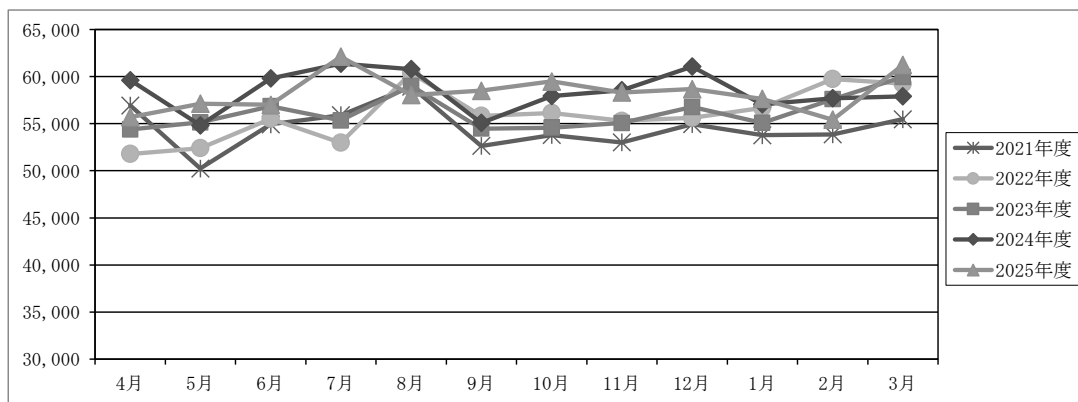
●救急車搬入件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	223	193	196	200	244	209	192	203	223	201	146	187	201.4
2022年度	183	188	200	159	172	175	185	162	177	158	152	157	172.3
2023年度	231	236	204	300	288	240	227	193	210	236	114	208	223.9
2024年度	173	158	184	230	225	203	179	167	208	176	131	201	186.3
2025年度	174	171	172	184	197	184	172	202	192	174	137	170	177.4



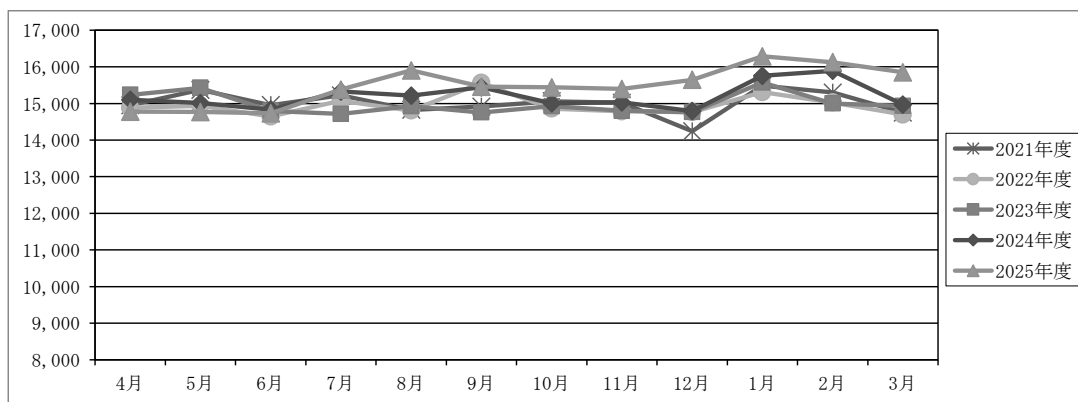
●入院平均単価推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	56,938	50,244	54,931	55,906	58,934	52,638	53,804	53,002	54,959	53,780	53,851	55,472	54,548
2022年度	51,777	52,395	55,530	52,986	60,383	55,842	56,133	55,300	55,637	56,687	59,740	59,243	55,956
2023年度	54,387	55,136	56,845	55,340	59,005	54,464	54,583	55,069	56,767	55,089	57,610	59,962	56,188
2024年度	59,622	54,834	59,816	61,375	60,797	55,086	57,946	58,541	61,074	57,058	57,710	57,916	58,463
2025年度	55,702	57,119	56,999	62,111	58,045	58,504	59,486	58,322	58,664	57,634	55,417	61,230	58,317



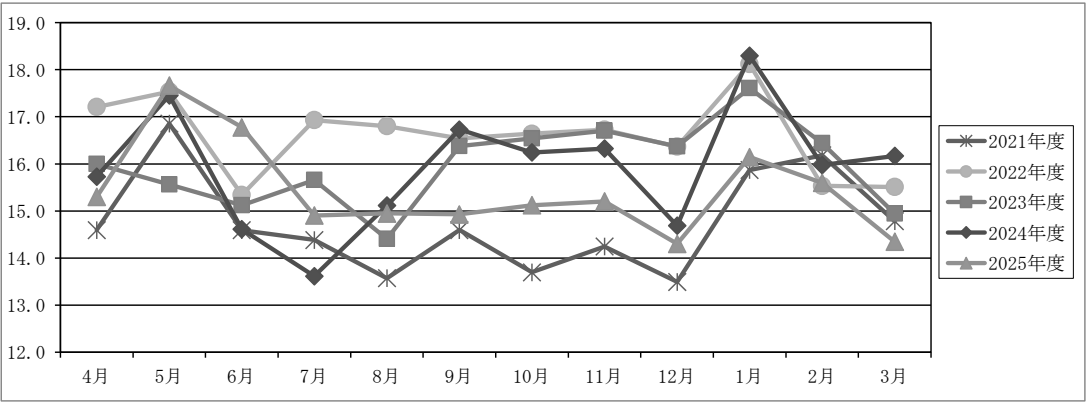
●外来平均単価推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	14,951	15,371	14,954	15,220	14,825	14,913	15,059	15,019	14,242	15,485	15,303	14,750	14,995
2022年度	14,879	14,932	14,645	15,071	14,807	15,558	14,859	14,785	14,764	15,309	15,026	14,700	14,940
2023年度	15,234	15,428	14,798	14,714	14,923	14,755	14,923	14,801	14,763	15,573	15,000	14,935	14,987
2024年度	15,099	15,011	14,833	15,327	15,214	15,443	15,005	15,030	14,791	15,756	15,890	14,970	15,191
2025年度	14,776	14,768	14,731	15,377	15,905	15,459	15,438	15,396	15,645	16,288	16,126	15,848	15,481



●平均在院日数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	14.6	16.9	14.6	14.4	13.6	14.6	13.7	14.2	13.5	15.9	16.2	14.8	14.7
2022年度	17.2	17.5	15.3	16.9	16.8	16.5	16.6	16.7	16.4	18.1	15.5	15.5	16.6
2023年度	16.0	15.6	15.1	15.7	14.4	16.4	16.5	16.7	16.4	17.6	16.4	14.9	15.9
2024年度	15.7	17.5	14.6	13.6	15.1	16.7	16.2	16.3	14.7	18.3	16.0	16.2	15.8
2025年度	15.3	17.7	16.8	14.9	14.9	14.9	15.1	15.2	14.3	16.1	15.6	14.3	15.4



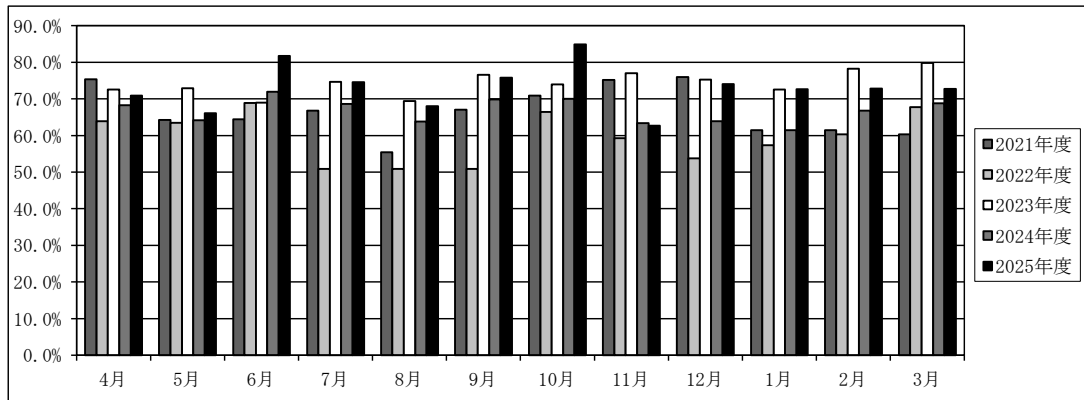
●病棟別在院日数

2025年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
A2病棟	8.3	8.6	8.2	8.3	8.9	8.2	8.1	8.1	7.1	9.0	8.8	6.8	8.2
A3病棟	24.6	23.8	27.6	22.7	17.9	18.8	23.6	22.0	21.7	25.1	24.4	20.4	22.5
A4病棟	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
A5病棟	14.6	18.3	16.5	16.6	26.7	18.0	15.5	17.4	15.3	18.3	19.5	15.1	17.3
B2病棟	8.2	9.3	8.8	9.8	9.6	8.8	8.8	10.3	8.5	8.9	8.7	9.5	9.1
B3病棟	19.7	27.4	23.8	17.2	13.8	18.7	17.9	17.5	17.7	22.6	18.7	16.3	18.7
B4病棟	15.4	17.6	15.4	18.1	16.1	14.9	17.3	16.4	17.5	20.3	17.8	16.9	16.9
B5病棟	12.0	17.4	16.2	12.9	14.1	16.1	13.0	14.0	10.8	15.1	14.8	14.2	14.0
C3病棟	/	/	/	/	/	/	/	17.6	18.6	23.1	34.4	26.8	23.3

●紹介率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	75.3%	64.2%	64.4%	66.8%	55.4%	67.0%	70.9%	75.2%	75.9%	61.5%	61.4%	60.3%	66.6%
2022年度	63.9%	63.5%	68.9%	50.9%	50.9%	50.9%	66.4%	59.2%	53.8%	57.3%	60.3%	67.7%	59.2%
2023年度	72.6%	72.9%	69.0%	74.6%	69.4%	76.6%	73.9%	77.0%	75.3%	72.5%	78.2%	79.8%	74.1%
2024年度	68.3%	64.2%	71.9%	68.6%	63.8%	69.8%	70.0%	63.4%	63.9%	61.5%	66.8%	68.8%	66.6%
2025年度	70.8%	66.1%	81.8%	74.6%	68.0%	75.8%	84.9%	62.7%	74.1%	72.6%	72.8%	72.7%	73.1%



●診療科別紹介率

2025年度

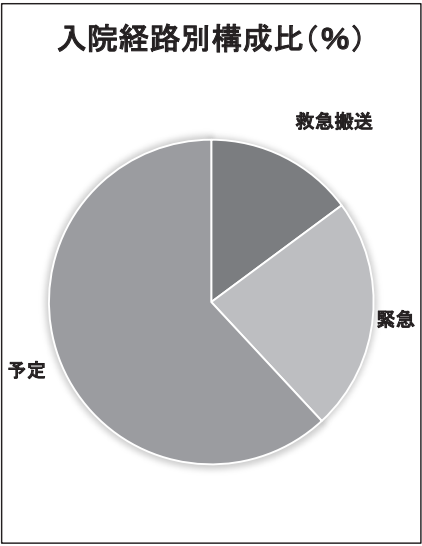
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
内科	8.3%	/	7.7%	3.6%	4.0%	/	11.1%	/	3.6%	2.4%	13.9%	8.3%	4.1%
腎臓内科	72.8%	66.7%	66.3%	75.9%	75.6%	70.8%	93.7%	70.6%	74.3%	87.7%	75.9%	75.0%	75.3%
代謝内分泌科	50.0%	100.0%	62.5%	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	87.0%
呼吸器内科	81.8%	27.3%	110.0%	44.4%	40.0%	57.1%	50.0%	42.9%	33.3%	112.5%	80.0%	62.5%	61.0%
消化器内科	79.8%	82.9%	91.6%	87.6%	79.6%	89.9%	95.3%	80.6%	83.2%	82.7%	78.5%	70.9%	83.4%
総合内科	36.5%	21.4%	54.5%	58.2%	41.1%	58.0%	61.5%	51.3%	64.2%	37.9%	42.9%	50.9%	49.0%
循環器科	95.7%	82.6%	84.6%	82.4%	92.9%	90.9%	80.8%	90.5%	81.0%	87.5%	82.4%	75.0%	85.5%
神経内科	100.0%	100.0%	125.0%	100.0%	100.0%	/	50.0%	100.0%	100.0%	/	/	100.0%	100.0%
小児科	61.8%	39.0%	90.7%	79.3%	69.1%	46.7%	34.3%	37.5%	42.5%	39.1%	50.0%	32.0%	54.7%
外科	55.9%	37.9%	38.5%	48.8%	44.1%	58.8%	33.3%	68.8%	45.0%	50.0%	57.7%	75.0%	48.5%
乳腺外科	71.9%	72.7%	100.0%	69.4%	73.3%	73.8%	106.1%	63.6%	84.5%	76.9%	93.3%	76.5%	79.1%
血管外科	80.0%	66.7%	66.7%	82.4%	81.3%	77.8%	433.3%	80.0%	60.0%	66.7%	72.7%	90.9%	84.6%
皮膚科	/	15.4%	53.8%	53.3%	12.5%	37.5%	37.5%	25.0%	40.0%	10.0%	13.3%	37.5%	28.1%
整形外科	88.3%	91.2%	90.0%	91.4%	93.8%	90.2%	86.3%	93.9%	102.0%	102.7%	98.8%	91.0%	92.6%
脳神経外科	29.4%	31.3%	56.3%	43.8%	57.1%	52.0%	34.3%	45.2%	46.9%	42.1%	57.7%	60.0%	45.5%
呼吸器外科	100.0%	100.0%	84.6%	100.0%	95.8%	90.0%	160.0%	87.0%	100.0%	90.5%	85.7%	93.3%	96.5%
泌尿器科	80.0%	63.6%	90.9%	68.0%	68.0%	83.3%	116.0%	61.1%	75.0%	73.3%	75.0%	62.5%	76.7%
眼科	78.3%	78.6%	75.6%	77.8%	60.0%	77.3%	74.0%	92.3%	86.8%	78.9%	65.4%	80.9%	77.0%
耳鼻咽喉科	44.4%	38.7%	62.5%	48.6%	30.0%	55.8%	51.1%	55.6%	57.5%	53.7%	46.4%	37.9%	48.4%
放射線診断科	100.0%	100.0%	106.0%	98.9%	98.4%	97.6%	177.2%	98.1%	100.0%	100.0%	95.7%	100.0%	104.6%
放射線治療科	/	/	/	100.0%	100.0%	100.0%	/	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	100.0%	127.8%
リハビリテーション科	66.7%	/	/	/	/	75.0%	100.0%	/	50.0%	/	/	33.3%	59.3%
緩和医療科	100.0%	/	400.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%	81.8%	100.0%	100.0%	102.4%
和漢診療科	/	/	100.0%	/	/	100.0%	/	100.0%	/	/	100.0%	100.0%	85.7%
形成外科	68.0%	33.3%	127.3%	63.3%	82.6%	61.5%	64.0%	66.7%	75.0%	63.6%	85.7%	64.0%	69.6%
合計	70.8%	66.1%	81.8%	74.6%	68.0%	75.8%	84.9%	62.7%	74.1%	72.6%	72.8%	72.7%	73.1%

●診療科別逆紹介患者数
2025年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
内科	2	1	2	4	6	5	4	5	2	3	7	6	3.9
腎臓内科	46	42	56	46	35	35	42	41	39	48	33	39	41.8
透析科	9	6	7	6	9	4	8	12	9	10	7	14	8.4
代謝内分泌科	7	15	15	21	7	12	13	15	11	16	13	17	13.5
呼吸器内科	7	7	3	10	11	1	5	4	10	3	1	6	5.7
消化器内科	36	42	21	37	44	37	37	32	43	31	29	42	35.9
総合内科	6	13	8	12	5	9	8	2	3	9	9	6	7.5
循環器科	25	26	22	33	17	26	38	34	31	32	19	32	27.9
神経内科	11	4	2	3	2	5	3	3	2	1	2	3	3.4
メンタルヘルズ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
小児科	10	19	9	13	11	12	9	11	18	23	24	30	15.8
外科	27	19	15	34	24	17	28	33	27	28	17	20	24.1
乳腺外科	18	9	7	12	10	8	9	11	10	12	12	9	10.6
血管外科	1	1	1	3	2	3	3	3	2	11	2	1	2.8
皮膚科	7	5	5	7	5	2	2	3	4	1	3	5	4.1
整形外科	120	145	148	125	155	128	160	140	159	146	142	165	144.4
脳神経外科	24	17	17	24	15	11	8	14	18	17	26	20	17.6
呼吸器外科	12	13	19	15	13	15	18	16	9	12	11	14	13.9
泌尿器科	19	24	25	17	17	16	11	20	28	21	21	26	20.4
眼科	34	36	39	32	23	38	36	29	33	21	32	30	31.9
耳鼻咽喉科	15	8	8	16	11	11	16	9	13	17	11	18	12.8
放射線診断科	66	82	85	117	72	97	119	72	115	103	87	131	95.5
放射線治療科	0	0	1	4	9	1	1	3	3	0	0	1	1.9
リハビリテーション科	2	6	3	8	2	4	3	4	4	3	5	5	4.1
緩和医療科	2	5	1	1	5	3	2	0	3	0	0	2	2.0
和漢診療科	0	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0.5
形成外科	2	0	3	5	1	3	2	2	4	0	1	2	2.1
合計	508	548	523	606	511	504	585	518	600	568	514	644	552.4

●入院経路別患者数
2025年度

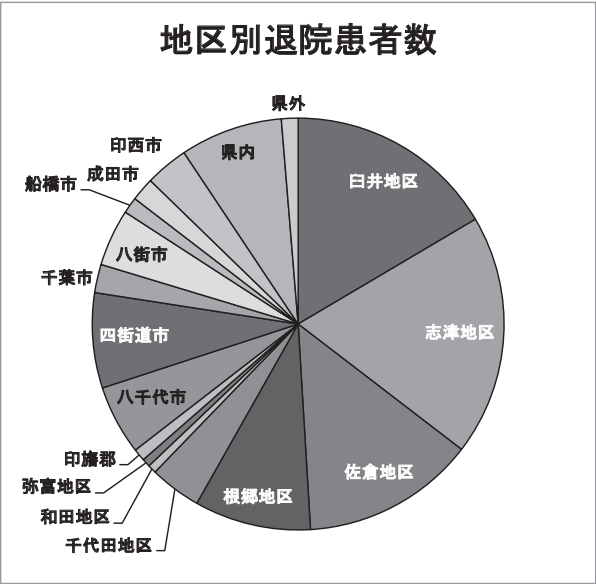
	件数（件）				構成比（％）		
	合計	救急搬送	緊急	予定	救急搬送	緊急	予定
腎臓内科	1,204	261	409	534	21.7%	34.0%	44.4%
呼吸器内科	77	31	32	14	40.3%	41.6%	18.2%
消化器内科	1,240	217	384	639	17.5%	31.0%	51.5%
総合内科	54	9	24	21	16.7%	44.4%	38.9%
循環器科	160	4	45	111	2.5%	28.1%	69.4%
小児科	121	1	52	68	0.8%	43.0%	56.2%
外科	582	41	157	384	7.0%	27.0%	66.0%
乳腺外科	304	6	35	263	2.0%	11.5%	86.5%
血管外科	63	15	8	40	23.8%	12.7%	63.5%
整形外科	1,701	434	361	906	25.5%	21.2%	53.3%
呼吸器外科	313	16	52	245	5.1%	16.6%	78.3%
泌尿器科	352	25	65	262	7.1%	18.5%	74.4%
眼科	908	2	15	891	0.2%	1.7%	98.1%
耳鼻咽喉科	131	9	31	91	6.9%	23.7%	69.5%
リハビリテーション科	59	1	2	56	1.7%	3.4%	94.9%
放射線治療科	2	0	0	2	0.0%	0.0%	100.0%
緩和医療科	97	22	40	35	22.7%	41.2%	36.1%
合計	7,368	1,094	1,712	4,562	14.8%	23.2%	61.9%



●地区別患者数

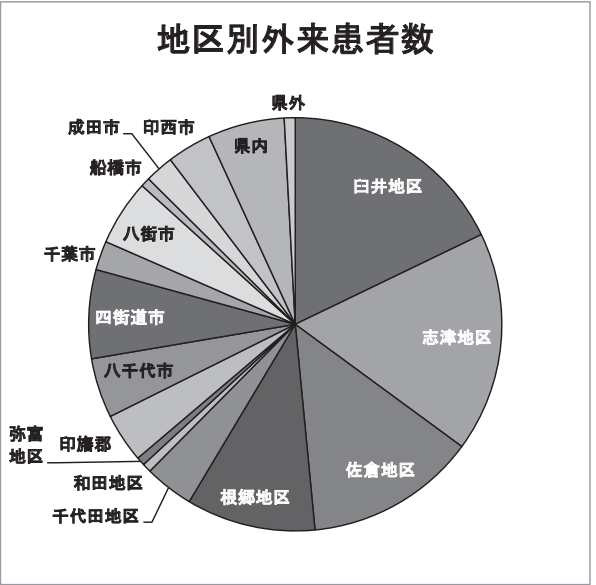
退院患者（2025年度実績）

地区	人数	比率
臼井地区	1,200	16.5%
志津地区	1,375	18.9%
佐倉地区	991	13.6%
根郷地区	665	9.1%
千代田地区	294	4.0%
和田地区	49	0.7%
弥富地区	47	0.6%
佐倉市小計	4,621	63.6%
印旛郡	70	1.0%
八千代市	397	5.5%
四街道市	543	7.5%
千葉市	162	2.2%
八街市	325	4.5%
船橋市	93	1.3%
成田市	134	1.8%
印西市	246	3.4%
その他県内	585	8.0%
県外他	95	1.3%
合計	7,271	100.0%



外来患者（2025年度実績）

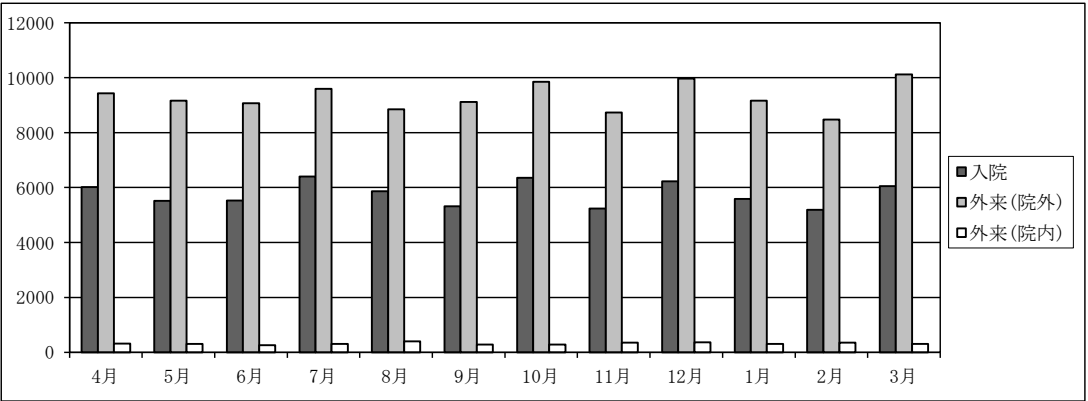
地区	人数	比率
臼井地区	41,479	17.8%
志津地区	40,024	17.2%
佐倉地区	31,137	13.4%
根郷地区	23,485	10.1%
千代田地区	8,936	3.8%
和田地区	1,634	0.7%
弥富地区	1,540	0.7%
佐倉市小計	148,235	63.8%
印旛郡	8,960	3.9%
八千代市	10,889	4.7%
四街道市	16,130	6.9%
千葉市	5,293	2.3%
八街市	11,987	5.2%
船橋市	1,688	0.7%
成田市	5,201	2.2%
印西市	8,086	3.5%
その他県内	13,935	6.0%
県外他	1,979	0.9%
合計	232,383	100.0%



●処方箋枚数

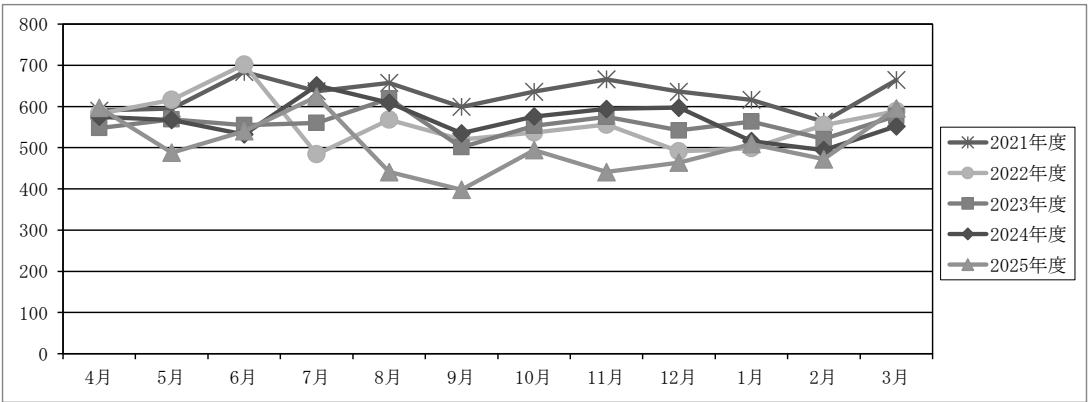
2025年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	6,022	5,516	5,531	6,397	5,861	5,322	6,355	5,237	6,228	5,585	5,188	6,049	5,774.3
外来(院外)	9,428	9,161	9,066	9,589	8,849	9,121	9,850	8,734	9,965	9,159	8,475	10,120	9,293.1
外来(院内)	314	310	256	312	405	289	279	353	367	312	356	311	322.0
合計	15,764	14,987	14,853	16,298	15,115	14,732	16,484	14,324	16,560	15,056	14,019	16,480	15,389.3



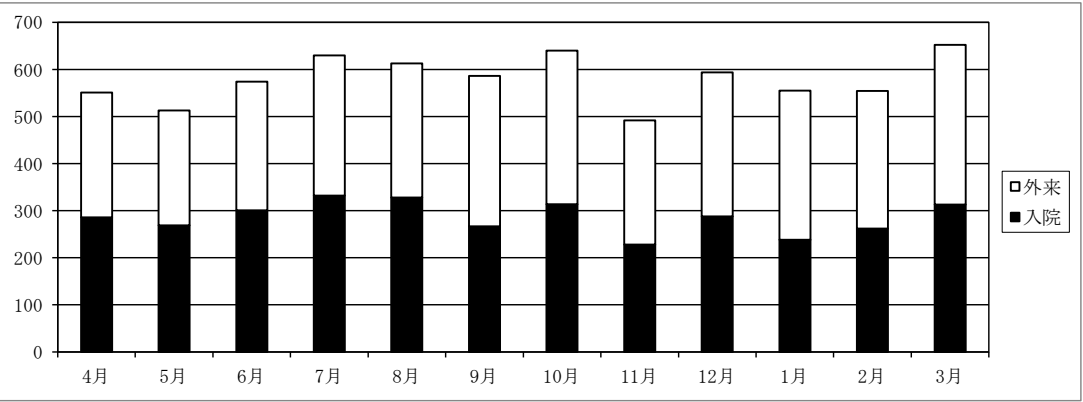
●服薬指導件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	590	595	684	637	657	599	636	666	636	616	563	664	628.6
2022年度	583	616	702	484	568	520	537	556	491	499	555	589	558.3
2023年度	548	569	555	560	619	501	553	575	542	563	521	577	556.9
2024年度	575	567	532	651	609	535	576	594	597	516	494	552	566.5
2025年度	597	488	540	624	441	398	494	441	464	509	472	595	505.3



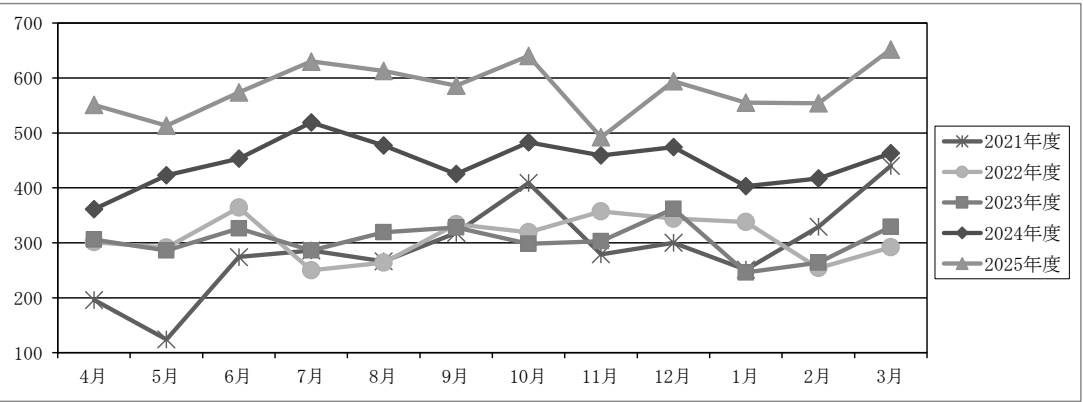
●栄養指導件数（入院・外来）

2025年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院		286	269	301	332	328	267	314	228	288	238	262	313	285.5
外来		265	244	273	298	285	319	326	264	306	317	292	339	294.0
合計		551	513	574	630	613	586	640	492	594	555	554	652	579.5



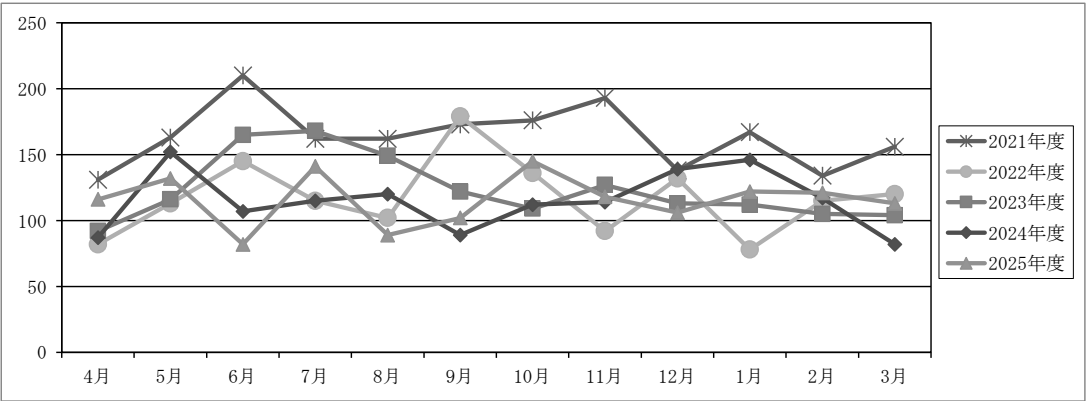
●栄養指導件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	196	124	274	286	266	318	409	279	300	251	329	440	289.3
2022年度	301	291	364	250	264	334	319	357	344	338	254	292	309.0
2023年度	306	286	326	286	319	328	298	303	362	246	264	329	304.4
2024年度	361	423	453	519	477	425	483	459	474	403	417	463	446.4
2025年度	551	513	574	630	613	586	640	492	594	555	554	652	579.5



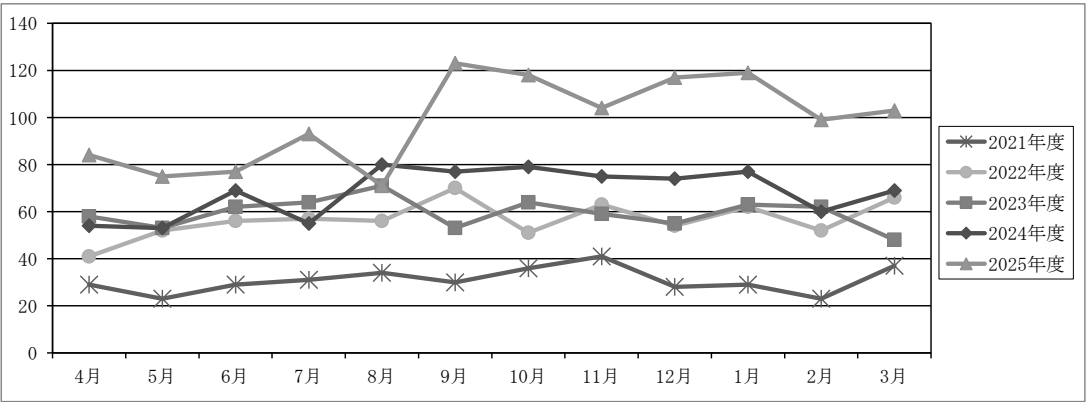
●NST加算件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	131	163	210	162	162	173	176	193	138	167	134	156	163.8
2022年度	82	113	145	115	102	179	136	92	132	78	115	120	117.4
2023年度	92	116	165	168	149	122	109	127	113	112	105	104	123.5
2024年度	87	152	107	115	120	89	112	114	139	146	117	82	115.0
2025年度	116	132	82	141	89	102	145	118	106	122	121	113	115.6



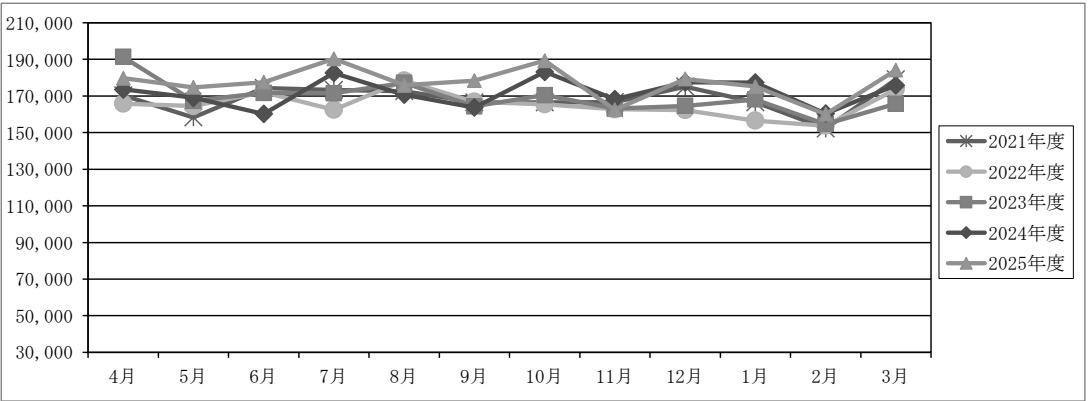
●糖尿病透析予防指導推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	29	23	29	31	34	30	36	41	28	29	23	37	30.8
2022年度	41	52	56	57	56	70	51	63	54	62	52	66	56.7
2023年度	58	53	62	64	71	53	64	59	55	63	62	48	59.3
2024年度	54	53	69	55	80	77	79	75	74	77	60	69	68.5
2025年度	84	75	77	93	71	123	118	104	117	119	99	103	98.6



●検体検査件数推移

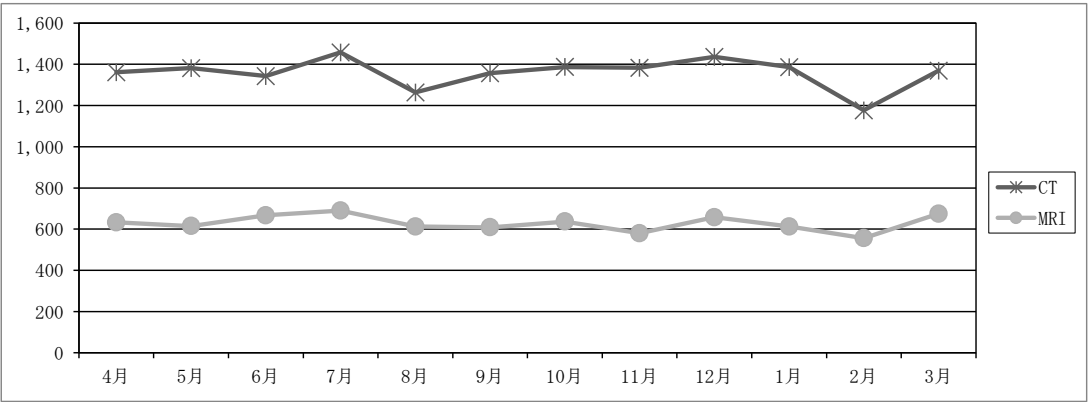
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	170,374	158,280	174,380	173,340	172,631	166,621	166,521	166,716	175,136	166,620	152,259	179,061	168,494.9
2022年度	165,765	164,518	172,064	162,457	178,421	166,856	165,512	162,739	162,348	156,610	153,758	173,653	165,391.8
2023年度	191,281	167,353	171,698	171,468	177,198	164,349	170,418	163,079	164,590	168,108	154,583	165,703	169,152.3
2024年度	173,612	169,081	160,179	182,580	170,660	163,750	183,206	168,281	177,424	177,317	160,389	175,862	171,861.8
2025年度	179,685	174,690	177,571	190,326	175,862	178,349	189,311	162,503	179,255	175,143	160,058	184,144	177,241.4



●画像診断件数（CT・MRI）

2025年度

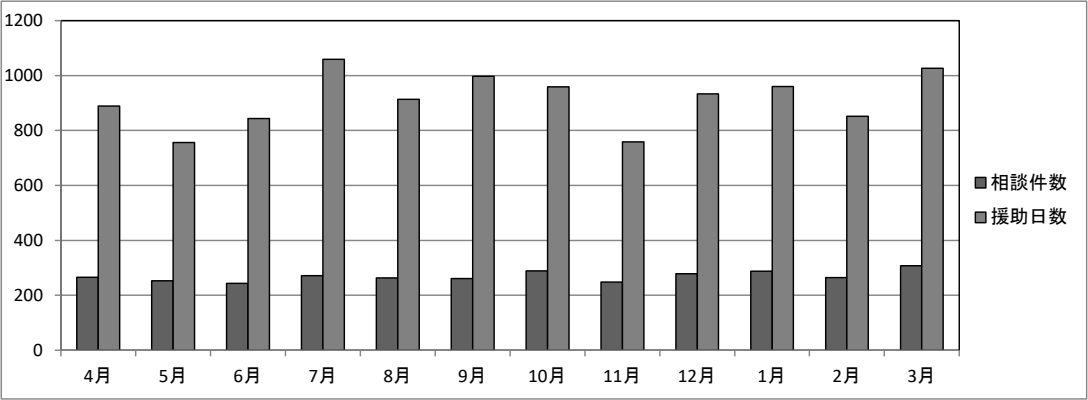
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
CT	1,361	1,382	1,343	1,458	1,264	1,357	1,387	1,383	1,436	1,386	1,177	1,369	1,358.6
MRI	633	615	667	690	613	609	637	580	658	613	556	675	628.8
合計	1,994	1,997	2,010	2,148	1,877	1,966	2,024	1,963	2,094	1,999	1,733	2,044	1,987.4



●医療相談件数

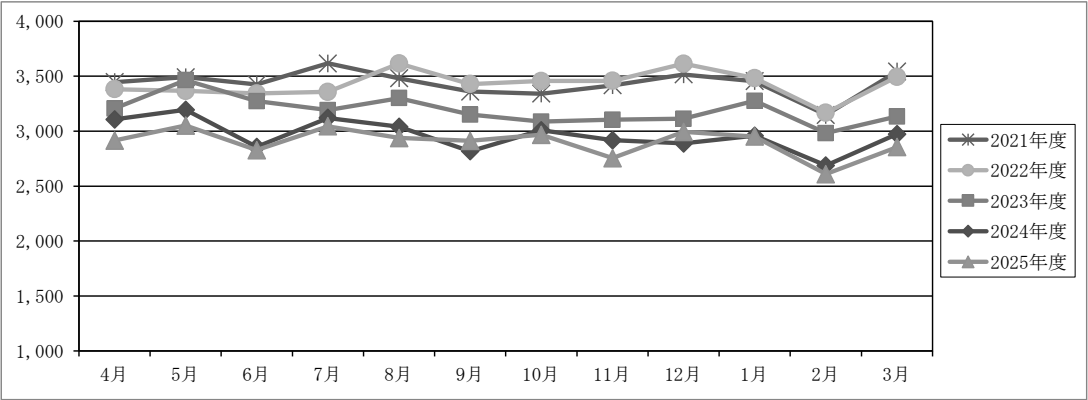
2025年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談件数	266	253	244	271	263	261	289	248	278	288	265	308	269.5
援助日数	889	756	844	1,059	913	997	959	759	933	960	852	1,027	912.3



●透析件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021年度	3,447	3,492	3,424	3,618	3,482	3,360	3,342	3,418	3,517	3,455	3,149	3,543	3,437.3
2022年度	3,383	3,367	3,343	3,357	3,616	3,429	3,457	3,458	3,615	3,484	3,167	3,495	3,430.9
2023年度	3,207	3,464	3,273	3,191	3,301	3,151	3,087	3,104	3,114	3,277	2,983	3,133	3,190.4
2024年度	3,108	3,195	2,857	3,121	3,041	2,818	3,009	2,918	2,889	2,958	2,688	2,974	2,964.7
2025年度	2,915	3,052	2,828	3,045	2,938	2,913	2,967	2,754	2,993	2,952	2,610	2,855	2,901.8



●診療報酬請求書件数

2025年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	951	877	928	997	949	916	958	926	930	869	835	984	926.7
外来	11,000	10,565	10,797	11,278	10,703	10,957	11,414	10,247	11,426	10,699	10,144	11,496	10,893.8
合計	11,951	11,442	11,725	12,275	11,652	11,873	12,372	11,173	12,356	11,568	10,979	12,480	11,820.5

部門報告

診療部	42
看護部	62
医療技術部	77
事務部	84
健診センター	93
医療安全管理室	94
感染管理室	95
せいの訪問看護ステーション佐倉	96
せいのケアプランセンター佐倉	97

《常勤スタッフ》

名誉院長	鈴木 理志	副部長	寺崎 紀子	医 長	松永 宇広
副院長	藤井 隆之	医 長	山内 伸章	医 師	森本 真有
部 長	田中 宏明	医 長	越坂 純也		

《診療内容》

当科は、急性・慢性疾患を問わず腎臓に関わる幅広い疾患を扱っており、検尿異常から透析治療までシームレスな腎医療を行っている。特に腎生検を積極的に行い、的確に診断した上で個々の病態や病状に合わせた治療を提供している。糖尿病、高血圧を中心とした生活習慣病に対しては腎保護的アプローチ、腎炎・ネフローゼには扁桃腺摘出術、免疫抑制治療、生物学的製剤、血液浄化療法を含めた最新の治療を行っている。保存期CKDには、進展抑制、腎保護を目的とした多職種での集学的治療、末期腎不全期では腎代替療法の選択や血液透析用・腹膜透析用アクセスの作成を行っている。腎移植希望の方には近隣の移植実施施設に適切なタイミングで紹介している。透析導入後も血液透析、腹膜透析の維持管理を行っており、シャントPTA、腹膜透析の合併症にも対応している。

《取り組み》

保存期CKD患者は全国で約2,000万人いると推測されており、末期腎不全のみならず心血管合併症や死亡のリスクも考慮し早期の適切な診断・治療が重要である。最近ではCKDに対する薬剤も販売されており、RAS阻害薬に加え、SGLT2阻害薬、MRA等を積極的に使用している。また慢性糸球体腎炎や多発性嚢胞腎といった腎専門医が専門とする疾患に対しても有望な薬剤が続々と治験が行われており積極的に取り入れていく予定である。腎生検の件数は年々増加しており、保存期CKDに対するCKD教育入院も2024年度は年間100名を超える方が参加した。また腎臓専門医6名、透析専門医6名、腎臓病療養指導士11名、腎代替療法専門指導士5名を中心に、腎代替療法選択にも力を入れており、2025年度は腹膜透析の選択が新規に5例で全27名に増加し、腎移植施設への紹介は受診待ちを含めて4例であった。

《実績》

	入院患者	腎生検	手術		透析導入 (HD, PD)	PTA	紹介患者数 (※1)
			VA	PD			
2022年度	990	39	66	8	77(70, 7)	135	387(106, 196, 85)
2023年度	1,130	46	44	7	53(48, 5)	154	438(102, 244, 92)
2024年度	1,238	55	56	7	70(63, 7)	157	489(127, 249, 107)
2025年度	1,204	55	52	5	56(51, 5)	143	418(135, 192, 91)

※1:検尿異常、急性腎障害もしくは保存期CKD、透析関連

《常勤スタッフ》

名誉院長	佐藤 慎一	副部長	坂本 大	医師	住吉 良太
院長補佐	齊藤 将喜	主任医長	吉川 りょう		
副部長	矢挽 眞士	医師	山下 裕		

《診療内容》

消化器疾患全般を対象として診療を行っている。消化管領域では内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、静脈瘤結紮術(EVL)、胆膵領域では採石術、ドレナージ・ステント留置術、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)を行っている。またウイルス性肝炎に対して経口抗ウイルス薬(DAA)による治療、肝細胞癌に対して肝動脈化学塞栓術(TACE)、ラジオ波焼灼療法(RFA)を行っている。さらに、手術適応とならない消化器悪性腫瘍に対する抗癌剤治療等、専門性の高い医療を提供している。

《取り組み》

総合内科医として一般内科症例を広く担いつつ、消化器内科専門医として消化管・胆膵の内視鏡治療、および肝癌の集学的治療に注力した。診療体制の質向上を目的とし、毎朝の科内ミーティングを定例化。問題症例の早期把握と治療方針の共有を徹底した。また、外科との合同カンファレンスを通じて手術適応症例の密な連携を図り、患者本位の最適医療の追求に努めている。地域連携においては、佐倉市医師会の先生方との「紹介・逆紹介」の円滑化を推進。緊密な病診連携を維持・発展させ、地域完結型医療の拠点として、さらなる質の向上に邁進する。

《実績》

入院患者数：1,240人
上部内視鏡(GF)：2,187件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)：22件
下部内視鏡(CF)：1,926件
大腸粘膜切除術(EMR)：385件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)：179件
超音波内視鏡(EUS)：41件
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)：31件
超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)：7件
ラジオ波焼灼療法(RFA)：2件
肝動脈化学塞栓療法(TACE)：2件

《常勤スタッフ》

医 長 山岸 一貴

《診療内容》

当科では 2019 年 10 月より常勤 1 名、金曜日非常勤 1 名体制となっている。外来診療においては、月・木曜日午前午後、金曜日午後を完全予約制で行っている。2026 年度は、千葉大学医学部附属病院からの派遣を受けて水曜日午後の外来を新設することとなっている。また、2025 年 6 月より、带状疱疹不活化ワクチンを中心とし、20/21 価肺炎球菌ワクチン、RS ウイルスワクチン、B 型肝炎等のワクチンの接種を行うワクチン外来を火曜日午後に完全予約制で設置した。

外来では呼吸器内科一般の診療を行っており、症状としては咳嗽、喀痰、安静時ないし労作時の呼吸困難、胸痛、血痰・喀血、酸素化不良等を受け付けている。疾患では気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 等の環境因子・遺伝因子による呼吸器疾患、非結核性抗酸菌症、肺結核、細菌性ないしウイルス性肺炎をはじめとした感染症、気管支拡張症、塵肺、種々の間質性肺炎、びまん性汎細気管支炎等のびまん性肺疾患、肺分画症や Kartagener 症候群、肺動静脈瘻等を含む一部の先天性異常、胸部異常陰影精査等である。必要に応じ放射線検査、呼吸機能検査や呼気ガス分析等の検査を行い、投薬治療や経過観察を行っているが、当科では十分な検査・加療を行うことができない胸部悪性疾患や、手術を要する可能性のある気胸・膿胸については呼吸器外科との連携を行っている。

2020 年 2 月から開始した月曜日午後の禁煙外来は、認定看護師とともに診療を行っている。バニクレリン製剤へのニトロソアミン混入によるファイザー社の自主回収および出荷停止は長期にわたり継続しているが、2026 年度はバニクレリン製剤も使用開始となる見込みである。

初期研修医の当科研修の受け入れも、年 3～4 か月で継続している。

《取り組みおよび実績》

気管支喘息の治療においては、引き続き診断、内服薬・外用薬・分子標的薬による治療を行える体制を整えている。背景に、胸部 CT 撮影を含む放射線検査、生理機能・血液検査といった各種検査がスムーズに行えること、画像診断の専門医と連携していること、外来において薬剤調製および外用薬の適切な使用に関する指導が円滑に行えていることがある。

また、2025 年度も近隣・地域の開業医、近隣大学病院、地域の調剤薬局等との連携を深めるため、オンラインおよびオンライン・現地ハイブリッドミーティングを開催した。引き続き病診連携および医薬連携を推進していく。

ワクチン外来は比較的高稼働を継続している。自費診療のため、引き続き接種のための受診者向けの啓蒙を続けていく。その他、2026 年度は自立支援医療(免疫)の施設認定を目指しており、関係各所との調整を継続する。

《常勤スタッフ》

部 長 徳山 権一

《診療内容》

循環器外来(虚血性心疾患、大動脈弁狭窄症、動脈硬化症外来、不整脈、ペースメーカー)と心不全症例の外来、入院での管理、心臓カテーテル検査、治療、末梢血管形成術を中心に、ペースメーカー植え込み術、電池交換術を再開した。慢性心不全看護認定看護師 1 名と心不全療養指導士 7 名が心不全患者に質の高い療養指導を実践し、心不全の悪化や再入院予防目的で 7 泊 8 日の教育入院を多職種チームにて行っている。

主たる疾患 高血圧症および合併する生活習慣病、虚血性心疾患、弁膜症、心不全、不整脈(心房細動等)、閉塞性動脈硬化症

外 来 検 査 心電図、心・経食道・頸動脈・下肢静脈エコー、トレッドミル検査、血圧脈波、ABI、負荷心筋スペクト(運動、薬物負荷)、心臓 CT(64 列)・MRI

入 院 検 査 心臓カテーテル検査、冠動脈造影、左室造影、大動脈造影、右心カテーテル検査、冠動脈血流予備能検査、冠動脈血管内超音波検査

入 院 治 療 経皮的冠動脈形成術、経皮的下肢動脈形成術、下大静脈フィルター留置、ペースメーカー植え込み術

《取り組み》

1. 生活習慣病症例においては重篤な循環器疾患等を発症しないように生活管理を含め、他科の医師、看護師、コメディカル等の多職種と連携しながら多面的に予防する。
2. 循環器疾患が疑われるような症例において他部門のスタッフと協力しながら迅速かつ適切に診断できるように最大限努める。
3. 心臓カテーテル検査、治療、下肢動脈の血管内治療がより適正、安全に施行できるように多職種と連携する。
4. 患者さん、そのご家族が病状について十分理解できるようにわかりやすく説明するよう努力し、また安心して当院に通院、治療ができるよう診療体制を整備する。
5. 循環器チーム委員会を隔月開催し、患者さんの情報を多職種で共有し、より良い医療を実践する。外来待合室に患者さん向けのビデオやポスターを設置し、循環器疾患の予防と病気の理解が深まるように啓発活動を行う。
6. 院内で年数回勉強会を開催し、循環器疾患に対する理解を深めることにより地域にさらに貢献できるように努める。
7. 今後、心臓リハビリテーションが施行できるよう準備している。

《実績》

2025 年度心臓カテーテル検査および経皮的冠動脈形成術や血管内治療を 131 件(2024 年度 127 件)、うち治療 72 件(2024 年 72 件)を施行した。心臓 CT 検査は 116 件(2024 年度 122 件)、負荷安静心筋シンチ 49 件(2024 年 53 件)を施行し、心アミロイドーシスを含めた心筋症の評価目的で心臓 MRI 検査も可能となっている。

《常勤スタッフ》

部 長 村上 敏史

《診療内容》

緩和医療は、「生命を脅かす疾患に関連する問題に直面する患者およびその家族の Quality of Life(QOL)を向上させるため、痛みその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確に評価・対応することによって、苦痛を予防・軽減する医療的アプローチである」と定義されている(WHO 2002)。当科は、この定義に基づき、患者およびその家族に対し、包括的かつ専門的な緩和医療を提供している。

2025 年 11 月 1 日より緩和ケア病棟(C3 病棟)が再開されたことに伴い、これまでの一般病棟での専門的緩和ケアの提供から、緩和ケア病棟における高度な専門的緩和ケアの提供へと診療体制を大きく転換した。診療の主要目標は、身体的苦痛の緩和、精神的・スピリチュアルな問題への対応、患者のケアの調整、生活の質の向上、および Advance Care Planning(ACP)の推進である。

《取り組み》

2025 年度も臨床・教育・研究の三本柱を基盤に診療を実施した。

臨床面では、緩和ケア病棟の再開に伴って専門病棟での専門性の高い緩和ケアの提供を行った。また、主治医科と連携したバックアップ体制の構築を強化した。

教育活動では、日本緩和医療学会等での活動に加え、医療従事者を対象とした講演・講義・講習会を通じ、緩和医療の均てん化と技術向上に寄与した。

研究活動では、東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座と連携し、疼痛制御のメカニズム解明に向けた研究を継続して推進した。2026 年度には地域医療機関との連携を強化し、在宅診療支援の拡充を図っていきたい。

《実績》

2025 年度の診療実績は以下の通りである。

1. 入院診療：延べ入院患者数は 143 例であった。2025 年 11 月 1 日の病棟再開以降、緩和ケア病棟(C3 病棟)において主治医科として 79 例を受け入れた。また、転科を行わずに緩和ケア病棟で主治医科のバックアップを継続した症例は 27 例であった。一方、一般病棟(A2 病棟)における入院診療は 62 例であった。
2. 外来診療：延べ外来患者数は 161 例であった。このうち、バックベッド設定希望例は 32 例であった。バックベッド設定例の経過については、当院受け入れ後に逝去した症例が 12 例、自宅にて逝去した症例が 10 例、現在設定継続中の症例が 10 例であった。

《常勤スタッフ》

部 長 川島 太一 主任医長 佐塚 哲太郎
化学療法科部長 木谷 哲

《診療内容》

乳癌の検診・診断・手術・薬物療法・放射線療法の導入・緩和ケア・遺伝カウンセリング・美容まで一貫して対応し、患者さんを初診から終末期まで継続的に診療する体制を理念としている。

《取り組み》

2025 年度は外来診療および手術件数の増加が顕著であり、特に 2025 年春以降において診療需要の明らかな増加を認めた。これに対応するため外来 2 診体制および診察室 3 ブース体制を維持し、迅速な診断および治療導入を行っている。

診断においては、穿刺吸引細胞診および針生検を原則即日実施可能とし、数日以内の結果説明を実現している。また、マンモグラフィ読影においてはコンピュータ支援検出システムを併用し、2 名の医師による読影体制を維持している。

治療においては乳房温存術から乳房切除術、乳房再建術まで幅広い術式に対応し、さらに抗体薬物複合体(ADC)を含む新規薬物療法の導入を進めることで進行・再発乳癌に対する治療の高度化を図っている。2025 年 7 月には佐塚哲太郎主任医長が着任し、診療体制の強化が図られた。これにより外来診療および手術対応能力の向上が得られ、地域における乳癌診療体制の充実に寄与している。一方で、地域における医療機関間競争は激化しており、紹介率の向上および地域連携の強化が今後の重要課題である。地域医療機関との連携強化、広報活動の充実、健診センターとの連携による要精査患者の確実な受け入れ体制の構築を進めていく。また、当センターでは AI 技術の臨床活用を推進している。カンファレンスにおける議事録作成は AI を活用し効率化を図っている。さらに、現病歴、既往歴、術前画像診断および病理診断情報を統合し、AI による治療方針提案の妥当性を検証する取り組みを開始している。今後は医師による最終判断を前提としつつ、診療支援ツールとしての AI 活用を進め、診療の質向上と業務効率化の両立を目指す。

《実績》

2025 年度の全手術件数は 241 件であり、2024 年度の 197 件と比較して増加した。原発性乳癌手術は 208 件と増加を認め、乳房部分切除 109 件、乳房切除 99 件といずれも増加傾向であった。センチネルリンパ節生検は 159 件、腋窩郭清は 22 件であった。画像診断においては、マンモグラフィは病院部門 3,112 件、健診部門 5,256 件、乳腺超音波検査は病院部門 4,416 件、健診部門 4,540 件であり、診療および健診の双方において多数の検査を実施した。診療需要の増加に対応し、安定した診療体制の維持に努めた。

外科

部長 小池 直人
院長補佐 大島 祐二

《常勤スタッフ》

部 長	小池 直人	主任医長	武内 俊章	医 師	鈴木 貴友
院長補佐	大島 祐二	医 長	山本 真梨子		
健診センター所長	有田 誠司	医 師	比毛 修太郎		

《診療内容》

消化器外科を中心に消化器癌の抗癌剤治療、内視鏡治療等広い分野をカバーしている。2次救急や、増加する超高齢患者の外科治療も積極的に行っている。

《取り組み》

遠方の基幹病院まで行くことが億劫なお年寄りに対しても、状態を考慮しながら可能な限り肝胆膵の高難度手術まで安全に行うように努めている。手術には腹腔鏡手術を積極的に取り入れ、消化管手術は半数以上が腹腔鏡手術となった。2026年度は大学から内視鏡グループの比毛医師が着任し、高度な内視鏡治療も可能となる予定である。大学から手術指導の医師もこれまで同様派遣され、高難度手術でも腹腔鏡で対応可能である。昨今注目されているゲノム医療も基幹病院と連携しながら取り入れている。

《実績》

2025年度の手術件数は別表のごとくで、2024年度から20件程度増加している。腹腔鏡手術の割合も増え、手術時間や合併症の比率も減ってきた。ヘルニアが特に増えているが、肝胆膵の高難度手術も継続して行っている。

ところで、悪性腫瘍に対し分子標的薬等数々の新規薬剤が開発されてきている近年、以前は副作用の少ない夢の治療とも思われていた免疫療法の一つである免疫チェックポイント阻害剤(ICI)が多く使われるようになった。頻度は少ないが、ミスマッチ修復機構が損なわれている(dMMR/MSH-H)がんには原発臓器に関係なく奏効することが多い。当院でもdMMR/MSH-H切除不能進行がんの9例に対し、ICIによる加療を行ったが、全身状態不良で効果判定ができなかった1例を除いて全例部分奏効以上の効果が見られた。このうち、1例は根治切除可能となった。更に3例で画像上完全奏効を呈し、最長5年間加療継続ができています。しかし、効果が得られる反面、副作用の少ない夢の治療と思われていた免疫療法も免疫関連有害事象が問題となっている。幸い、この8例中には命に関わる重篤な有害事象は見られないものの、ほぼ全例に甲状腺機能低下等の軽微な有害事象が見られている。潰瘍性大腸炎に似た大腸炎や副腎機能障害でステロイドが必要になった症例も見られる。切除不能肝細胞癌ではICIと血管新生阻害剤の組み合わせか、ICI2剤の組み合わせが初回治療として推奨されている。肝細胞癌ではdMMR/MSH-Hでなくとも完全奏効が得られた症例があった。しかし、重度の自己免疫性肝炎が出現し、ステロイド加療を要する症例も経験したので注意が必要である。

対象期間：2025年4月1日から2026年3月31日

臓器	術式	直視下(開腹・開胸)	鏡視下(腹腔鏡・内視鏡)
食道	食道噴門形成術		
	食道切除再建術(食道癌手術)		
	ESD		1
	合計		1
胃	胃腸吻合術	3	4
	胃局所切除術		4
	幽門側胃切除術	2	14
	胃全摘術	2	1
	噴門側胃切除術		
	ESD		1
	合計	7	24
小腸・結腸	虫垂切除術		21
	腸瘻造設・閉鎖術(腸管切除なし)	7	3
	腸瘻造設・閉鎖術(腸管切除あり)	2	1
	回盲部切除術		8
	S状結腸切除術	9	12
	結腸右半切除術	8	13
	結腸左半切除術	4	2
	横行結腸切除術	1	1
	結腸部分切除術		
	小腸切除	2	1
	腸閉塞手術	5	5
	合計	38	67
直腸・肛門	痔核手術	7	
	痔瘻根治術	1	
	高位前方切除術	1	3
	Hartmann手術	2	
	低位前方切除術		4
	直腸切断術		
	経肛門的腫瘍切除	2	
	合計	13	7
肝臓	肝部分切除術	1	
	肝外側区域切除術	1	
	肝区域切除術(外側区域を除く)	1	
	肝2区域切除術(葉切除含む)	1	
	肝3区域切除術		
	系統的亜区域切除術	3	
	合計	7	
胆道	胆嚢摘出術	1	63
	胆管切開切石術		
	胆道バイパス術		
	胆嚢悪性腫瘍手術	2	
	胆管悪性腫瘍手術(PD)	2	
	合計	5	63
脾臓	脾体尾部切除術(良性)		
	脾体尾部切除術(悪性)	2	1
	脾頭十二指腸切除術	3	
	脾全摘	0	
	合計	5	1
脾臓	脾摘出術		1
その他	鼠径ヘルニア手術	127	14
	大腿ヘルニア手術	7	
	腹壁ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア手術	5	
	急性汎発性腹膜炎手術	3	
	その他の消化管手術	5	2
	その他の肝胆脾手術	6	
	その他体幹など		
	合計	153	16
全体合計	407	228	179

《常勤スタッフ》

副 部 長 廣橋 健太郎
医 師 眞崎 義隆

《診療内容》

常勤 2 名、非常勤 1 名の体制で診療しており、月曜日から金曜日まで午前中外来診療を行った。外来では呼吸器外科一般(肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、気胸、膿胸)、検診レントゲン異常陰影の精査、睡眠時無呼吸症候群の診療を行っている。定時手術日は月曜日で、気管支鏡検査、準緊急手術は主に火曜、木曜日に行っている。呼吸器外科手術のほとんどの症例を完全胸腔鏡手術で行っているが、局所進行癌に対しては、開胸手術での肺動脈形成や胸壁合併切除術等の拡大手術も行っている。手術適応のない進行肺癌に対しては、最新レジメンによる抗がん剤治療を行っており、長期生存している方も珍しくない。

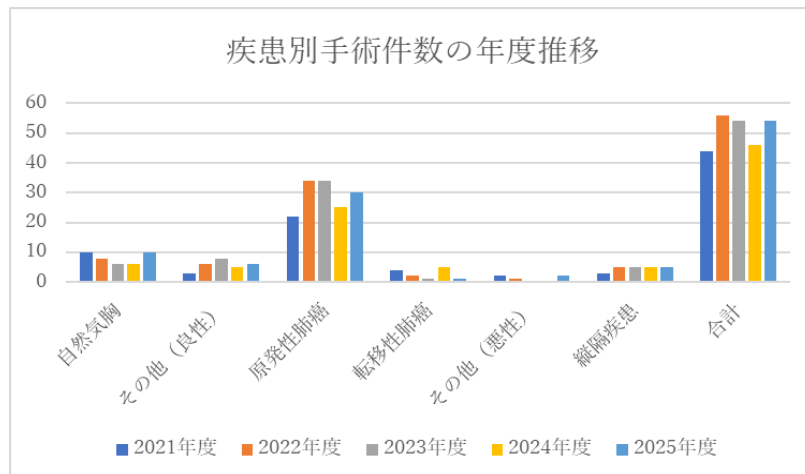
睡眠時無呼吸症候群は、診断後積極的に紹介医への逆紹介を心がけている。

《取り組み》

肺癌に対して診断、外科治療、抗癌剤治療、放射線治療、緩和医療まで一貫して対応できる体制を整えており、集学的治療等患者さん毎に最適な治療を提供するよう心がけている。

当院の特徴は、早期肺癌、特に術中に同定困難な末梢触知不能肺癌(疑)症例に対して、術前経気管支 ICG マーキング後に近赤外線胸腔鏡を用いて精密な手術を行っていることである。早期肺癌に対して、ほぼ全例に完全鏡視下手術を行っており、低侵襲で根治性の高い手術を行っている。

《実績》



《常勤スタッフ》

主任医長 宇井 啓人

《診療内容》

皮膚軟部組織損傷の診療が当科の主軸である。通気性や吸水性の悪い被覆材を用いた処置の危険性を説き、家庭内でも可能な手軽で安全な処置法の啓蒙に力を入れている。外傷(切り傷、擦り傷、異物、動物咬まれ等)の他にも、腫瘍(粉瘤や脂肪腫、母斑等)、ケロイド、巻き爪、眼瞼下垂等も取り扱う。

《取り組み》

他科の併発疾患に関わる機会が多いことが当科の特徴である。外来と手術室のみならず各病棟にも足を運んだ。

専門医等の資格更新に絡むイベントは無く平穏な 2025 年度であった。

《実績》

外来受診者数も手術件数も 2025 年度は 2024 年度のそれに比べ 3%の微増であった。特に目立ったのは他科(整形外科、乳腺外科等)との協働手術が多かったことであり、形成外科医冥利に尽きた。

2025 年度といえば大阪万博なのだが、あえて今回は 2015 年に体験してきたミラノ万博を語ることにする。万博開催にはテーマ制定が義務づけられている。しかしどこの国で開催されても「科学」「未来」「調和」等、似たような謳い文句ばかりでマンネリ気味。ところがイタリア人が掲げたテーマはなんと「食」。会場全体が食のテーマパークという大胆さ。これは一見ふざけているようで、実は全人類にとって非常に大切なテーマだったのである。

僕はこれを2日間かけて廻ってきたのだが、お国柄が反映されていてとても面白かった。ロシア館ではウォッカが供され、アメリカ館はファストフードを前面に押し、カンボジア館は稲作を紹介、スイス館では食料供給問題を提起、韓国館は長寿食自慢、ジンバブエ館は「粟とバオバブの実しか無えよ」と自虐、オーストリア館なんぞ「空気は食べ物だ」等と言い出す始末。一番人気は日本館で、行列嫌いのイタリア人を最長10時間も並ばせてしまった。

優等生には真似できないイタリア人ならではの発想。私も常に物事を多角的に攻め、人を楽しませ、自分も楽しめる存在であり続けたい。



▲イメージ・キャラ「Foody」はアルチンボルド的。

《常勤スタッフ》

医 師 金岡 健

《診療内容》

下肢静脈瘤が最も多く、2025 年度から新たにカテーテルを用いた静脈瘤血管内治療としてラジオ波による血管内焼灼術とグルーによる血管内塞栓術を開始した。

その他に、浮腫を訴えて受診する方も多かった。この病態には血管の異常ばかりでなく全身疾患、神経障害、循環器疾患あるいは生活習慣等、様々な要因が関係している可能性があり、必要に応じて関連した検査を行う。実際のところ血管が原因の浮腫は比較的少なく、運動や生活習慣の指導で対応することが多い。

《取り組み》

下肢静脈瘤の治療は、エコーによる静脈逆流(弁不全)の評価と随伴する皮膚病変の程度や自覚症状により治療法を検討する。

下肢静脈瘤のカテーテルを用いた血管内治療は局所麻酔下に行われ、入院も 1 泊に短縮されることから、これまで当科で行ってきた抜去術に比べ患者さんの負担は明らかに軽減されている。

《実績》

静脈瘤硬化療法 16 例

手術件数 55 例

静脈疾患 45 例

静脈瘤高位結紮・切除術 7 例

血管内焼灼術(ラジオ波) 15 例

血管内塞栓術(グルー) 18 例

大伏在静脈瘤抜去術 5 例

内シャント手術 5 例 (うち人工血管移植) 4 例

橈骨動脈仮性瘤修復術 1 例

血管露出術 2 例

心嚢ドレナージ術 2 例

《常勤スタッフ》

名誉院長	南 昌平	副 部 長	飯島 靖	医 師	滝口 稜也
院 長	小谷 俊明	主任医長	伊勢 昇平	医 師	平島 哲矢
副 院 長	岸田 俊二	医 長	井上 翔	医 師	奥村 拓未
部 長	佐久間 毅	医 師	鹿間 遼		

《診療内容》

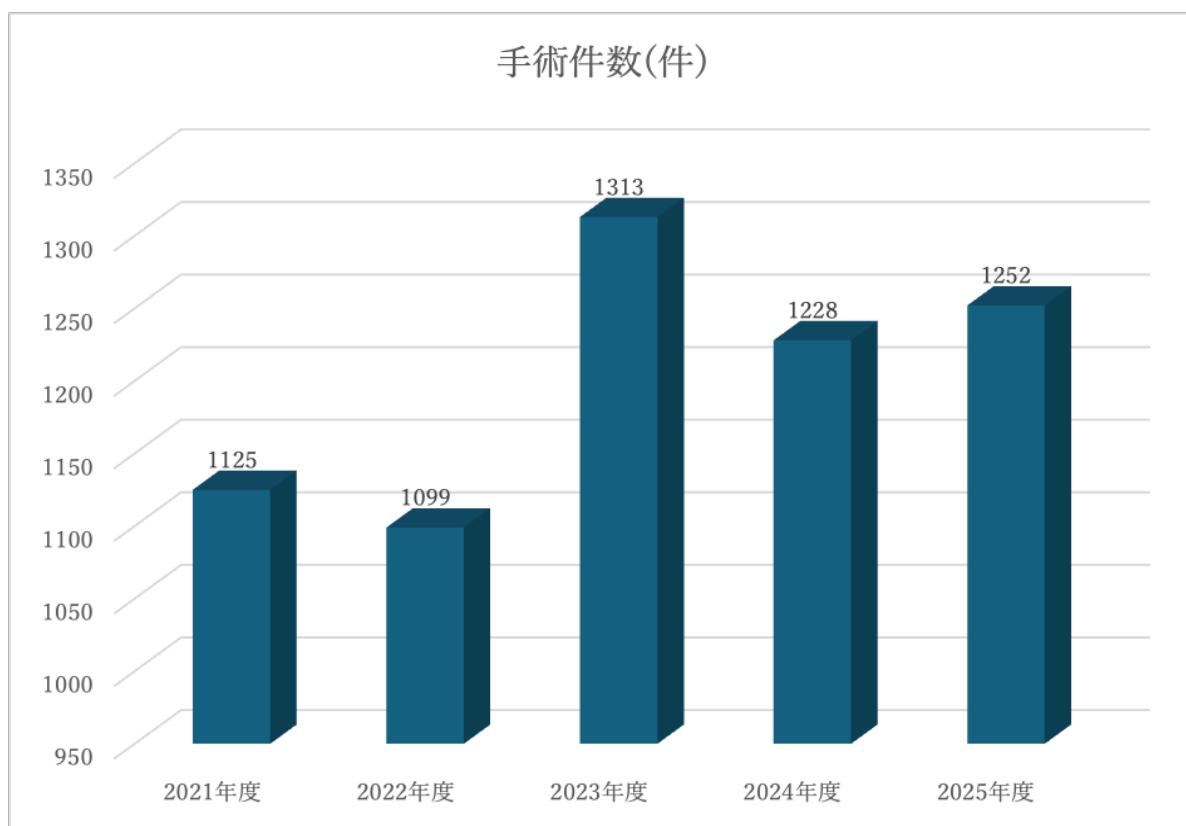
2025 年度は 12 人体制だった。脊椎・脊髄疾患、関節疾患、外傷症例に満遍なく取り組んだ。

《取り組み》

脊椎疾患では、全国的にも指折りの手術件数を誇る脊柱側彎症に対する矯正固定術に加え、腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲前後合併手術、脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術や脊柱変形に対する前後合併矯正固定術といった最先端の脊椎・脊髄手術の件数が増加した。関節疾患では人工股関節、リバーシショルダーといった人工関節手術に加えて、肩関節、手関節鏡視下手術が増加した。外傷手術も増加しており、手領域の腱損傷や開放骨折にも対応している。

《実績》

手術件数は年間 1,000 件以上を推移している。2025 年度は 1,252 件であった。



《常勤スタッフ》

部 長 鈴木 繁 医 師 川村 研
医 師 石倉 麻里奈

《診療内容》

3 名体制で病棟、外来、小児急病診療所当直、他市乳幼児健診医等の業務を行っていたが、10 月から石倉医師が産休・育休を取得し、現在は 2 名体制である。午前中の一般外来は主に急性期疾患に対応する。午後は完全予約制であり、川村は「腎臓外来」・「低身長外来」、鈴木は「アレルギー外来」・「夜尿症外来」の専門外来を担当する。週に 2 回の乳幼児健診と予防接種は、感染症患者さんとの接触を避けるため午後に実施している。

《取り組み》

医師・看護師・クラークが一丸となり丁寧な対応を心がけている。「腎臓外来」では、ネフローゼ症候群や慢性糸球体腎炎等、入院での検査(腎生検等)や治療(ステロイド治療等)の必要性も併せ総合的に判断している。低身長や思春期早・遅発を診療する「低身長外来」ではホルモン分泌試験を行い成長ホルモン補充療法の導入や適切な思春期発来時期を検討、同意が得られた場合は臨床治験の参加も行う。自己注射治療導入時は看護師が介入し、児と保護者に寄り添った指導を行い継続的なケアを行っている。「アレルギー外来」は主に食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の診療を行っている。食物アレルギー診療では血液検査や経口食物負荷試験等の実施を検討し、安全に食べることを目的に管理栄養士も介入し治療を行う。アトピー性皮膚炎は外来での治療導入だけではなく、身体の洗浄や軟膏塗布を看護師指導のもと保護者に習得してもらうスキンケア入院プログラムも有する。難治性のアトピー性皮膚炎には免疫抑制薬や生物学的製剤の使用も行う。アレルギー疾患療養指導士の資格を持つ看護師も在籍しており、個々の状況に合ったきめ細かい対応を行っている。舌下免疫療法は薬剤師が介入することにより安全に薬剤導入が可能である。夜尿症を専門的に診療する「夜尿症外来」も設置している。装具治療が必要となる小児側弯症患者に対し、心理士と共に不安やストレスを軽減し治療の長期継続を支援する取り組みも行っている。

印西市と白井市の乳幼児健診業務への参加や近隣医療機関での腎臓・一般外来支援も行っており地域医療の発展に微力ながら貢献していく所存である。

《実績》

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
腎生検	5 例	7 例	9 例
成長ホルモン分泌刺激試験等	27 例	36 例	28 例
食物経口負荷＋スキンケア入院	19 例	20 例	13 例

《常勤スタッフ》

部 長 稲原 昌彦 医 師 杉本 龍春
医 師 乾 滯

《診療内容》

尿路・性器癌(特に腎癌・膀胱癌・前立腺癌)、尿路結石、排尿障害の全般を外来診療から手術療法まで幅広く対応している。

(外来診療) 月・火・水・木・金の午前と午後に行っている。

(外来担当医)

月曜日：稲原医師・遠藤医師(東邦大学)

火曜日：五十嵐医師・石塚医師(東邦大学)

水曜日：稲原医師・杉崎医師(東邦大学)

木曜日：杉本医師・乾医師

金曜日：五十嵐医師

《取り組み》

腎癌は腹腔鏡手術により、膀胱癌は経尿道的手術により低侵襲手術による治癒を目指している。また、前立腺癌に対しては、放射線療法から手術(ロボット支援手術は大学病院に紹介)、果ては PSA 監視療法まで幅広く対応している。また、前立腺肥大症に対しては比較的大きい前立腺に対しても経尿道的な内視鏡的手術を行い、さらに、合併症により心肺機能の低下した患者さんには、より低侵襲の経尿道的前立腺吊り上げ術を始めた。

《実績》

年度毎の手術件数を以下に提示した。

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
経尿道的膀胱腫瘍切除術	17 件	36 件	45 件
経尿道的前立腺切除術	25 件	22 件	29 件
経尿道的腎・尿管結石碎石術	58 件	54 件	43 件
腎(腎尿管)全摘(開腹と腹腔鏡合計)	6 件	8 件	11 件
腎瘻留置	10 件	9 件	13 件
経尿道的尿管ステント留置	21 件	34 件	40 件

《スタッフ》

部 長 坂本 理之
副 部 長 吉田 いづみ

《診療内容》

2023 年度以降、常勤医師が 2 名、非常勤医師が 2+1 名体制で診療を行っている。白内障、緑内障、網膜硝子体疾患の手術加療を行っている。

また視能訓練士の充実により斜視・弱視診療も行っているが、斜視手術が必要な場合は近隣医療機関に紹介している。また 2025 年度よりロービジョン診療にも力をいれており、ロービジョン外来を週 3 日行っている。

《取り組み》

当院では受診時の選定療養費の患者さん負担が必要であり、初診の予約外の患者さんが開業の先生方を受診されることが予想されたため、近隣で主に最近開業された先生方へご挨拶をさせていただいた。直接先生方にお会いし、紹介患者をご依頼ただけでなく、より一層、精度の高い診療を目指さないといけないと自覚ができた。

2025 年度は患者さんを治すことを第一に考え、より精度の高い診療を心がけた。診療に関しては、例年通り、夜遅くまで手術をさせていただき、看護師をはじめ、視能訓練士、薬剤師、事務サイドの方、他科の先生方に厚くお礼を申し上げます。また、全身麻酔での手術も件数が増加しており、麻酔科の先生方にもご負担をおかけしているので、この場をかりて感謝申し上げます。2026 年度もより良い診療を目指していきたい。

《実績》

年々、ご紹介件数は増加しており、多くの患者さんをご紹介いただきました地域の先生方に深く感謝申し上げます。今後も件数だけでなく精度の高い手術を施行していきたいと考えております。

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
白内障単独	643 件	562 件	591 件
網膜硝子体手術(増殖硝子体手術も含む)	63 件	103 件	102 件
緑内障手術(白内障同時緑内障手術も含む)	203 件	221 件	207 件
その他手術	18 件	14 件	18 件

《常勤スタッフ》

部 長 竹内 成夫

《診療内容》

2024 年 7 月の竹内常勤医赴任以降、2025 年 3 月末現在常勤医 1 名および非常勤医師による診療体制を継続している。

外来診療は、月・火・木曜日の午前中に竹内が担当し、当日受診患者および救急対応を含む一般外来を行っている。平日午後および水曜日一日は非常勤医師が一般外来を担当しており、2024 年度に行われていた金曜午前中の嚥下外来が派遣病院の都合により中止となったため、外来小オペを行う再診外来を竹内が行っている。

一般外来では、耳鼻咽喉科全般にわたる診療・精査・加療を行っており、扁桃炎を含めた急性炎症や顔面神経麻痺、突発性難聴、持続性めまい等の耳鼻咽喉科救急疾患については、必要に応じて入院にて対応している。外来で手術適応と判断した患者には 2024 年 10 月から入院での手術加療も開始している。

なお悪性腫瘍については診断までを当科で行い、治療は当院での急変時対応が困難であることから、他院に紹介する形で対応している。

《取り組み》

2024 年 10 月から悪性腫瘍を除く耳・鼻・咽喉頭・頸部領域において入院手術加療を開始し、外切開手術に関しては東邦大学牛尾先生にご協力頂いているが、それ以外の手術に関しては竹内が担当し、近隣病院からも紹介を頂き手術件数も順調に伸びている。今後も手術件数が伸びてきた場合には金曜午後に手術枠を拡大する予定である。

また、外来診察に関しては一般耳鼻科の診療体制を立ち上げている状況であり、設備的にも十分とはいえない状況である。今後も外勤医師の助力を頂きつつ、2026 年度中に耳鼻科二診化を行い診察・処置の拡大を図る予定である。また二診化に伴い、積極的に鼻レーザー等の局所処置を拡大していく方針である。

《実績》

2024 年度が 10 月からの半年間で全身麻酔下手術 29 件、局所麻酔下手術 7 件であったが、2025 年度は 1 年間で全身麻酔下 88 件、局所麻酔下 13 件と大幅な手術件数増加となった。今後二診化に伴い外来手術、局所麻酔手術の増加が期待される。

耳領域：9 件 鼻領域：32 件 咽喉頭：36 件 頸部：24 件 計：101 件

《常勤スタッフ》

部 長 高橋 博達

《診療内容》

脳卒中、脳外傷、脊髄損傷、脊髄疾患、神経疾患、各種骨折、上下肢切断、癌に伴う身体障害、各種疾患療養後の廃用症候群等の疾患による身体機能障害や、言語機能障害、摂食嚥下障害、高次脳機能障害に対して、外来および入院でのリハビリテーション(以下リハビリ)対応。さらに装具の作成や更新、および各種書類の作成等を行っている。

《取り組み》

リハビリ科高橋が着任して2年近くが経過し、当院でリハビリ科が求められる2つの機能が明確化しており、1つ目が『摂食嚥下リハビリ』であり、2つ目が『外部からの入院リハビリ機能』である。

『摂食嚥下リハビリ』では、言語聴覚士(ST)2名と歯科衛生士(DH)2名と共に嚥下チームを結成し、院内の摂食嚥下リハビリのニーズに応える活動を継続している。入院患者の超高齢化が進む当院では、老齢による嚥下障害が一般的な状況であり、全入院患者の1割強が摂食嚥下リハビリアプローチの対象患者となっている。各科の主治医から、年間400件弱の『摂食嚥下リハビリ介入』の依頼を受け、その多くは絶食中の患者であり、ほぼ全例に嚥下内視鏡(VE)や嚥下造影(VF)を行っている。この結果をもとに、紹介患者の摂食嚥下訓練を開始し、週1回の嚥下カンファレンスにて、30例前後の摂食嚥下訓練症例の訓練進行度をチェックし、方針検討を行っている。

2つ目の課題である『外部からの入院リハビリ機能』については、地域包括ケア病床を用いて、自宅等で生活しADLが低下しつつある患者を中心に入院対象を募っている。“リフレッシュ・リハビリ・レスパイト(3-R)”と名付けたリハビリ短期入院の対象例に対して、2週間から2ヶ月間の入院リハビリを行い、退院後の療養計画を立案する機能を充実させた。当初、リフレッシュ・リハビリ入院対象者の紹介元は、ケアマネや訪問診療クリニック等、在宅対象の事業者を想定していた。最近では、他病院入院中の患者や施設入所中の利用者の身体障害および摂食嚥下障害に対するリハビリの入院依頼も増えている。また当院の各診療科からのレスパイト入院例も増加傾向にある。

2026年度は、現在の基盤の上に、着実に臨床活動を進めていくとともに、研修会や学会等を通して、当院の活動を発信していくことを検討していきたい。

《実績》

【摂食嚥下リハビリ】

2024年10月の嚥下チーム結成以来、ほぼ1日1例ペースで各診療科からの嚥下リハビリ依頼を受けており、年間400例弱のアプローチを行っている。

【リフレッシュ・リハビリ入院】

2024年12月10日に1例目が入院して以来、ほぼ週1例ペースでの入院を受けており、入院の可否や入院時期については、電子会議室の関係者協議で決定している。

《常勤スタッフ》

部長 川上 浩幸 医師 高木 崇仁
医師 瀬戸 一彦

《診療内容》

院内だけでなく、院外からの治療依頼も受け付け、月から金曜日まで週 5 日間、放射線治療を実施している。IMRT(強度変調放射線治療)、SRT(頭部および体幹部定位照射)等の高精度放射線治療が可能である。肺がん、食道がん、膵がん等に対する根治的放射線治療、乳がん術後照射等、周術期放射線治療、及び、脳転移、骨転移等への緩和的放射線治療まで、外部放射線治療全般に対応する他、放射性同位元素 ^{223}Ra による内用療法も実施している。

《取り組み》

日本放射線治療学会の認定施設である。IMRT、SRT 実施の施設基準を満たし、高精度放射線治療を市中病院として身近な環境で提供している。千葉大学、東邦大学の放射線科専門医研修プログラムへも参加し、医師教育にも協力している。

2010 年の放射線治療開始後、15 年を経て高精度照射を含めて約 4,000 件の治療を実施、肝腫瘍に対する定位照射を行える数少ない施設の一つでもある。今後も包括的がん医療の充実の一翼を担うべく、2025 年、以下の如く放射線治療システムの更新を行った。2026 年度はシステム更新後の新機能を活用し高精度照射を充実、近隣病院、医療施設との関係強化を図りたい。

《新治療システム》

新治療機器本体	ELECTA 社	Versa HD
マルチリーフコリメータ		Agility
マーカレス 4D-CBCT 機能		Symmetry
高精度 6 軸カーボン天板		HexaPOD evo
光学式体表面 tracking system		Catalyst ⁺ HD
フレームレス		SRT Catalyst ⁺ HD cSRS
治療計画システム		Monaco & RayStation
品質管理統合システム		AQUA

《常勤スタッフ》

手術部・麻酔科 部 長 設楽 敏朗
 医 師 菊入 麻紀子

《診療内容》

患者さんの入院から手術を経て退院までの周術期に携わり、主に手術中の全身麻酔管理を行っている。当院は、公益社団法人日本麻酔科学会が認定する麻酔科認定病院で、同学会の認定する麻酔科専門医が常勤している。

《取り組み》

安全で質の高い医療を提供することを常に心がけているが、地域の中核病院として、柔軟かつ臨機応変に対処することに重点を置いている。また、近隣大学病院との連携をとっており、最近の高度化・専門化している手術治療にも対応できるように取り組んでいる。

《実績》

2025 年度

全手術件数	3,573件
うち麻酔科管理件数	1,886件
全身麻酔	1,657件
全身麻酔＋硬膜外麻酔	229件

《常勤スタッフ》

副 部 長 笹井 大督

《診療内容》

1. 組織診
2. 細胞診
3. 術中迅速診断
4. 剖検および CPC

《取り組み》

当科では下記のごとく年間 3,000～3,500 件程度の組織診断、1,500 件程度の細胞診断を行っている。近年は特に乳癌症例の増加が目立ち、その他にも、呼吸器、消化管等癌のみならず非上皮性腫瘍が散見されている。ここ数年継続してきた抗体の整備・遺伝子検査を加えての複合的な診断を実施している。

病理解剖については、全国的に逓減傾向にあり、当科でも 2025 年度は 3 例(CPC2 例)と物足りない実績になっている。県内病理医の不足の解消に少しでも役立てるよう、千葉大学病理科研修プログラムの一環として専攻医の受け入れ、また、当院の全研修医が CPC での発表を行っている。

《実績》

診療実績(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

	外来	入院	健診	計	前年比
組織診	1,451	1,416	329	3,196 (うち手術検体 877 例)	+171 (手術検体+5)
細胞診	1,319	320	—	1,639	—3
術中迅速	0	199	—	199	+31
免疫染色	366	557	26	949	+135

これ以外に肺オンコマイン Dx や乳腺オンコタイプ Dx 等外注対応

その他

剖検 3 例

CPC 2 例

《はじめに》

当院の持つ医療機能(急性期から在宅まで)を最大限に活用し、適切な医療・看護を提供し地域医療に貢献することをビジョンとしている。また、看護の質を維持し病院機能の充実を実現すること、ベッドサイドナースが患者の回復過程に寄り添い、治療力を高める看護が実践できる環境整備、専門職としての使命を念頭に地域の皆様の健康に寄与することを目指している。

《目標と実績・評価》

2024年度から引き続く職員の確保・定着という課題と向き合いながら地域の皆様へ貢献できるための病院運営を模索しながらのスタートとなった。2025年度は、物価高騰の影響を受け病院経営が非常に厳しい状況に陥った。当院では、診療機能の検討や費用削減のための対策が実施され、それまで計画していた病床再編成から緩和ケア病棟再開へと急遽方針転換となった。緩和ケア病棟再開に向け、中途採用者の採用強化とともに院内異動も実施した。人員を送り出す職場にとっては非常に苦しい状況であったが、各職場の協力により緩和ケア病棟再開が実現した。当院自慢の病院全体でのチーム力が発揮された成果である。人材確保と定着においては、丁寧な実習指導や病院見学での対応や各種説明会への参加、学校訪問等の活動を継続した。結果、採用面接応募者数が増加し、2026年度は30名を超える新卒看護師と中途採用者を迎えることができた。また、院内認証看護師の育成も継続的に実施し、医師処遇改善と看護の質向上にも貢献している。2025年度は、多様な働き方を考慮したクリニカルラダー支援体制を整備した。学び続けられる職場環境は当院看護部の強みである。今後も育児・介護を抱えながらも学び続けられる体制を意識し専門性の高い看護ケア提供のさらなる推進のためにも挑戦し続けたい。

治療に効果的な看護提供を目標に、ベッドサイドでの記録時間確保への挑戦や、看護周辺業務を担当する看護補助者の配置も継続的に推進した。また、多忙な中でも“不機嫌禁止”を継承し相手を思いやるコミュニケーションを推進し続けた。看護部目標にも掲げている職員の心身の健康を保ち、より働きやすい職場づくりが進められた成果のひとつと考える。患者の病状に応じたアセスメントや看護実践の展開、さらに看護部で大切に学習を重ねてきた援助的コミュニケーションを精力的に実践した。それにより様々な患者の思いを受け止め、治療に向き合うプロセスに寄り添う看護が発揮された。2025年度も多くの方々から「利用者の声」としてお褒めの言葉をいただくことができた。

私たちは、今後も地域から選ばれる病院を目指し、看護力を結集し地域の皆さんの健康回復や安寧な暮らしに貢献し続けるチームであり続けたい。

《2025年度稼働実績》

病床稼働率：77.4% 平均在院日数：15.4日 入院患者数：308.8人

看護必要度：急性期一般 26.7% 地域包括：10.8%

A 2 病棟

課長 小松崎 亜紀

《はじめに》

A2 病棟は、乳腺外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、腎臓内科、緩和医療科の混合病棟である。重点目標を「専門職としての誇りと責任を持ち、高い知識と技術をもって看護を実践し、患者の安全を守り、患者自身が治療に意欲的に取り組めるよう支援する。患者の権利と尊厳を守り、ACP の実践により患者と家族の意向を尊重した医療・看護を提供する」と掲げ、多職種と協働し質の高い看護を提供した。2025 年度の手術件数は、計 1,034 件(耳鼻咽喉科 83 件・乳腺外科 242 件・泌尿器科 285 件・眼科 420 件・呼吸器外科 2 件・血管外科 1 件・腎臓内科 1 件)であり、手術件数は増加(2024 年度比 31.7%増)した。様々な診療科を有する病棟であり、病棟主催の勉強会実施により、専門職としての知識・技術の習得と向上に取り組んだ。2025 年度は緩和医療科領域での人材育成に取り組み、緩和医療科病棟再開に貢献した。また、がん診療を有する診療科を抱える病棟であり、告知から終末期まで継続的な看護を実践し、治療期では安心して治療を受けられるよう看護ケアおよび支援を行い、終末期には苦しみをやわらげ、寄り添う看護を実践した。2026 年度は、週末の病床稼働率増加を含む、病床稼働率の向上と安定化の実現、さらに、人材育成を丁寧に行うことにより、さらなる看護の質向上と、安定した病棟運営による地域への貢献を目指す。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、働きやすい職場環境を作る

ワークライフバランス推進のため、有給休暇取得率向上を目指したが、2025 年度 72.4%と 2024 年度より 1.2%減となった。2025 年度は緩和ケア病棟再開に伴い、教育に人員を要したことが要因であるため、2026 年度は、取得率向上を目指す。

2. 高い専門性をもち、専門職としての誇りと責任を持って質の高い看護を提供する

緩和医療科医師によるせん妄、せん妄時の薬剤、麻薬使用に関する勉強会を企画し、実施することにより、安全な薬剤選択やせん妄時のケアが可能となった。また、2025 年度より、シャント PTA 患者を積極的に受け入れ、さらに 2026 年度からはシャント造設術も受け入れることとなった。今後は認定看護師や多職種に協力を得て勉強会を企画、実践し、安全で質の高い看護の実践を目指す。

3. 患者さんが必要な医療を必要なタイミングで受けられるよう、柔軟な病床コントロールを実施する

予定入院 1,225 件・緊急入院 381 件/計 1,606 件(乳腺外科 299 件、泌尿器科 346 件、耳鼻咽喉科 127 件、緩和医療科 60 件、眼科 416 件、腎臓内科 167 件、呼吸器外科 89 件、リハビリテーション科 6 件、呼吸器内科 11 件、消化器内科 38 件、整形外科 40 件、総合内科 2 件、消化器外科 3 件、血管外科 2 件)の受け入れ(2024 年度比 18.1%増)を行い、当院で治療が必要な患者の受け入れに貢献した。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:78.8% 看護必要度:26.7% 平均在院日数:8.2 日 入院患者数:40.2 人

《はじめに》

A3 病棟は脊椎疾患を中心とした急性期の整形外科病棟として、小児期から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんを受け入れている。2025 年度 A3 病棟の手術件数は、年間 506 件行われ、手術件数は年々増加している。また、予定・緊急入院に関しても年間 732 件(2024 年度 688 件)の受け入れをし、早期に治療が必要な患者さんに対し、迅速に対応を行っている。

様々な背景を持つ患者さんが入院してくる中で、入院時より退院後の生活を見据え、患者さんやご家族の想いを尊重しながら多職種とともに退院支援を行っている。骨粗鬆症における二次的骨折予防に関連した取り組みとして、骨粗鬆症リエゾンナースを中心に入院中から骨粗鬆症における治療にも専門性をもち実施している。骨折等の受傷後も継続的に関わり、地域と連携しながら医療・看護を継続していくことで、退院後も患者さんが望む生活の実現と QOL 向上に向け支援している。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち専門職として互いを尊重しながら働き続けられる環境を整備する

2025 年度はリーダー業務のできるスタッフの異動や退職、産休が 6 名あり、スタッフ数は確保されているものの病棟全体の経験年数が下がったことで、病棟業務にプラスして教育等で時間を費やすことが多かった。しかし、リーダー育成に力を入れ 2025 年度では 2 名のリーダー看護師が誕生したことで、スタッフ一人ひとりの業務の負担が軽減されている。

2. 専門性を高め一人ひとりの患者さんに適切な看護を提供する

他病棟からの異動や中途採用者の入職により整形外科以外からの視点で患者をアセスメントすることができ、スタッフ同士が互いに知識を高め合うことで、患者さんの異常への対応が遅れることなく年間のコードブルー件数 0 件であった。また、骨粗鬆症リエゾンマネージャーが 2 名誕生したことにより、整形外科としての専門性も高めることに繋がった。身体拘束使用率に関しては日頃から身体拘束に変わる代替案を考えケアを実施した結果、2024 年度に比べ月平均が 2.8%から 0.8%に減少した。また、転倒転落の IA は半数ほどに減少した。

3. 入院を必要とする患者が安全に治療・看護を受けられるようベッドコントロールを行い安定稼働を維持する

地域包括病棟への転棟が困難となった中で、2024 年度に比べ、平均在院日数の延長は見られなかった。患者さんの希望する退院先への早期の介入を多職種で連携しながら意識的に行えることができた。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:87.1% 看護必要度:30.1% 平均在院日数:22.5 日 入院患者数:44.4 人

《はじめに》

A5 病棟は地域包括ケア病棟として、多職種と連携し安全で質の高いチーム医療の提供と病床を最大限活用し地域社会に貢献することを基本方針として病棟運営を行った。2025 年度は 545 件の患者の受け入れを行い、そのうち 515 件を自宅退院に向けて退院調整を行った。退院後に患者さんが過ごす場所が多様化する中で、患者さん自身がどこで、どのように過ごしたいと思っているのかを聴くことを大切にし、患者さんが望む場所で生活することができるよう退院支援・退院調整を行った。また、地域からのレスパイト入院やリハビリ目的の入院受け入れを行い、当病棟を利用しながら在宅での生活が続けられるような体制作りを行った。

今後も当院の地域包括ケア病棟が地域包括システムの一部として機能し、多職種や在宅関係者と連携しながら患者さんやご家族が安心して地域社会で過ごせるような退院支援・退院調整を行うことを目指していく。

《目標と実績・評価》

1. 患者の意思決定を支え、質の高い退院支援・調整を行う

限られた入院期間の中で患者さんの思いを聴き、退院支援に関する多職種カンファレンスを行い、多職種で専門性の高い退院支援を行った。また、退院後の生活を見据え、リハビリ見学や拡大カンファレンスを実施し、患者さんだけでなく、ご家族も安心して在宅で過ごすことができるような関わりを行った。

2. ベッドサイドケアの充実

セーフティリンクナースを中心に適切な転倒防止策が取られているか、患者さんのベッドサイドヘラウンドを実施し環境整備に努めた。また、褥瘡リンクナースを中心に勉強会やカンファレンスを行い、褥瘡予防に努めた。感染管理については、適切な PPE と手指衛生の理解を深め病棟内での感染拡大を予防することができた。そして、多様な疾患の入院に対応できるよう、継続的に勉強会を行っている。

3. 心身の健康を保ち、お互いを尊重し助け合える職場環境をつくる

スタッフ同士でお互いのワークライフバランスを尊重し、希望の休暇を取得しながら心身の健康を保ち働くことができた。

4. 地域包括ケア病棟入院料取得継続に向けた取り組みを行う

2024 年度診療報酬改定後の 5 月から施設基準を達成、継続することができている。地域包括ケアシステムの一部として、患者さんやご家族が地域社会で過せるようにケアマネジャーに向けて広報活動を行い、レスパイト入院やリハビリ目的入院の受け入れ体制を整えた。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:95.7% 看護必要度:10.8% 平均在院日数:17.3 日 入院患者数:45.9 人
在宅復帰率:85.1%

《はじめに》

B2 病棟では消化器外科、呼吸器外科、呼吸器内科、血管外科、眼科の病棟として、緊急・予定入院を専門的かつ最善の治療が受けられるベッドの選択と高稼働な病床利用に貢献できるように取り組んでいる。2025 年度 B2 病棟で担当した手術は予定手術 819 件、緊急手術 109 件であった。急性期・周手術期看護の質向上のため、スペシャリストの育成に重きを置き、新規でストーマサイトマーキング加算取得看護師：1 名、がん化学療法院内認証看護師：2 名育成した。また継続看護を大切にしており、ストーマ造設患者さんに対し術前よりストーマオリエンテーションを開始し、ストーマカンファレンス(WOC 介入)を実施することで、入院中から退院および外来から退院まで切れ目のない継続看護の実施を実現することができた。今後も患者さんが安心して入院生活を送れるように専門性の高い看護を提供しながら継続看護ができるように外来、多職種との連携に努めていきたい。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、働き続けられる職場環境作り

新人看護師や中途採用者に対してプリセプターや教育担当者だけではなく職場全体で情報共有を行い、技術習得やモチベーション維持に向けて職場全体で声かけを行う等の取り組みを行うことができた。

有給休暇取得は、2025 年度は職場平均 10.3 日と有給取得率：58.4%であった。今後も、ワークライフバランスが保てるように、スタッフ一丸となって働きやすい職場環境を整えていきたい。

2. スタッフ個々が看護実践能力を発揮し、急性期・症状緩和ケアの質の向上を目指す

急変時の対応や急変の予兆のアセスメント能力の向上に向けて係長を中心に RRS の周知や共有に向けて取り組むことができた。また、不必要な身体拘束をなくすために毎日身体拘束の 3 原則に沿ってカンファレンスを行い、年間 32 件の身体拘束を早期に解除することができた。2025 年度身体拘束率：3.2%、身体拘束平均日数 1.3 日であった。

3. 安全対策を強化し、医療・看護の質を保証する

感染リンクナースを中心に、感染症が疑われる患者の PPE の着用 100%と適切な手指衛生のタイミングにより、アウトブレイクは発生しなかった。また、セーフティリンクナースを中心に PDA 使用率 100%の達成およびマニュアルの遵守は、今後の課題である。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:82.6% 看護必要度:34.2% 平均在院日数:9.1 日 入院患者数:39.6 人

B 3 病棟

課長 由井 真里子

《はじめに》

B3 病棟は急性期整形外科病棟として「迅速な医療の提供と、安全・安心・信頼される看護の実践」「患者・家族中心のケアの提供」を基本方針とし、日々の看護実践に取り組み、加えて「専門職として自立し、お互いの成長を支援し尊重しあえる職場作り」を目指し、チームとして多職種との協働を大切にしながら、より良い医療環境の構築に努めた。今後も多職種連携を一層深化させることで、専門性を発揮できる環境作りを通じて、持続可能なチーム医療の実現と看護の質向上を目指し、地域医療に貢献していく。

《目標と実績・評価》

1. 患者の望む専門性の高い治療・看護ケアを提供する

緊急入院 331 件を受け入れ、他病棟と連携しながら受け入れを断らない体制を維持した。年間入院総件数は 923 件であり、当院での治療を希望する地域住民のニーズに応えることができた。また、当日緊急手術 87 件、年間手術総件数 668 件に対応し、迅速な入院環境の提供を継続することができた。専門性を高めるために病棟内で勉強会や困難事例の症例検討を行い、病床編成の変更に伴い、新たな領域に関する学習する機会を設け、看護師の専門性向上に努めた。

2. 医療安全対策を強化し、的確な急性期看護を実践する

IA レポートは毎週カンファレンスで共有し、レベル 3 以上の IA に関しては RCA 分析を実施し、原因の明確化と再発防止策の共有を徹底したことで同様のインシデントは起きておらず、安全管理に対する意識向上が図られた。身体拘束に関しては、患者さんの ADL に応じた環境調整を行い、カンファレンスを通じた検討を重ねた結果、身体拘束率は 5.4% (2024 年度 7.3%) と減少した。また、転倒予防の観点からも、個別性に応じた安全対策の実施が進んだ。褥瘡対策では、体位交換の実施時間を明確化し、病棟全体で取り組む体制を整えたことで、褥瘡発生率は 1.5% (2024 年度 2.2%) と改善した。感染対策については、標準予防策および感染経路別予防策の徹底により感染拡大は認められなかった。

3. 心身の健康を保ち、働きやすい職場環境を作る

職場環境においては不適切な発言はなく、スタッフ間の相互尊重が保たれ、相談しやすく働きやすい環境が維持されている。業務面では、薬剤師とのタスクシフト・タスクシェアの推進や、麻酔科医・主治医との連携による術後管理・搬送方法の見直しを行い、術後患者の安全確保と業務効率の向上に繋げた。その結果、超過勤務時間は月平均 11.2 時間と目標である 20 時間以内を達成することができた。休暇取得においては希望休 100% を達成し、有給休暇も年間平均 14 日取得することができ、ワークライフバランスの維持に寄与した。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:94.2% 看護必要度:35.2% 平均在院日数:18.7 日 入院患者数:45.2 人

B 4 病棟

課長 横内 彩加

《はじめに》

B4 病棟は腎臓内科、循環器内科の診療科と一般内科の患者さんの受け入れを行っている。患者さんが安心して入院生活を送り、治療に専念できる環境を整え、質の高い看護を提供することを重点目標として、日々の看護実践に取り組んでいる。高稼働を維持し当該科の患者さんの受け入れをスムーズに行うために、ベッドコントロールや退院調整にスタッフ全員で取り組んだことで受け持ち看護師としての役割発揮に繋がられた。

シャント造設	腎生検	PD 導入	CKD 教育
50 件	56 件	4 件	119 件
心臓カテーテル検査	PCI	PTA	心不全教育
58 件	50 件	22 件	6 件

《目標と実績・評価》

1. 専門性を発揮し個々の看護実践能力向上を図る

腎臓内科・循環器内科において院内外合わせて年間 18 件の勉強会を開催し、急変事例について早期に振り返ることで、急変予防および対応力の向上を図った。また、心臓カテーテル治療中の急変シミュレーションを病棟で共有し、それぞれの知識向上に努めた。

高齢化による、腹膜透析導入後の退院調整や手技獲得に難渋するケースに対して拡大カンファレンスを開催し、家族指導や訪問看護師へ教育指導を行い外来での継続看護に繋がった。また、千葉県透析研究会で腹膜透析導入患者の症例研究発表を行い、個々のスキル UP に繋がった。近隣施設やクリニックスタッフを対象に腹膜透析の勉強会を開催し 35 名以上が参加し学びを深め、近隣施設とのつながりを持つことができた。2025 年度も PD 外来、CKD 看護外来に関わり継続看護に繋げることができた。

2. 倫理的視点を強化し看護の質保証を目指す

受け持ち看護師が中心となり患者さんご家族の不安、気がかりを記録に残しカンファレンスで検討することで統一した継続看護が行えた。また CKD 教育患者さんや SDM(共同意思決定)、もう透析をしたくないと思う患者さんの思いに対し倫理カンファレンスを実施した。患者さんの思いを共有し倫理感性を高める機会となった。今後も倫理感性を高められるような取り組みを継続していく。

3. スタッフ一人ひとりがお互いを思いやり、働きやすい職場環境を作る

2 チーム制から 1 チーム制に変更しリーダーの業務の見直しや補助者へ入院患者のオリエンテーション、腎生検や経食道エコーの事前準備をタスクシフトし、業務負担の軽減に努めた。また超勤時間削減の取り組みとして、平日に「ノー残業デー」を設けたことで超過勤務 13.6 時間/月(2024 年度 19.8 時間/月)と削減できた。有給休暇取得率平均 62.7%、取得日数 11.1 日と 2024 年度よりも減少しているが、スタッフ全員がお互いを助け合い、協力体制を図ることで退職者 0 名であった。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:93.4% 看護必要度:16.4% 平均在院日数:16.9 日 入院患者数:44.8 人

《はじめに》

B5 病棟は、消化器内科・小児科の診療科として幅広い年齢層の患者さんの受け入れを行っている。「千葉県がん診療連携協力病院」である消化器内科では、診断から治療まで包括的にサポート出来る体制づくりに取り組んだ。急性期疾患では患者さんが安心して治療が受けられるように知識や技術の習得に努め、がん化学療法等安全に医療が提供できた。また、慢性疾患を持つ患者さんには、自己管理能力が高まり、自立して生活できるように、状態に合わせたセルフケア支援を行った。小児科では、経口食物負荷試験や成長ホルモン負荷試験、腎疾患の診断や治療、流行性の疾患を中心に受け入れている。今後も様々な年代の患者さんやご家族が、安心して入院生活を過ごせるような環境作りに重点を置き、患者さんの治癒力が高まるように最善の看護を提供していきたい。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、働き続けられる職場作り

心理的安全性の確保により、スタッフ間での報告・相談・意見交換が活発となり、情報共有が円滑に行われた。その結果、互いに支え合う風土が形成され、チームとして協働しながら看護実践することができた。今後はそれぞれのライフステージに応じた柔軟な勤務体制の整備により、スタッフが無理なく働き続けられる環境作りを推進し、職場定着およびワークライフバランスの向上を目指す。

2. 治療に効果的な看護の提供

2025 年度は、身体拘束予防と離床促進を目的に、週 1 回の病棟内デイケアを開始した。体操やレクリエーションを取り入れることで、患者さんの離床機会が増加し、日中の活動性向上に繋がった。一方で、対象患者さんの選定やスタッフ配置、継続的な実施体制に課題が残るため、今後は多職種連携を強化し、さらなる質の向上に努める。

褥瘡発生防止のため、入院時からリスクアセスメントの徹底と体圧分散ケアの強化に取り組んだ結果、褥瘡推定発生率は 1.6% (2025 年度 2.6%) へ減少し、重症化防止に寄与した。

3. 患者さんのニーズに応える退院支援の推進

2025 年度は、735 件の緊急入院と 399 件の予定入院の受け入れを行った。患者さんのニーズに応じた入退院支援の充実のため、入院早期からの退院支援介入と多職種連携の強化に取り組んだ。入院時スクリーニングのため、病棟独自のテンプレートを作成し、生活背景や介護力を把握することで、個別性の高い支援を実践した。また、医師・看護師・MSW・リハビリ職とのカンファレンスを定期的を実施し、情報共有と方針統一を図った。これにより、患者さんやご家族が退院後の生活を具体的にイメージできる支援に繋がった。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:90.9% 看護必要度:18.7% 平均在院日数:14.0 日 入院患者数:43.6 人

《はじめに》

C3 病棟は緩和ケア病棟として 2007 年 6 月に「終末期がん患者の生きる希望を支え、その人らしい生き方ができるように共に過ごす」ことを目指して開設となった。2020 年 4 月に新型コロナ患者の受け入れを行うために緩和ケア病棟としての役割を一旦休止したが、A2 病棟で緩和ケア患者の受け入れを行い、緩和ケア看護の実践を行ってきた。2025 年 11 月に C3 病棟で緩和ケア病棟の再開となり、組織としての体制を整え終末期がん患者さんを受け入れる準備や周辺医療機関へ当院の緩和ケア病棟を利用してもらえるようにインフォメーションし、2026 年 3 月までに 83 人の患者さんを受け入れた。緩和ケア病棟再開に伴い入職したスタッフとともに、当院の緩和ケア病棟で大切にしている看護を共有し、患者さんやご家族の苦しみに目を向けた緩和ケア看護の実践を行った。

今後も患者さんにご家族が日常を穏やかに過ごし、看護師との対話の中で患者さん自身が生きる意味を見いだすことができるような看護の提供をしていきたい。

《目標と実績・評価》

1. 対人援助技術を発揮し、それぞれの患者さんの体験に目を向けた看護実践を行う

カンファレンスの場で、患者さんの気がかりはどのようなことか言語化し、スピリチュアルペインの表出があったときにどのように援助的コミュニケーションを用いて苦しみを和らげたらよいか話し合うことができた。また、新入職員に対して援助的コミュニケーションの勉強会を行った。今後は、対人援助論を理解し実践できるような教育プログラムの検討を行っていく。

2. 専門職としての知識を身につけ、質の高い看護の提供を行う

緩和ケア病棟で使用する薬剤(麻薬・下剤)の勉強会を実施し基本的な薬剤に関する知識の習得に努めた。勉強会後には得た知識をもとに、実践の場で薬剤の使用方法を OJT することで理解を深めることができた。

3. 緩和ケア病棟の体制を再構築し、円滑に病棟運営を行うことができる

緩和ケア病棟再開に向けてのプロジェクトチームへ参加し、開棟に向けての準備を行い、周辺医療機関への訪問を 17 件行った。また、緩和医療科以外の診療科での受け入れ体制を整え、終末期がん患者さんへの緩和医療の提供に努めた。

4. 心身の健康を保ち、お互いに尊重し合える職場環境をつくる

病棟全体で業務内容の検討を行い、看護師と看護補助者が連携しお互いを気遣い、忙しい時こそ声かけを大切にチームワークよく働くことができた。開棟後の 5 ヶ月間での有給休暇取得は平均 2.5 日となっている。

《2025 年度稼働実績》

病床稼働率:66.6% 平均在院日数:23.3 日 入院患者数:12.0 人

《はじめに》

感染症対策として入り口での体調確認や体温測定等、状況に応じた検査等を継続し、透析患者さんに安全な治療環境を提供することができた。自然災害等の有事を想定し、透析センターの運営状況や案内をリアルタイムに患者さんへ情報提供するために、病院ホームページで確認できるシステムを構築し、運用を開始した。2025年度は積雪時における来院時刻の変更に対応できる空きベッドの案内を行った。

通院透析をしている患者さんの栄養摂取や、昼食を欠食することによるフレイル予防のため、栄養科と協働してカロリー・タンパク質・塩分・リン・カリウムが管理された透析弁当の提供を開始した。検査や治療による透析終了時刻の変更時も温かい食事を提供できるよう連携を取り運用している。

食事や運動等、患者さんがセルフケアを行えるようなテーマに着目した「透析だより」を毎月発行した。「透析川柳」では患者さんがよんだ力作が評判を呼び、定期的に院内ディスプレイで作品を公開している。

一方で高齢化や通院困難等の事情により、当院に通院している透析患者さんは減少傾向にあり、現在 211 名が通院透析を行なっている。しかし、透析の離脱者を除く純透析導入患者 43 名のうち、当院の残留率は 37%と高値であり、佐倉市在住の患者さんに至っては 52%と高い。今後も多職種と一丸となり地域に選ばれる透析室となるよう、患者さん一人ひとりへきめ細やかな支援を行っていきたい。

《目標と実績・評価》

『患者が充実した日常生活を送ることができるよう、質の高い透析看護を実践する』

フットケアや透析中の運動療法を推進し、下肢筋力低下予防と下肢末梢動脈疾患の早期発見に努めることで、特に高齢の患者さんが元気に通い続けられるよう支援を継続している。腎不全看護特定認定看護師を中心に臨床推論力の向上を目的としたスタッフ教育を行い、透析中の血圧低下や下肢つれ等、不快症状のない安定した治療環境を提供できるようになった。患者さんへのセルフケア支援を強化するとともに看護研究を行い、千葉県透析研究会では 1 演題発表することができた。

また、安全対策を強化し、IA レポート数は院内最多であるが、重大アクシデントは 0 件である。必要時多職種で IA カンファレンスを行い、透析センター全体での安全文化の醸成に努めている。

事前指示書をきっかけとした ACP も継続しており、現在 10 名の患者さんが自分の望む治療や生き方について意思を明確に示している。

これからも他部門・多職種と連携し、患者中心の透析治療を実践していきたい。

《はじめに》

手術室では依頼された手術は可能な限り対応する方針のもと、2025 年度も多職種が連携し安全を最優先とした手術室運営に取り組み、年間 3,586 件の手術を実施した。これは開院以来の最大件数であり、手術に携わる全てのスタッフが一丸となって継続的に取り組んできた結果である。血管外科や耳鼻咽喉科では新しい術式が加わり、各々の手術件数の増加と手術室スタッフの知見を広げることへと繋がった。また、2025 年度は一貫した周術期看護の実践を目標に掲げ、術後訪問に力を入れた。2024 年度より実施件数が増え、実践した看護を振り返る良い機会となった。2026 年度以降も継続して行えるよう体制を整えたい。術前訪問はスタッフの努力と工夫により 99.8%を達成し、麻酔科医、主治医、臨床工学技士、薬剤師等、多職種での情報共有が充実し、専門的で個別性のある周術期看護の実践へと繋がった。2025 年度から活動を開始している術中麻酔科領域特定看護師は、麻酔科医の指導の下、安全を最優先とした実践を行い、その活動範囲を拡大できた。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、働きやすい職場作り

皆が公平に休暇の取得ができるよう 2 ヶ月前より希望の可視化を行い、お互いを尊重しながら有給休暇を取得できている。取得率は 90%以上で、仕事とプライベートの両立が維持できた。2025 年度は手術件数(2024 年度比+227 件)が増加したが、継続的な業務整理と多職種との連携やタスクシェアにより、超過勤務時間は約 15%削減できた。

2. 治療に効果的で安心・安全な手術看護を提供する

2025 年度の IA 報告は 152 件であった。患者誤認や薬剤関連等の重大な有害事象に繋がる事例について、セーフティリンクナースを中心に RCA 分析を実施し、速やかな対策の樹立と実践へ反映することができた。また、KYT を行ったことでリスク感性の醸成に繋がった。感染リンクナースによる手指衛生の継続的な啓発活動により、スタッフ自らが感染源にならないよう感染予防対策への意識が向上した。2025 年度は一貫した周術期看護の実践という視点から術後訪問を推進した結果、術後の患者評価とフィードバックが充実し、看護実践の質の向上および安全な周術期管理の強化を図ることができた。スキンテアや褥瘡については褥瘡リンクナースを中心として、効果的な体圧分散材料の選択と除圧方法、スキンテア予防を再検討し、看護実践へ反映させることができた。

3. 多職種・他病棟と連携を図り、円滑な手術室を運営する

臨床工学部門とのタスクシェアや清掃業者・洗浄業者との連携強化による各手術室の非稼働時間短縮、同日に複数回使用する器材準備を効率化させたことで、予定手術に加え 775 件(2024 年度 718 件)を受け入れることができた。今後も各々の専門性を尊重しながら、円滑な手術室運営を目指していきたい。

《はじめに》

外来診療という限られた時間の中で、患者さんが安心して医療・看護を受けられることを第一としている。特に外来においては、多職種連携は必須であり、患者中心の医療が求められる。患者さん・ご家族の視点に立ち個々に合わせた説明や指導を行い、患者さん・ご家族が病状を受け入れ理解して治療を受け入れられるように、多職種と連携し安全で質の高いチーム医療を提供する取り組みを行っている。禁煙外来は微減したが、その他の看護介入件数は大幅に増加した。患者さんが住み慣れた場所でセルフケアができるよう、看護師は高い専門性を発揮し、患者さんのニーズに還元できるよう支援していく。

中核病院として 2025 年度は 2,137 件の救急車を受け入れ、地域医療に貢献するよう努めた。地域医療連携室や病棟と連携し、多くの患者を受け入れられるよう、平日の一部ではあるが、ファーストで救急担当医師がホットライン対応することを開始した。タイムリーに救急患者を迅速に受け入れることで地域への信頼に繋がっている。

(看護介入件数)

CKD・HD 予防	慢性腎臓病透析予防	腎代替療法	骨粗鬆症再骨折予防
1,184 件	825 件	33 件	337 件
心不全療養支援	排尿自立支援	禁煙外来	生活習慣病支援
460 件	145 件	52 件	493 件

《目標と実績・評価》

1. スタッフが専門性を発揮し、安全で質の高い患者中心の看護を提供する

専門性の高い看護実践を行うため、自己の目指す分野で学習を継続し、心不全療養指導士 1 名取得した。個々で学会や研修に参加し知識や実践の向上に繋げることができた。迅速に急変や受診時の病状悪化の振り返りを行い、危機意識を高め急変対応力を強化した。

2. 多職種・他部門と連携し合い、業務改善を通して働きやすい職場を目指す

心理的安全性の高い職場を意識し、互いの立場や状況を理解した上で意見交換ができる環境を作り、必要時は適宜注意喚起することができた。待ち時間が長くなる総合内科では、時折、医師への協力も得ながら対策に繋がった。

3. マニュアルを遵守し安全対策を強化する

患者誤認防止のためネームバンドの使用を徹底しスタッフ全員が意識することで定着した。IA 発生時は早期に振り返りを行い情報共有した。感染対策では、適切なタイミングで手指衛生が行えているか確認しリンクナースが中心となり指導を実践した。スタッフが主体的に防災訓練に参加し災害対策に取り組むことができた。

《はじめに》

2025 年度画像内視鏡外来では、個別性を尊重し、安全で質の高い患者中心の医療・看護が提供できるように取り組んできた。内視鏡検査については、検査の説明や、問診を行う際に不安や疑問点、気がかりを確認し、最善を尽くして、安全かつ安心して検査を受けられるよう努めた。入院して行う心臓カテーテル検査については、検査前に病棟に訪問し患者さんの声を直接聴き、病棟と情報共有することで個々に応じたケアへ繋げることができた。特に侵襲性の高い検査に関しては、急変時を想定して、適切かつ迅速に対応できるように定期的にシミュレーション訓練を実践している。

今後も画像内視鏡外来における専門性の高い技術や知識の向上に努めることで、患者さんの安全と検査や治療に伴う不安や苦痛が、最小限となる治療環境を整えていきたい。

年度	内視鏡件数	画像系検査数	放射線治療	検査説明数
2023 年度	5,339 件	4,655 件	4,668 件	6,366 件
2024 年度	4,979 件	5,520 件	3,173 件	6,213 件
2025 年度	5,105 件	4,802 件	4,240 件	5,442 件

《目標と実績・評価》

1. 検査や治療に伴う患者の苦痛、不安・気がかり、心配に思う患者の声を聴き安全で安楽な看護を提供する

上部消化管検査を受けるにあたり、苦しいのではないかと、嘔吐反射がつかうのかという声が患者さんから多数聞かれていたため、鎮静の深さを評価する指標を新たに取り入れ、不安や緊張を和らげる目的で鎮静剤を使用していることを検査説明時に案内できるようにした。また検査中の安楽な体位について検討し周知することで、苦痛の軽減に努めることができた。心臓カテーテル検査の検査前訪問は、ほぼ 100%実施できたが検査後の訪問も検討し継続看護に繋げていきたい。

今後もスタッフ個々のスキルアップと役割発揮に向けて自律した職務を遂行できるように多職種と連携して患者カンファレンスや勉強会を実施していきたい。

2. 心身の健康を保ち、笑顔で働きつづけられる職場環境をつくる

スタッフ個々が日々実践している看護を共有しながら活発に意見交換を行うことができた。困ったときは助け合える風土と、多様な働き方を尊重することで安心して働くことができる職場環境を維持することができた。

3. マニュアルを遵守し、医療・看護の質を保証する

感染リンクナースの働きかけにより、適切なタイミングでの手指衛生や感染防護具の着用を徹底することができた。また 0 レベルの IA を共有することで安全な療養環境に向けて意識を高めることができた。

《はじめに》

2025 年度は、5 領域 7 名の認定看護師（以下 CN とする）、3 名の特定看護師（慢性疾患管理モデル：糖尿病ケア、腎不全看護、術中麻酔看護）が活動した。主な活動として、院内の困難事例への看護実践とケアの質向上を目指し、以下の取り組みを行った。

《目標と実績・評価》

1. CN が各領域における困難事例を受け持ち、役割モデルとなる
以下に、各 CN の活動内容および実践・相談件数を示す

領域	活動内容	実践/相談件数	
糖尿病看護 (特定看護師)	①特定行為の実施②外来診察同席 ③生活習慣病支援外来④在宅療養指導料⑤糖尿病透析予防外来⑥フットケア	高橋 弥	①9,215 件(865 名)②84 件(14 名)
		長谷川	①3 名③289 名④272 名⑤341 名 ⑥57 件
皮膚・排泄ケア	①ストーマケア(病棟+外来) ②ストーマサイトマーキング ③スキンケア④褥瘡ハイリスク ⑤褥瘡・創傷回診⑥褥瘡・創傷ケア ⑦排尿自立支援(病棟+外来)	青木	①180 件(62 名)②11 件(11 名) ③8 件(7 名)④930 件(930 名) ⑤393 件(133 名)⑥265 件(83 名) ⑦145 件(57 名)
		高野	①8 件(6 名)⑥6 件(5 名)
慢性心不全看護	①入院患者の心不全療養支援 ②外来患者の心不全療養支援	宍倉	①18 件(18 名) ②204 件(87 名)
がん化学療法	①困難事例介入 ②院内認証看護師育成	杉本	①16 件 ②新規 7 名(42 名)
腎不全看護 (特定看護師)	①特定行為の実施②透析管理実践 ③意思決定支援	永田	①97 件(46 名) ②152 件③4 件(3 名)
術中麻酔看護 (特定看護師)	①特定行為の実施	中嶋	①37 件(29 名)

2. 治療に効果的な看護の提供

1) 院内教育に必要な勉強会を開催

①皮膚・排泄ケア：48 件、②慢性心不全看護：5 件(動画 2 件)、③糖尿病看護：1 件、
④腎不全看護：1 件

2) コンサルテーションについて CN 同士で知識を深め、スタッフに勉強会を開催した。

3) 排泄に関する簡易エコーの研修・演習を実施し 90 名を育成した。

4) 補助者が専門的な知識を持って看護指示のもと看護ケアができるように、看護補助者への勉強会を実施した。

3. 安全対策の強化

1) 看護スタッフに対し、各 CN 領域における「IA から学ぶ」の勉強会を開催し、67 名参加した。

4. 看護の力で地域に選ばれる病院および院内への周知

地域広報誌 DIGITaL-STaD は年 2 回掲載した。11 月に糖尿病フェアと同時にわくわく健康教室を開催し 42 名の参加があった。

5. CN がいきいきと活動するための職場づくり

CN 会議での相互支援と意見交換を実施した。円滑なコミュニケーションのために会議では、グランドルールを設け、1 人ひとり意見を述べることとし、否定する姿勢はなく様々な視点で考えることができ円滑なコミュニケーションに繋がった。

《はじめに》

地域包括ケアの推進により入院期間が短縮する中で、患者さんが住み慣れた地域で安定した生活を送るためには、入院前から退院、退院後の在宅療養まで一貫した地域との連携が必要不可欠である。より円滑で効果的な退院支援を可能とするため、2024 年度に引き続き退院支援に関する人材育成を目的とした教育体制の構築に取り組み、対象の病棟看護師が自立して退院支援を実践できるよう研修を実施した。患者さん自身が望む生活を送れるよう、院内外が多職種と協働し地域にケアを繋ぐ役割をさらに充実させていきたい。

《目標と実績・評価》

1. 患者さんが住み慣れた地域で過ごすことができるような看護を提供できる

訪問看護やケアマネジャー、地域包括支援センター等からの受診に関する問い合わせや、患者さん・家族からの在宅療養に関する相談等、看護相談が窓口となり平均 360 件/月の対応を行った。継続看護が必要な患者さんの情報共有をタイムリーに行い、必要に応じて必要な支援が行えるよう、外来や院外の部門との連携も積極的に行った。また、緩和医療科の初診の受付窓口として年間で 146 件の新規受付を行った。

2. 患者さんが安心して安全に入院生活を送るために、入院時支援を充実させる

患者支援センターでは入院医事課、薬剤科、栄養科等多職種と聞き取った情報を共有し効果的でスムーズに入院時支援が行えるよう連携を図った。来所人数は 4,094 名であり 2024 年度比 109%だった。また必要な情報を病棟へ伝えることで入院前から退院後を見据えた患者支援が可能となった。スタッフ数は限られているが、多職種の連携により入退院支援加算は 2024 年度比 110%と増加した。

	入退院支援加算	入院時支援加算	介護支援等連携指導料
2023 年度	4,615 件	2,307 件	79 件
2024 年度	5,313 件	2,339 件	58 件
2025 年度	5,745 件	2,445 件	52 件

3. 入退院支援に関して意思決定支援、自立支援が主体的にできるような人材を育成するための教育体制を構築する(継続教育委員会と連携する)

ラダーⅢ、Ⅳをチャレンジしているスタッフを対象に退院支援研修を 2 回実施した。研修に参加したスタッフとともに退院支援リンクナースが中心となり主体的に退院支援を行えるようになった。引き続き、リンクナースの支援とともにキャリアラダーの段階別による教育体制を検討し、主体的に退院支援を行える人材育成を行っていく。

《スタッフ》

臨床検査技師 28 名 准看護師 1 名 事務受付 3 名

《資格取得者数》

超音波検査士(循環器 1 名 消化器 1 名 体表臓器 1 名 健診 1 名)

JHRS 認定心電図専門士 1 名 心電図検定 1 級 2 名 心電図検定 2 級 2 名

細胞検査士 2 名 国際細胞検査士 1 名 認定病理検査技師 1 名

有機溶剤取扱者 1 名 特定化学物質取扱者 1 名 毒物劇物取扱責任者 1 名

化学物質管理者 1 名 日本乳がん検診精度管理中央機構乳房超音波講習会認定 2 名

千葉県糖尿病療養指導士 1 名 ピンクリボンアドバイザー初級 2 名

二級臨床検査士(臨床化学 1 名 血液 1 名 免疫血清学 1 名 病理学 3 名

循環生理学 1 名) 緊急検査士 4 名 ME2 種 1 名 骨粗鬆症マネージャー 2 名

臨地実習指導責任者 2 名 医療環境管理士 1 名

《業務内容》

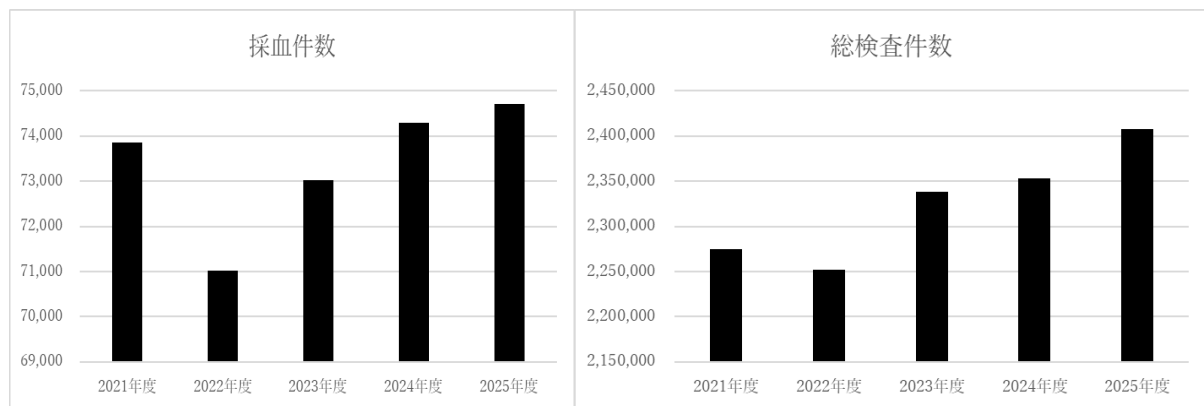
採血業務、健診センター業務、一般検査、血液検査、生化学検査、免疫学検査、生理検査、病理検査、輸血検査、細菌検査(培養・同定・感受性を BML へ委託)。また、検査業務以外に、糖尿病教室、腎臓病教室、骨粗鬆症リエゾンマネージャー外来、感染対策、NST、治験業務等へ積極的に参加している。

《取り組み》

全自動尿中有形成分分析装置の更新により臨床検査技師の目に加え、細かなデータ解析が可能となり臨床側への細かな報告を行うことが可能となった。また、多職種との連携の一環として NST や循環器勉強会の開催を行った。感染対策の面では ICT 活動の見直しを積極的に実施した。外部精度管理(日本医師会、日本臨床検査技師会、全衛連等、各メーカーサーベイ)において、2025 年度も高い評価が得られた。

《実績》

2024 年度と比較し採血件数は 418 件、総検査件数は 54,056 件増加となった。



《スタッフ》

視能訓練士 8 名(パート 2 名含む) 眼科コメディカル 2 名(パート)

《業務内容》

・眼科一般検査

視力検査・眼圧検査・角膜内皮細胞検査・角膜形状解析検査・動的量的視野検査
 静的量的視野検査・眼底カメラ検査・蛍光眼底造影・光干渉断層撮影
 光干渉断層血管撮影・自発蛍光撮影・前眼部光干渉断層撮影
 網膜電位図・検影法・色覚検査・眼軸長測定・中心フリッカー・眼鏡処方

・斜視弱視検査

眼位眼球運動検査・両眼視機能検査・網膜対応検査・立体視検査
 抑制除去訓練・輻輳訓練・弱視訓練

・ロービジョンケア(低視力者に対して視機能評価、視覚補助具の選定と指導)

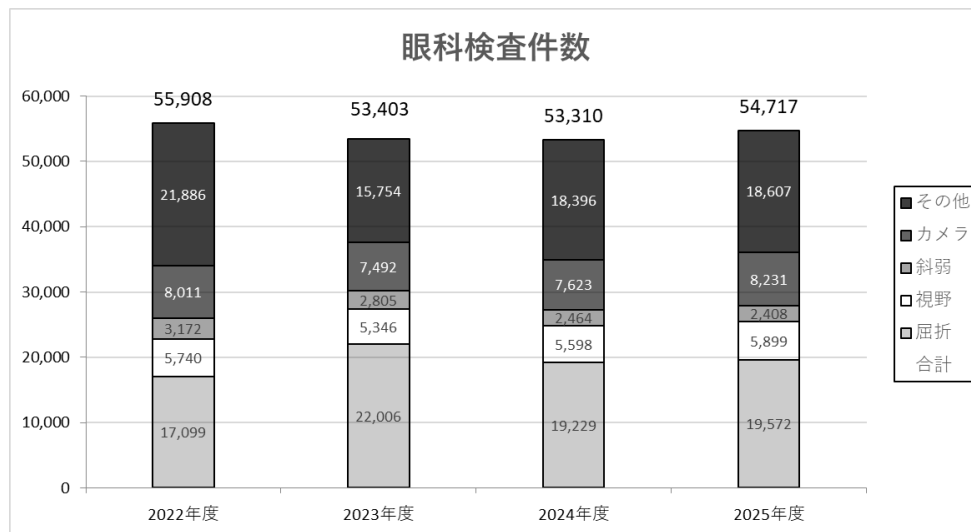
・健診センター業務(視力検査・眼圧検査・眼底カメラ検査)

《取り組み》

2025 年度は、5 年間コロナで中止をしていた眼の愛護デーにちなんだ眼科主催のイベントを 9 月に開催し、約 100 名の地域の皆さんとの交流を図った。また、視能訓練士養成校からの実習生 4 名を受け入れ、後進の育成に努めた。

2026 年度は、新たな視能訓練士養成校からの実習生を受け入れ、さらなる後進の育成に努めたい。また、周辺地域の健康管理センターに挨拶へ行き、3 歳児健康診査にて要精密検査となった患者さんを当院へ紹介していただけるよう調整を進め、患者増に繋げたい。小児からご高齢の方まで、多くの患者さんに寄り添った質の高い医療の提供を行えるようスタッフ一同日々精進し、2026 年度も引き続き、眼科医師、看護師、事務員と連携してチーム医療を推進していく。

《実績》



《スタッフ》

薬剤師 23 名 事務 1 名 薬剤助手 2 名 (パート含む)

《資格取得者数》

がん薬物療法認定薬剤師 1 名 外来がん治療専門薬剤師 1 名
感染制御認定薬剤師 1 名 抗菌化学療法認定薬剤師 3 名
腎臓病療養指導士 2 名 腎代替療法専門指導士 1 名 認定実務実習指導薬剤師 6 名
日病薬病院薬学認定薬剤師 3 名 骨粗鬆症マネージャー 2 名
NST 専門療法士 6 名 周術期管理チーム薬剤師 1 名 心不全療養指導士 1 名 ほか

《業務内容》

調剤業務、製剤業務、病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報業務、抗がん剤調製業務、通院治療室・手術室・透析室常駐、ICT や NST、褥瘡回診等チーム医療への参画、医薬品の購入・在庫管理業務、治験業務への関与、実務実習薬学生やインターン学生の受け入れ

《取り組み》

2025 年度は、患者さんがより安心できる医療環境を目指し医療安全の向上に注力した。副作用報告の運用見直しやアナフィラキシー対応の刷新に加え、院内の IA(インシデント等)に基づいた研修会を実施し、現場の課題に即した安全管理体制を構築した。また防災面では行政や地域の医療機関と連携し、災害時に不可欠な備蓄薬の選定を推進した。こうした活動を通じ、地域医療を支える安全な基盤づくりに取り組んだ。

2026 年度は、防災協議会を継続し地域と連携した実地訓練を行うことで、発災時の対応力を高めていく。業務面では配置薬や一包化基準の見直しにより、医薬品管理の適正化と効率化を推進する。また、退院時指導の充実やポリファーマシー解消への介入を強化し、安全で質の高い薬物療法を地域に繋ぐ体制を構築する。

《実績》

【処方箋枚数、各種件数】

項目	2025 年度
入院 処方箋枚数	69,291
外来 院内処方箋枚数	4,084
外来 院外処方箋枚数	111,517
院外発行率	96.5%
入院 注射箋枚数(セット分)	80,530
TDM 解析報告数	138
薬剤管理指導料 1	1,213
薬剤管理指導料 2	4,850
病棟薬剤業務実施加算 1	16,855

項目	2025 年度
抗悪性腫瘍剤処方 管理加算(処方箋料)	3,206
外来 抗がん剤調製件数	2,178
入院 抗がん剤調製件数	279
連携充実加算	1,067
持参薬鑑別件数	4,731

放射線診断科 放射線科

医師 瀬戸 一彦
技師長 園田 優

《スタッフ》

放射線診断医 1 名 非常勤医師 12 名 診療放射線技師 26 名 事務員 4 名

《資格取得者数》

検診マンモグラフィ認定技師 7 名 X 線 CT 認定技師 4 名 放射線機器管理士 3 名
肺がん CT 検診認定技師 2 名 胃がん X 線検診技術部門 B 資格 3 名
放射線管理士 4 名 放射線治療品質管理士 1 名 放射線治療専門放射線技師 1 名
臨床実習指導教員 2 名 日本磁気共鳴専門技術者 2 名 胃がん検診認定技師 3 名
胃がん X 線検診読影部門 B 資格 2 名 血管撮影・インターベンション専門技師 1 名
骨粗鬆症リエゾンマネージャー 1 名 医療安全管理者 1 名
ピンクリボンアドバイザー 1 名

《業務内容》

【医師】読影業務、放射線安全管理

【技師】一般撮影、透視検査、骨密度測定、CT、MRI、血管造影、核医学検査、
マンモグラフィ、放射線治療、健診センター、読影管理業務、検査説明業務

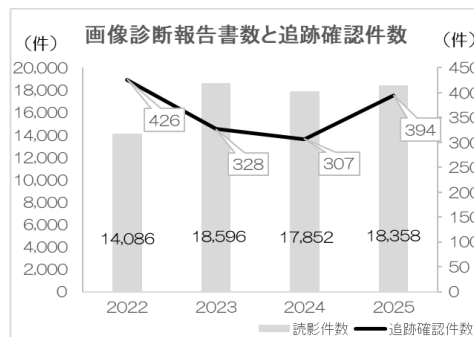
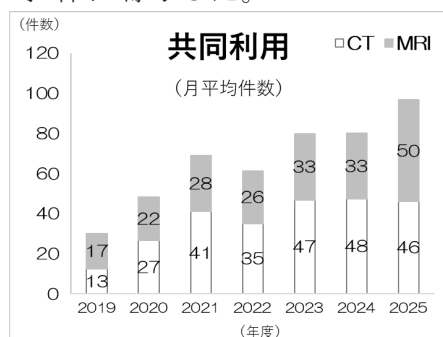
【事務】受付業務、診療書類の管理

《取り組み》

- ① 高額医療機器の施設共同利用(地域診療所からの検査委託)を推進し、地域医療連携室と協働することで地域医療への貢献体制の強化を図った。
- ② 画像診断報告書の未確認問題を重要な医療安全課題と位置付け、確認体制の強化および運用の見直しを行った。
- ③ 緊急画像報告(STAT 画像所見報告)体制を強化し、検査担当技師から依頼医師へ直接報告する仕組みを構築した。

《実績》

- ① 当日検査受入体制の強化等により、MRI の施設共同利用件数は 2024 年度比で月平均 17 件増加し、地域医療機関からの需要に応えた。
- ② 医療安全管理委員会において毎月状況を共有し、画像診断報告書および病理診断報告書の確認漏れ防止体制を継続的に運用した。
- ③ 検査後、緊急性の高い所見については速やかに報告を行い、緊急画像報告として 19 症例(2025 年 11 月以降)に対応した。加えて、目的外所見および準緊急所見として 394 件について診療状況の追跡確認を実施し、所見の見落とし防止および適切な診療介入の担保に寄与した。



《スタッフ》

管理栄養士 13 名 栄養士 4 名 調理師 6 名 事務 1 名 調理補助 4 名
食器洗浄 16 名 (パート、学生アルバイト、就労支援 6 名含む)

《資格取得者数》

NST 専門療法士 3 名 骨粗鬆症マネージャー 1 名 病態栄養認定管理栄養士 1 名
心不全療養指導士 1 名 臨床栄養代謝専門療法士(がん) 1 名
日本糖尿病療養指導士 1 名 腎臓病療養指導士 1 名 在宅訪問管理栄養士 1 名
特定保健指導担当栄養士 1 名

《業務内容》

① フードサービス(食事提供に関する業務)

献立作成、食材管理、調理、配膳、下膳、食器洗浄、食数管理、衛生管理、
ミールラウンド(患者訪問)、嗜好調査、治療食・行事食・特別食の提供 等

② クリニカルサービス(栄養管理に関する業務)

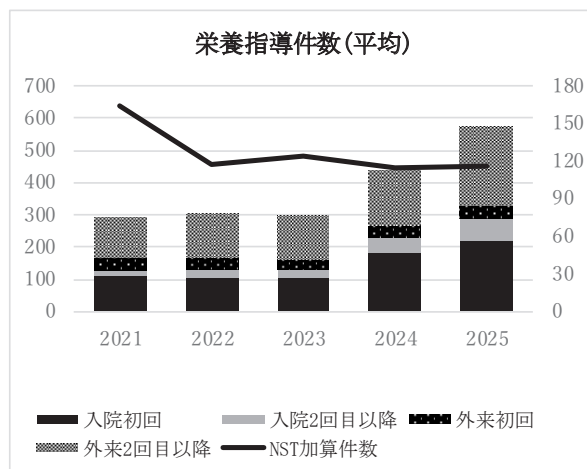
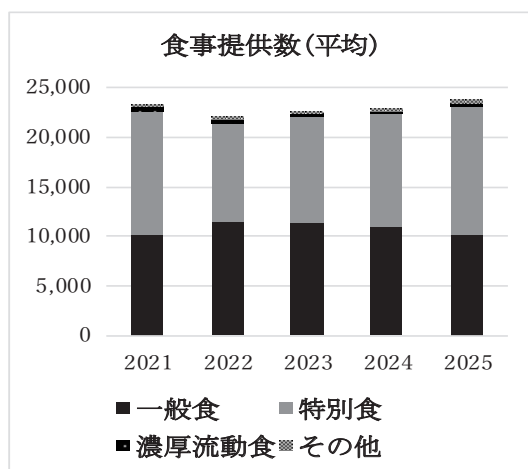
外来 疾病別個別栄養指導(外来栄養指導、透析センター栄養指導、外来通院治療室、
慢性腎臓病透析予防、糖尿病透析予防)患者支援センター入院前問診

入院 栄養管理計画書の作成、栄養情報提供書の作成、疾病別個別栄養指導、
栄養状態評価、ミールラウンド(患者訪問)、カンファレンスへの参加、
NST 活動

《取り組み》

管理栄養士を病棟に配置することで、タイムリーな情報共有、早期栄養介入に繋がっている。特別食比率の増加や入院外来共に栄養指導件数が増加した。引き続き、入院外来担当栄養士の連携、また多職種連携を行い、訪問栄養指導開始や栄養状態の効果検証を行う。管理栄養士のみでなく調理師もミールラウンドを実施し、患者ニーズの把握と献立の見直しに努めている。外来透析患者に向けた弁当販売を 2025 年 9 月に開始した。

《実績》



学生実習受け入れ 4 校(延べ 14 名)

《スタッフ》

臨床工学技士 39 名

＜資格取得者数＞

血液浄化専門臨床工学技士 2 名 透析技術認定士 13 名

認定血液浄化臨床工学技士 3 名 日本アフレス学会認定技士 1 名

呼吸療法認定士 9 名 消化器内視鏡技師 4 名 心血管インターベンション技師 1 名

臨床検査技師 2 名

《業務内容》

- ・医療機器全般の保守点検・定期点検の実施、トラブル時の対応
- ・手術室の機器操作介助、保守点検、トラブル時の対応、外回り補助業務
- ・内視鏡室・健診センターでの使用前点検・操作介助、使用后点検、保守管理
- ・心臓カテーテルにおける清潔介助、体外循環等機器操作、ポリグラフの操作
- ・ペースメーカー、脊髄刺激療法、超音波骨折治療器の導入介助や患者説明等
- ・在宅酸素療法、腹膜透析関連業務
- ・透析実施全般、透析装置保守管理、透析用水に関わる業務、特殊血液浄化療法実施、シャントエコー

《取り組み》

事業団関連施設との協力体制を構築し、診療材料の見直しによるコスト削減や講習会の開催等、経営的視点を含めた専門性向上に取り組んだ。透析センターでは災害時の患者さんへの情報提供手段として病院ホームページの活用を始め、情報に素早くアクセスできる仕組みを作った。また、腹膜透析の遠隔管理業務に参入し、データの一時管理を担っている。

《実績》

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
手術室立会い業務件数	1,230	1,354	1,574
内視鏡立会い件数	4,413	4,425	4,530
ペースメーカー業務件数	185	145	176
心臓カテーテル業務件数	113	97	106

血液浄化実施件数

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
血液透析	38,404	35,732	34,855
その他血液浄化療法	122	126	47
シャントエコー	730	696	743
VAIVT	154	157	190

リハビリテーション室

室長 白井 智裕

《スタッフ》

理学療法士 25 名 作業療法士 6 名 言語聴覚士 2 名 歯科衛生士 2 名
リハビリテーション室受付・業務補助 4 名

＜資格取得者数＞

認定理学療法士(運動器 3 名・スポーツ理学療法 1 名・代謝 1 名)
骨粗鬆症マネージャー 1 名 3 学会合同呼吸療法認定士 4 名
心臓リハビリテーション指導士 1 名 腎臓リハビリテーション指導士 4 名
がんリハビリテーション研修修了 4 名 NST 専門療法士 4 名 認知症ケア専門士 1 名
福祉用具プランナー 1 名 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 1 名
日本口腔ケア学会 3 級認定者 1 名

《業務内容》

① 入院・外来患者さんに対するリハビリテーションの実施

＜対象＞ 整形外科領域の各関節疾患・骨折等の外傷、内科・外科領域の廃用症候群、
呼吸器疾患、脳血管疾患、がん、認知症、摂食嚥下障害、言語障害

② 病棟カンファレンスへの参加 ③ 退院前カンファレンス ④ 各委員会活動

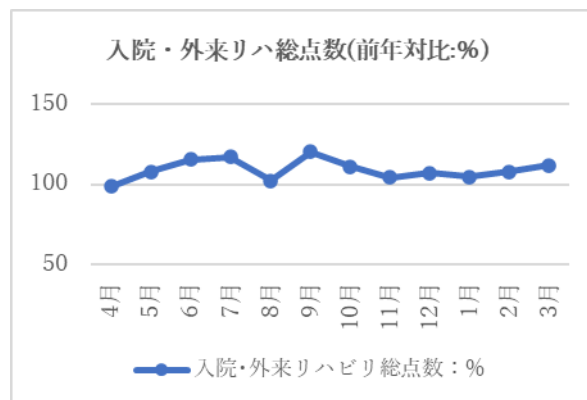
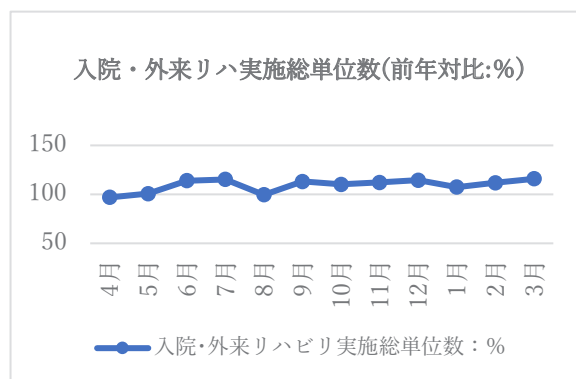
《取り組み》

理学療法部門は、急性期を中心に整形外科領域(脊椎・肩・股関節疾患や外傷)、腎臓内科領域、内科・外科由来の廃用症候群、呼吸器疾患、がん患者さんに理学療法を実施した。作業療法部門は、主に整形外科領域(脊椎・肩・手関節疾患)、廃用症候群、がん患者さんに作業療法を実施した。言語聴覚部門は摂食嚥下障害、呼吸器疾患、廃用症候群の急性期を主に実施した。歯科衛生部門は摂食嚥下障害、入院・外来患者への口腔ケアを実施した。また地域包括ケア病棟では近年、生活期(在宅)から直接入院する患者さんに対し、リハビリテーション支援を行っている。

他に研究活動では、整形外科・腎臓内科分野を中心に活動し質向上に努めた。

《実績》

下記は、2025 年度リハビリテーション室の月総単位数・点数の 2024 年対比を示したものである。概ね 100%以上の結果となり、2024 年度以上のリハビリ提供を実施した。



《スタッフ》

事務職員 6 名 (パート 1 名含む)

《業務内容》

経営企画業務、システム管理業務、広報業務、その他新規事業企画業務等

《取り組み》

●経営企画業務

- ・事業計画に対する重点項目を見える(リスト)化し、管理会議にて進捗管理を行い、計画推進の一助を担った。
- ・緩和ケア病棟再開に向けプロジェクトを始動、関係部署と連携し予定通り 2025 年 11 月に再開することができた。
- ・地域包括ケア病棟への直接入院推進のため、地域のケアマネジャーや訪問看護ステーションを対象に地域包括ケア病棟講演会を実施した。

●システム管理業務

- ・AI 議事録作成ツールの導入をはじめとした DX 推進により、会議記録作成の効率化および業務負担の軽減を図った。
- ・オンライン診療導入(側彎症の臨床心理士と小児科医師による Web 診療)
- ・放射線治療システム更新に伴い、セキュリティを担保しつつ放射線治療を安定稼働できる環境を構築した。
- ・オンライン資格(マイナンバー)確認端末を増設し、夜間・時間外診療時においても資格確認が行える体制を構築し、受診者の利便性と業務の効率化を図った。
- ・院内 PC 端末や各システムのサーバーを一元管理するドメインコントローラ OS の更新を行い、セキュリティを高めシステムの長期安定稼働に向けた基盤を強化した。

●広報業務

- ・利用者向け広報として、「見やすく、使いやすく、情報を見つけやすい」を念頭に病院ホームページのリニューアルに取り組み 2025 年 6 月に公開した。
- ・職員・求職者向け広報として、広報委員会を中心に各職場の協力を仰ぎ、病院インスタグラムの定期的な発信を継続。また、地域広報 Web サイト DIGITaL STaD や病院ホームページ内で医療コラム(からだのトリセツ)投稿を新たに行い、地域の方に向けて健康情報やイベント情報の発信も行った。
- ・地域包括ケア病棟および透析センターのパンフレットを関連職場と共に新たに作成し、患者さんやご家族に向けて当院の機能や特徴を分かりやすく発信した。
- ・SAKURA WELL-BEING フェア、市民公開講座、糖尿病週間等、地域密着型イベントの運営支援を行った。

施設課

課長 矢澤 勝己

《スタッフ》

施設課員 3 名 委託設備員 7 名 委託警備員 5 名 委託清掃員 49 名

《資格取得者数》

第1・2種電気工事士 9 名 2級ボイラ技士 4 名 乙種危険物取扱主任者 5 名

第2・3種冷凍機責任者 3 名 乙種防火管理者 2 名 エネルギー管理員 2 名

特別管理産業廃棄物管理責任者 1 名 特定高圧ガス取扱主任者 1 名

防災管理点検資格者 1 名 第二種消防設備点検資格者 1 名 第一種衛生管理者 1 名

《業務内容》

- ・建築物、電気設備、衛生設備、空調設備、医療ガス設備、消防用設備、搬送設備
ナースコール設備、電話交換設備、中央監視設備等の維持管理、車両管理
- ・各種工事、外構、緑地、産業廃棄物、感染性廃棄物、清掃業務(委託)等管理
- ・院内外修繕業務、光熱水管理業務、省エネルギー推進業務、各種自主点検業務
各種法定点検及び官庁諸手続き業務等
- ・院内外の巡視警備

《取り組み》

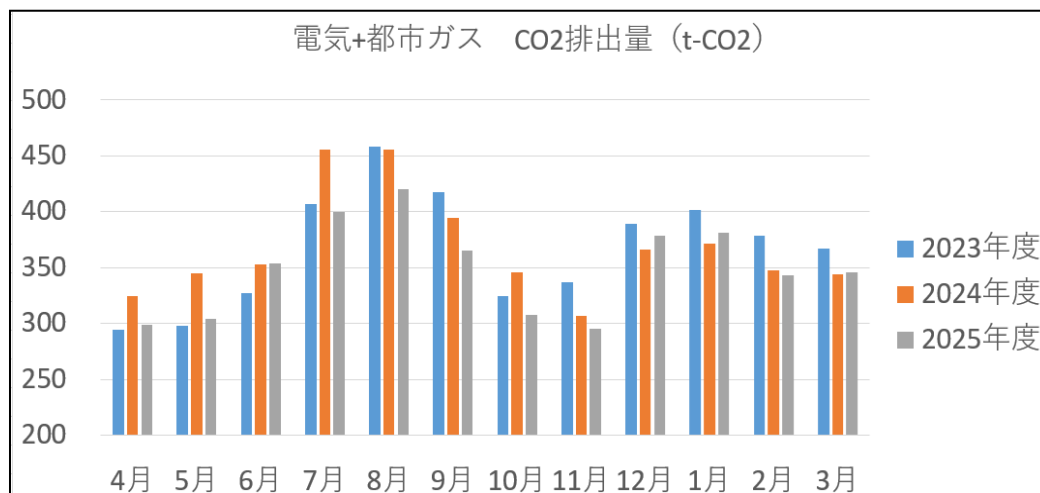
- A号館 外来空調工事計画
- 地震防災訓練、佐倉市病院前救護所設置訓練の実施
- 引き続き老朽化による設備改修計画や非常用電気設備の整備、修繕
- 物価高騰対策

《課題》

- ・2026年度以降に計画しているA号館空調FCU系統更新工事については外来診療に影響がでないよう安全配慮し、工事を完了させる。

《実績》

- ・光熱水費高騰が続き省エネ活動を積極的に行った。



総務課

課長 中島 俊岳

《スタッフ》

職員数 計 21 名

次長 1 名 総務担当 10 名 事務当直者 2 名 司書 1 名 保育士 7 名

《業務内容》

職員募集・採用・異動等の人事管理、人件費予算管理、給与計算・社会保険手続き・健康管理等の労務管理、各種届出・補助金・イベント対応・電話交換・その他庶務業務、医局・図書室の管理、入院基本料等施設基準の管理、医師臨床研修に関する業務、互助会代行事務・宿舍管理・院内保育園運営等の福利厚生に関する業務

《取り組み》

2025 年度は 6 月に 2 名、11 月に 1 名、2 月に 1 名、また 10 月には職場長交代の人事異動があり、体制の変更が大きな 1 年間であった。

2024 年度から各職場と連携して取り組んできた新卒看護師の積極的な採用活動が実を結び、35 人を採用することができた。また、年度途中の緩和ケア病棟オープンや度重なる欠員補充に向けた中途採用も積極的に行い年間を通じて 31 人を採用することができた。初期研修医については定員 4 名のマッチングを実現できた。また、パート職員の賃金体系の見直しを行い、採用競争力を強化し、派遣から直接雇用への転換を進めている。

長時間労働を行う医師への積極的な面接指導、超勤ルールの繰り返しの周知、各診療科責任者への超勤実績フィードバック等を行い引き続き A 水準(年間上限 960 時間)を維持することができた。

《実績》

新卒看護師の採用状況推移

	募集人数	採用人数	結果	応募人数
2020 年度(21 卒)	40 名	22 名	×	28 名
2021 年度(22 卒)	10 名	11 名	○	14 名
2022 年度(23 卒)	15 名	13 名	×	16 名
2023 年度(24 卒)	20 名	17 名	×	19 名
2024 年度(25 卒)	30 名	14 名	×	20 名
2025 年度(26 卒)	30 名	35 名	◎	46 名

《スタッフ》

事務職員 3 名

《業務内容》

＜一般経理＞

小口現金出納業務、銀行取引業務、会計帳簿の記録・整理・保管、予算立案・管理、月次・年次決算業務、固定資産等財産管理

＜窓口会計＞

医療費の請求、窓口出納業務、未収金管理・督促

《取り組み》

院内における経営状況理解促進の一環として、毎月の指標や収益比率、主な勘定科目別トピックスに関する情報等を対 2024 年・対予算比較の月別一覧にして発信した。また、一部の関連部署とは月報状況(材料費実績、返戻・査定状況等)の共有も開始した。課内の業務効率化にあたっては、経理課代表メールによる請求窓口の一本化やパーチェシングカードの導入を行った。窓口会計においては、委託業者との定例会を開始し、都度の情報共有を行うことで窓口環境改善や未収金対応への取り組みを強化した。2026 年度は、経費精算システムの本格稼働や引き続きの人材育成に注力し、将来的な自動支払機更新の検討も始めていく。

《実績》

2025 年度は引き続きの物価高騰・職員不足により、4～6 月の第一四半期で大きく落ち込んだスタートとなった。そのような中、院内全体で経営改善への意識を高め、職員一丸となり各種増収・費用削減策の取り組みを開始した。11 月には当院の特色の一つとなる緩和ケア病棟を 5 年ぶりに再開することができ、増収へと結びつくことができた。また、各部署によるペーパーレス・省エネ活動や、保守・委託契約の見直し等により費用削減を実施した。限られた人員の中でも各部署における工夫で安定的な運営に繋げることができ、夏以降は収支の改善がされ、結果として最終の当期活動増減差額は対予算 +197,689 千円で補助金を抜きにしても黒字決算という好結果で終えることができた。2026 年度は職員が増員できた中での適正な収益確保が課題となる。

単位：千円

	2024 年度 実績	2025 年度 予算	2025 年度 実績	2024 年度比
サービス活動収益	11,234,950	11,982,500	11,800,111	105.0%
サービス活動費用	11,339,640	11,811,300	11,437,300	100.9%
うち人件費	6,094,199	6,387,000	6,189,010	101.6%
経常増減差額	-116,760	140,000	339,406	
税引前当期活動増減差額	-269,440	2,000	199,689	

資材課

課長 弘島 隆史

《スタッフ》

事務職員 計 6 名

購入管理担当者 5 名 手術室クラーク担当者 1 名

《業務内容》

資材課は医療機器・診療材料・事務用品等の購入や価格交渉と、手術室クラーク業務（手術室物品管理や台帳作成等）を主とし、病棟、外来アメニティ等も委託会社を通し、管轄として業務を行っている。

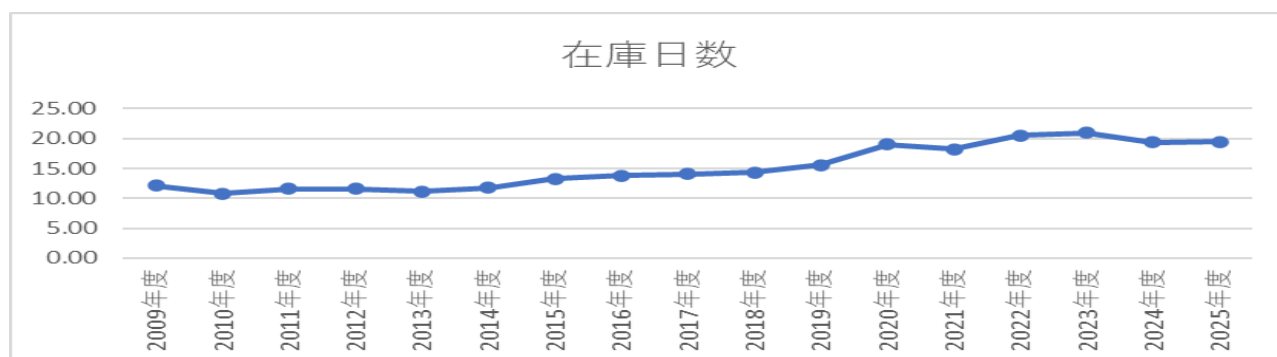
《取り組み》

2025 年度については 2024 年度同様、物価上昇による値上げ品に対する価格交渉と物品の見直しを行い、費用抑制に努めた。また、会議、委員会でのペーパーレス運用の開始等、院内全体で費用削減に取り組むことができた。

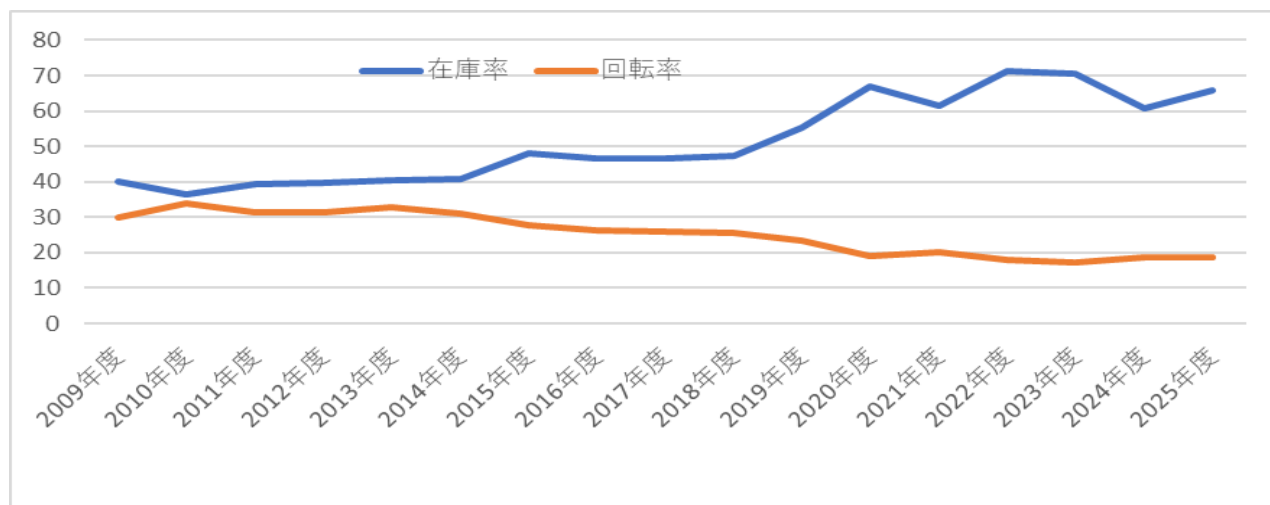
今後も物価高騰等による費用増加の影響は経営にも大きく影響するため、費用削減に向けた取り組みを現場と協力しながら継続していく。

《実績》

- ・診療材料 在庫日数



- ・診療材料 在庫回転率及び在庫率



《スタッフ》

事務職員 8 名 (パート含む)

《業務内容》

- ・医療機関、施設等より患者さんの診療受入相談(外来、入院、時間外、転院)に伴う前方支援連携
- ・高額医療機器共同利用の受付、他医療機関への受診や検査予約取得案内
- ・紹介元医療機関への診療結果報告書の返書管理、診療情報提供書の受付
- ・広報活動(訪問、キャンサーレター発行)

《取り組み》

地域医療機関との連携強化を図るため、医師と連携担当者が同行する訪問活動を積極的に展開した。これまで訪問実績のなかった診療科の医師も同行することで、計 131 カ所の医療機関と「顔の見える関係」を構築することができた。

紹介件数については、目標である月平均 1,000 件には届かなかったものの、7 月、10 月、3 月には 1,000 件を超過し、年間総数は 11,092 件(2024 年度比 517 件増)と着実に増加している。

また、2024 年度に減少傾向であった共同利用については、佐倉市、印西市、八街市、八千代市、四街道市、酒々井町の医療機関 165 カ所へ訪問活動を実施した。その結果、新たな医療機関からの依頼獲得に繋がり、目標である月平均 100 件を達成した。

システム面では、7 月より Web 予約システム「やくばと」を導入し、共同利用の検査予約も利用が可能となり、地域の医療機関より利便性が向上したとの評価を頂いている。

紹介状への返書については、以前より「7 日以内の記載」を医師へ依頼している。年間を通して達成率 100%を維持できたことは、医師の協力体制の確立に加え、課内スタッフによる徹底した進捗管理とチェック体制の構築による成果であると考えている。

課内の超過勤務については、入力方法の見直しやパート職員への業務委譲を推進したことで、月 40～50 時間の削減を実現した。

2026 年度も引き続き活発な訪問活動を行い、紹介件数の目標達成を目指す。

地域の先生方からの緊急依頼については、受入率 80%以上を目標に掲げ、院内調整フローを整理することで、回答までの待ち時間短縮とスムーズな受け入れに努めていきたい。

《実績》

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
紹介件数	9,856 件	10,575 件	11,092 件
逆紹介件数	6,290 件	6,052 件	6,629 件

《スタッフ》

管理者 1 名 医療福祉相談員 6 名 事務職員 1 名

＜資格取得者数＞

社会福祉士 6 名 精神保健福祉士 1 名 介護支援専門員 1 名

《業務内容》

医療福祉相談室では外来、入院の患者さんや支援に関わる関係者に対し、療養上の生活に関する不安や心配事等を伺い、福祉制度の紹介、問題解決に向けた支援を行っている。業務内容としては、1. 医療費・生活費問題 2. 退院援助 3. 受診・入院相談 4. 療養中の生活諸問題 5. 在宅ケア諸サービス 6. 人間関係に関する援助 7. 心理的問題 8. 診断治療理解決定 9. 就労就学支援 10. 苦情受付 等となっている。援助内容によって医師や看護師、リハビリ等のメディカルスタッフと連携し、必要に応じて地域の関係機関や専門の相談機関の紹介を行っている。

《取り組み》

2025 年 6 月に 1 名が異動し 5 名体制にて業務運営を行った。相談件数は引き続き増加傾向にあり、対応した実人数は 800 件増加した。入外その他から多くの相談をいただいております。特に医療費等の経済相談と入院相談の増加が顕著である。10 月には入退院支援加算の病棟配置の変更にて適正化を図った結果、2024 年度より 345 件算定が増加(過去最高)しており、配置変更後も適切に算定できることを示すことができた。新たに患者サポート加算の算定を目指したが人員の関係により取得に至らなかった。適切な人員確保が 2026 年度の課題と認識している。

2025 年度は地域包括ケア病棟への入院患者数増加への取り組みに参画した。担当できる相談員を増やし、介護しているご家族へのレスパイト入院、ADL を維持するためのリハビリ入院の相談に積極的に対応した。延べ 203 件の入院相談に対応し、多くの患者さんにご利用いただき、リピート利用も増加している。当院の機能を地域に活用いただき、少しでも長く在宅生活が継続できるような支援を継続して対応していきたい。

相談現場では経済的な相談や複合的な課題を抱えるケースが多く、退院支援が難航すること多々あった。また、経済的な理由から治療を断念する相談ケースも多く、利用可能な社会制度、分割支払い相談、無料低額診療等臨機応変に対応していきたい。

人材育成については実業務で利用できるマニュアルの作成は喫緊の課題である。入院相談、制度利用を含む経済相談、転院相談等対応の多い業務について他部署と連携しつつ整備していきたい。算定増加に向けては、患者サポート加算、介護連携指導料を中心に算定できるよう取り組みたいと考えている。また相談支援ではがん相談支援や転院相談について患者さんと認識を一致した支援ができるよう業務改善していく。

《実績：相談延べ人数／実人数》

2025 年度 10,948 件／3,234 名 (2024 年度 8,145 件／2,405 名)

《スタッフ》

事務職員 計 45 名(育休中 1 名含む)

課長代行 1 名 外来医事 4 名 外来受付 8 名

医師事務作業補助者 32 名(ドクタークラーク・外来クラーク・透析クラーク)

《業務内容》

受付、書類対応、予約・診療に関する問合せ対応、外来診療費の計算、診療報酬請求、医師事務作業補助者による診療支援、学術・研究支援

《取り組み》

2025 年度は、課内体制のさらなる強化と業務の効率化、患者さんの利便性向上に取り組んだ。

●体制強化と人材育成(柔軟に対応できる組織づくり)

医師事務作業補助者においては、書類作成担当と外来クラークの役割の一体化を継続し、業務の効率化を図った。これにより、超過勤務に頼らず期日内での書類作成が可能となり、相互フォロー体制の強化によって、急な人員の変動にも対応できる体制を整備した。

また、新たに 1 名の透析クラークトレーニングを開始し、複数名でフォロー可能な体制づくりを進めている。医事係と受付係においてもクロストレーニングを継続し、両業務に対応できるスタッフの育成を進めた。これにより、業務の属人化を防ぎ、状況に応じた柔軟な対応が可能となっている。

●業務効率化と患者サービスの向上

昼夜問わず利用者から来院希望日時を Web で申し込みができる予約システムを導入した。これにより、患者さんの利便性向上に加え、予約受付業務の負担軽減にも繋がっている。また、待ち時間の多い診療科において予約枠の調整を行い、待ち時間対策を実施した。

●診療支援の強化と経営への貢献

各診療科・他部署と連携し、単価向上や増患対策に取り組んだ。診療体制や受診機会の見直しを通じて、外来運営の改善に寄与している。

《実績》

外来患者数	795.7 人／日
外来単価	15,481 円
レセプト枚数(保険請求分)	10,893 枚／月
外来手術件数	27.6 件／月

《スタッフ》

事務職員 計 21 名 (パート含む)

入院算定 8 名 診療録管理室 3 名 病棟クラーク 9 名

《資格取得者数》

診療情報管理士 2 名 院内がん登録初級者 1 名

《業務内容》

入 院 受 付：入院に関する事務手続き全般の説明

入 院 算 定：入院医療費の計算、診療報酬請求、施設基準管理

診療録管理室：DPC 調査データ登録提出、院内がん登録、NCD 登録、死亡統計、ICD 別統計、疾患別データ抽出、カルテ開示、診療録管理体制加算に係る業務

病棟クラーク：病棟での入退院患者手続き等の事務全般

《取り組み》

2025 年度は緩和ケア病棟の再開準備や看護師不足の中での施設基準達成の確認、また院内で新たに算定やレセプト作成を行えるスタッフの育成を行い、入院医事課全体として迅速かつ柔軟に行動し、無事に一年を終えることができた。

入 院 受 付：タブレットを利用したマイナ保険証の確認運用開始

入院パンフレット内容の見直しによる差し込み案内文書の削減

入 院 算 定：算定担当者変更に伴う既存マニュアルの見直しや緩和ケア病棟入院料算定再開の為の施設基準管理

診療録管理室：新人教育体系を見直し、キャリアラダーに沿った教育を実践した。また、必要な業務に人員を充てられるよう業務整理を行った。

病棟クラーク：緩和ケア病棟 (C3) の再開に伴う病棟準備や運用の確認。

病棟スタッフの一員として多職種と連携し病棟業務が円滑に行えるように努めた。

《実績》

件 名		件 名	
入院患者数	309 人／日	入院単価	58,317 円
病床利用率	78.5%	入院手術件数	270.2 件／月
退院患者数	7,358 件	カルテ開示件数	56 件
退院サマリ完成率 (14 日)	97.3%	退院サマリ完成率 (30 日)	100.0%
院内がん登録件数	781 件	NCD登録件数	1,921 件

《スタッフ》

所 長 有田 誠司 医 長 鈴木 友輔

主任医長 太田 智雄 医 師 久保田 亨

他 非常勤医師 6 名

保健師 5 名 看護師 11 名 臨床検査技師 14 名 診療放射線技師 12 名

事務職員 39 名 (病院との兼務及び半日スタッフ含む)

＜資格取得者数＞

日本人間ドック学会人間ドック認定医 3 名 労働衛生コンサルタント 1 名

産業医 3 名 日本認知症予防学会専門医 2 名 健康スポーツ医 1 名

産業カウンセラー 1 名 人間ドック健康情報管理指導士 4 名 衛生管理者 1 名

超音波検査士 1 名 健診マンモグラフィ認定技師 6 名

日本乳がん検診精度管理中央機構認定技師 1 名 胃がん健診専門技師 3 名

肺がん CT 健診認定技師 1 名 医療経営士 1 名 JHRS 認定心電図専門士 1 名

心電図検定 1 級 2 名 心電図検定 2 級 2 名 ピンクリボンアドバイザー 3 名

《業務内容》

健診センターは「利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します」を理念とし、1 日人間ドック・脳ドック・スペシャルドック (人間ドック+脳ドック)、生活習慣病予防健診、定期健康診断及び特殊健康診断、市町との契約による各種がん検診等の健診事業を行っている。また、企業へ出向いての出張健診、企業の産業医も行っている。

《取り組み》

2025 年に健診センターは開設 20 周年を迎え、多くの受診者の受け入れを行ってきた。11 月には地域の皆さんやご利用者様に日頃の感謝をお伝えし、より健康に関心を持っていただく目的で「健幸フェスティバル」を開催いたしました。

新たに 3 つの新規オプションを加え、より地域の皆さんのニーズに応え、健康をサポートできる施設を目指した。

《実績》

年間収入・・・2025 年度：917,480 千円 (2024 年度：901,491 千円、2024 年比 101.8%)

受診者数・・・2025 年度：48,273 名 (2024 年度：48,248 名、2024 年比 100%)

《スタッフ》

専従：看護師(医療安全管理者) 1名

専任：医師 2名 看護師 1名 薬剤師(医薬品安全管理者) 1名

臨床工学技士(医療機器安全管理責任者) 1名 事務 1名

〈資格取得者数〉

医療安全管理者養成研修修了者 7名(医師 1名、看護師 6名)

《業務内容》

病院基本方針の「安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供」を目的に、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務が医療安全管理者となり多角的視点から医療安全対策を行うための取り組みを行っている。

《具体的な取り組み》

- ・2025年度、警察官による実演防犯対策研修やBLS指導者研修指導を救急隊員に依頼し、地域の行政機関と顔が見える関係を深める活動を行った。医療安全の研修を通して地域の連携を強化することができた。
- ・インシデント・アクシデント報告内容の事例共有と対策の提案を行っている。インシデント・アクシデント報告から業務改善をした事例が3例あり、再発防止に努めた。
- ・医療安全管理室会議を毎週1回開催した。
- ・医療安全管理委員会を毎月1回開催した。

《実績》

- ・全職場からインシデント・アクシデント報告が提出され、各職場に医療安全風土が醸成されている。インシデント・アクシデント報告年間件数 3,256件(2024年度 3,147件数)であった。
- ・暴力・防犯対応研修を実施し、合計100名が参加した。研修を受講したアンケートの結果、実践で活かせる満足した結果だった。
- ・事務、医療技術者対象にBLS指導者育成研修を開催し、24名が参加した。全職場にBLS指導者が配置されたことで自部署でのBLS実践研修が向上した。
- ・医療安全地域連携加算1を取得し、連携病院と双方ラウンドをおこない、医療安全の情報共有が活発におこなわれた。

当院の医療安全文化の基盤を培い、長年、医療安全管理室室長を務められた小谷医師が勇退され、12月から医療安全管理室室長大島医師、医療安全管理室副室長田中医師の新体制が構築された。当院の歴史と共に歩んできた医療安全管理室にも新しい風を吹かせてさらなる医療安全の醸成をより深める活動を行っていく。

《スタッフ》

医師 1 名 看護師 1 名 薬剤師 1 名 臨床検査技師 1 名

＜資格取得者数＞

ICD(infection control doctor) 1 名

《業務内容》

- ・感染マニュアル改訂(体制図、急性呼吸器感染症、アウトブレイク対応)
- ・ICT ラウンド、環境評価
- ・職員向け感染対策研修(新人・中途・補助者)
- ・抗体価管理、マスクフィットテスト実施
- ・感染経路別予防策の周知
- ・手指衛生調査・指導

《取り組み》

AST 設置に向けた体制整備を進め、職種を超えた連携強化に取り組んだ。外来での麻疹発生時や病棟での結核発生時には、手指衛生および感染経路別予防策の徹底、環境検査の実施、保健所との情報共有を通じ、迅速な対応を行った。

また、新興・流行感染症に対しては、感染経路別予防策の徹底と、必要に応じた集団隔離の運用を実施。2025 年度は新型コロナウイルス 144 件、インフルエンザ 56 件の対応を行った。

ICT ラウンドや院内感染対策委員会の報告内容はリンクナース会で共有し、現場に即した感染対策や環境整備の教育を継続。さらに、職員全体の知識向上を目的に、感染管理に関する動画教材を活用し、理解促進を図った。

また、2024 年度より千葉県的第一種・第二種協定指定医療機関として指定を受け、新興感染症発生時における地域医療の要としての役割を担っている。

せいいい訪問看護 ステーション佐倉

所長 竹澤 英恵

《はじめに》

せいいい訪問看護ステーション佐倉は、利用者・ご家族の意向を尊重し、病気や障害があっても住み慣れた地域でその人らしい生活が送れることを目標に取り組んでいる。

2025年度は、段階的な教育体制を構築し、職員のスキルアップや働きやすい職場環境づくりを進めた。

今後も在宅医療・介護サービスの充実を図り、地域に貢献できるよう邁進していく。

《目標と実績・評価》

1. 訪問実績の評価

スタッフ数は看護師5名、作業療法士1名、理学療法士1名、事務員1名にて活動。
実績は下記表参照。

【医療 訪問件数実績】＊医療 訪問件数予算 210 件

2025年4月	137	2025年8月	144	2025年12月	102
2025年5月	144	2025年9月	147	2026年1月	102
2025年6月	169	2025年10月	166	2026年2月	84
2025年7月	151	2025年11月	148	2026年3月	105

【介護 訪問件数実績】＊介護 訪問件数予算 462 件

2025年4月	452	2025年8月	416	2025年12月	384
2025年5月	402	2025年9月	386	2026年1月	376
2025年6月	411	2025年10月	407	2026年2月	375
2025年7月	452	2025年11月	344	2026年3月	433

病院に併設された訪問看護ステーションとして、利用者が安心して、外来通院・入院・在宅へ戻り療養生活が送れるよう、退院前カンファレンスの参加や病棟スタッフの同行訪問等連携強化をはかった。

質の向上としてeラーニングや外部研修を取り入れた段階的な教育体制を構築し、職員のスキルアップに努めた。また、子育てや介護を必要とする職員が勤務調整をしやすいような体制の整備を行い、職員一人ひとりの状況に応じた多様な働き方を進めた。

今後も地域で生活する利用者・ご家族の望む生活が維持できるよう、院内だけでなく院外とも連携を密にとり療養生活の充実を目指していく。

2. 会議参加状況・広報活動

臼井・千代田圏地域事業所連絡会、地域別ケア会議参加

千葉県訪問看護ステーション協会印旛・山武地区部会

せいれい ケアプランセンター佐倉

所長 高木 友美

《はじめに》

せいれいケアプランセンター佐倉は、利用者の望む暮らしの実現のために、ご本人・ご家族の意向に基づき居宅サービス計画を作成し、適切なサービス提供が確保されるように支援している。病院と併設する居宅支援事業所の強みを活かしながらご本人やご家族の不安に寄り添い、安心して在宅生活を続けられるような関わりを心がけている。

《スタッフ》

介護支援専門員 3名 うち主任介護支援専門員 1名

〈その他の資格〉

社会福祉士 1名 精神保健福祉士 1名 介護福祉士 2名

《実績》

1. 介護度別担当数(※2025年4月～2026年3月末までの累計人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
支援1	16	15	15	16	14	15	14	14	14	14	13	12	172
支援2	32	32	32	32	32	33	33	34	35	34	33	31	389
介護1	23	22	20	19	20	19	21	21	20	20	20	21	246
介護2	27	26	29	29	28	26	26	27	26	20	20	22	306
介護3	3	5	5	4	4	5	5	5	5	4	5	9	59
介護4	4	5	6	5	5	6	6	6	5	4	4	6	62
介護5	3	3	3	5	6	5	4	5	4	4	4	3	46
実績	108	108	110	110	109	109	109	112	109	100	99	104	1,287

2. 実習生受け入れ状況

千葉県介護支援専門員実務研修 1名

3. 会議、研修活動

地域包括支援センター主催の連絡会、地域ケア会議、他事業所との事例検討会等

《これからの取り組み》

地域の関係機関と連携しながら介護支援を提供すると共に、継続的に研修等に参加し、介護支援専門員の資質向上に努めていく。また、質の高いサービス提供と業務効率化に繋がるデジタル技術の導入を進めていく。

研究・業績

診療部

【腎臓内科】

『論文』

雑誌	名 :	Internal Medicine
題	名 :	Randomized Prospective Controlled Open-labeled Trial of Cyclosporine with/without Low-dose Oral Corticosteroids in Idiopathic Membranous Nephropathy in Adults with Nephrotic Syndrome
著	者 :	Joichi Usui, Kouichi Hirayama, Masaki Kobayashi, Satoshi Suzuki, Itaru Ebihara, Kenta Nishiki, Kaori Mase, Aki Hirayama, Chie Saito, Michihiro Goto, Akio Koyama, Kunihiro Yamagata
巻、ページ、年度 :		2025 Sep 1;64 (17) :2541-2548

『国際学会』

学開場演	会催	名 :	62th ERA Congress
		日 :	Jun4-7,2025
		所 :	Vienna, Austria
		題 :	40-year renal survival rate in patients with IgA nephropathy: Analysis of 1,121 patients at a single center
演		者 :	T.FUJII, S.SUZUKI, J.KOSHIZAKA, T.MATSUNAGA, N.YAMAUCHI, M.MORIMOTO, N.TERASAKI, H.TANAKA
学開場演	会催	名 :	World Congress of Nephrology (WCN26)
		日 :	Mar28-31,2026
		所 :	Yokohama, Japan
		題 :	Impact of maintaining proteinuria remission on renal prognosis in elderly patients with IgA nephropathy
演		者 :	Takayuki Fujii, Satoshi Suzuki, Takahiro Matsunaga, Junya Koshizaka, Nobuaki Yamauchi, Mayu Morimoto, Noriko Terasaki, Hiroaki Tanaka

『国内学会』

学開場演	会催	名 :	第 68 回日本腎臓学会学術総会
		日 :	2025 年 6 月 20 日～ 22 日
		所 :	神奈川県横浜市
		題 :	高齢 IgA 腎症の腎予後の検討
演		者 :	藤井隆之、鈴木理志、松永宇広、山内伸章、越坂純也、森本真有、寺崎紀子、田中宏明
学開場演	会催	名 :	第 70 回日本透析医学会学術集会・総会
		日 :	2025 年 6 月 27 日～ 29 日
		所 :	大阪府大阪市
		題 :	透析導入 3 年以内の Ca 感受性受容体作動薬の開始は生命予後を改善させる
演		者 :	藤井隆之、越坂純也、山内伸章、松永宇広、森本真有、寺崎紀子、田中宏明、鈴木理志

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会 日： 2025 年 6 月 27 日～ 29 日 所： 大阪府大阪市 題： 高リン血症を呈する血液透析患者に対する tenapanor の使用経験 者： 田中宏明、松永宇広、森本真有、越坂純也、山内伸章、寺崎紀子、藤井隆之、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会 日： 2025 年 6 月 27 日～ 29 日 所： 大阪府大阪市 題： レオカーナ 2 者： 藤井隆之(座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 血液透析患者におけるリン吸着剤の使用と種類による脆弱骨折との関連について 者： 藤井隆之、越坂純也、山内伸章、松永宇広、森本真有、寺崎紀子、田中宏明、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 55 回日本腎臓学会東部学術大会 日： 2025 年 9 月 17 日～ 28 日 所： 神奈川県横浜市 題： 細菌性膣炎が侵入経路と考えられた A 群溶連菌感染後糸球体腎炎の一例 者： 重城智也、越坂純也、森本真有、松永宇広、山内伸章、寺崎紀子、田中宏明、藤井隆之、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 31 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 日： 2025 年 11 月 22 日～ 23 日 所： 東京都港区 題： NRI-JH による栄養評価は腹膜透析患者の初回腹膜炎発症を予測する 者： 藤井隆之、寺崎紀子、松永宇広、越坂純也、山内伸章、森本真有、田中宏明、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回千葉県透析研究会 日： 2025 年 12 月 7 日 所： 千葉県千葉市 題： NRI-JH による栄養評価は腹膜透析患者の初回腹膜炎発症を予測する 者： 藤井隆之、寺崎紀子、松永宇広、越坂純也、山内伸章、森本真有、田中宏明、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回千葉県透析研究会 日： 2025 年 12 月 7 日 所： 千葉県千葉市 題： 透析医療の過去・現在・未来 者： 藤井隆之(座長)、花房規男(演者)

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 41 回日本栄養治療学会学術集会 日： 2026 年 2 月 13 日～ 14 日 所： 神奈川県横浜市 題： 血液透析患者の NRI-JH による栄養評価と脆弱骨折との関連について の後ろ向き研究 者： 藤井隆之、金崎葵、富田歩子、松田裕美、戸巻祥枝、増田大輝、 宮森陽子
-----------------------	--------	--

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名： 医療安全講演会 日： 2025 年 5 月 9 日 所： 千葉県佐倉市 題： 薬剤による医療事故を防ぐには 者： 藤井隆之
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名： NST 勉強会 日： 2025 年 9 月 9 日 所： 千葉県佐倉市 題： 保存期慢性腎臓病(CKD)と栄養について 者： 藤井隆之
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名： 腎・泌尿器 成人看護学 日： 2025 年 11 月 16 日、23 日 所： 千葉県千葉市 題： 腎疾患の臨床 者： 鈴木理志
-----------------------	--------	---

『講演』

講 開 場 講	演 催 演	会 名： CKD 治療を考える会 日： 2025 年 4 月 11 日 所： 千葉県佐倉市 者： 田中宏明(ディスカッサント)
------------------	-------------	---

講 開 場 講	演 催 演	会 名： 多職種による CKD-MBD カンファレンス～東葛エリアから発信する～ 日： 2025 年 4 月 19 日 所： 千葉県柏市 名： これからのリン治療に期待すること～フォゼベルの治験結果と当院で の現状を踏まえて～ 者： 藤井隆之
------------------	-------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演	会 名： 千葉県北総エリア 透析アミロイド WEB セミナー 日： 2025 年 4 月 24 日 所： 千葉県千葉市 名： アミロイドーシス診療ガイドラインとリクセルの保険請求について 者： 藤井隆之(座長)、佐藤純彦(演者)
-----------------------	-------------	---

講演会	名：	多職種で挑む CKD 診療と透析予防
開場	日：	2025 年 5 月 23 日
講演	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	多職種で挑む CKD 診療と透析予防 ～多職種介入による効果も交えて～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	これからの CKD 診療を考える会 ～専門医からかかりつけ医の先生方へ～
開場	日：	2025 年 5 月 30 日
講演	所：	Web
講演	名：	CKD 診療の New Standard ～将来の医療の為に今、フォシーガと多職種病診連携で出来ること～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	地域で取り組む CKD マネジメント
開場	日：	2025 年 6 月 10 日
講演	所：	Web
講演	名：	CKD 診療における多職種介入の重要性 ～当院での取り組みを含めて～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	CKD 治療講演会
開場	日：	2025 年 6 月 26 日
講演	所：	Web
講演	名：	生涯透析阻止に向けた CKD 診療を考える ～早期治療介入ができる今～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	第 90 回佐倉市薬剤師セミナー
開場	日：	2025 年 7 月 2 日
講演	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	CKD-MBD の最近の話題
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	印旛郡市 CKD 臨床懇話会
開場	日：	2025 年 7 月 10 日
講演	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	多職種で挑む CKD 診療～ケレンディアの使用経験を踏まえて～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	印旛郡市 CKD 臨床懇話会
開場	日：	2025 年 7 月 10 日
講演	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	糖尿病関連腎臓病治療の新たなる展開～ MRA への期待～
講演	者：	藤井隆之(座長)、阿部雅紀(演者)
講演会	名：	ANCA 関連血管炎 医療連携 seminar
開場	日：	2025 年 7 月 11 日
講演	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	ANCA 関連血管炎の治療薬としてのアバコパンの位置づけ
講演	者：	藤井隆之(座長)、金子開知(演者)

講演会	名：	ARNI Web Symposium ～ CKD 進行抑制を考える～
開場	日：	2025 年 8 月 19 日
場	所：	千葉県千葉市
講演	名：	CKD 患者の腎保護を考慮した高血圧治療戦略を考える
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	ループス腎炎の新たな治療選択肢～他科連携の重要性～
開場	日：	2025 年 8 月 25 日
場	所：	千葉県成田市
講演	名：	ループス腎炎診療とルプキネスへの期待(ディスカッション)
講演	者：	藤井隆之(座長)
講演会	名：	地域で考える腎・代謝連関
開場	日：	2025 年 9 月 11 日
場	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	当院における CKD 医療連携の取り組み～薬物治療も含めて～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	第 8 回腎疾患と代謝疾患を考える会
開場	日：	2025 年 9 月 19 日
場	所：	千葉県成田市
講演	名：	高齢者 IgA 腎症の治療成績について
講演	者：	～当院での 40 年の治療経過から振り返る～ 藤井隆之
講演会	名：	千葉 IMAGINE Project 講演会～地域で取り組む CKD ～
開場	日：	2025 年 10 月 1 日
場	所：	千葉県千葉市
講演	名：	生涯透析阻止に向けた CKD 診療を考える～早期介入の重要性～
講演	者：	藤井隆之
講演会	名：	DUAL Seminar in INBA
開場	日：	2025 年 10 月 10 日
場	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	ツイミーク投与が適した 2 型糖尿病患者像を再考する
講演	者：	藤井隆之(ディスカッサント)
講演会	名：	千葉県腎疾患対策 Web 講演会 2025
開場	日：	2025 年 10 月 14 日
場	所：	千葉県千葉市
講演	名：	アンケートから得られた腎臓病療養指導士の課題
講演	者：	藤井隆之(司会)
講演会	名：	ファビハルタ「C3 腎症」適応追加記念講演会 in 千葉
開場	日：	2025 年 10 月 16 日
場	所：	千葉県千葉市
講演	名：	C3 腎症の診断と治療アプローチについて考える
講演	者：	藤井隆之(ディスカッサント)

講 開 場 講	演 催	会	名： CKD 治療の最前線 日： 2025 年 10 月 23 日 所： 千葉県千葉市
講	演		名： 生涯透析阻止に向けた CKD 診療を考える ～早期治療介入ができる今～ 者： 藤井隆之
講 開 場 講	演 催	会	名： Incretin Online Seminar 日： 2025 年 10 月 24 日 所： 千葉県佐倉市
講	演		名： インクレチン受容体作動薬をより効果的に使用するための方策 者： 藤井隆之(座長)、岡島史宣(演者)
講 開 場 講	演 催	会	名： 千葉県透析合併症カンファレンス in ちば 日： 2025 年 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市
講	演		名： チーム医療でリン管理を考える 者： 藤井隆之(司会)
講 開 場 講	演 催	会	名： 慢性腎臓病予防講演会 日： 2025 年 11 月 7 日 所： 千葉県佐倉市
講	演		名： あなたの腎臓、大丈夫？～今すぐ始める CKD 予防～ 者： 藤井隆之
講 開 場 講	演 催	会	名： 第 3 回 CKD 教育入院セミナー 日： 2025 年 11 月 19 日 所： Web
講	演		名： CKD 教育入院、地味に効く 者： 鈴木理志
講 開 場 講	演 催	会	名： CKD 治療講演会 日： 2025 年 12 月 3 日 所： 千葉県八街市
講	演		名： 生涯透析阻止に向けた CKD 治療を考える ～早期治療介入ができる今～ 者： 藤井隆之
講 開 場 講	演 催	会	名： 人生 100 年時代の CKD 治療～腎臓を守るために今できること～ 日： 2025 年 12 月 9 日 所： 千葉県成田市
講	演		名： CKD 診療のトレンド～当院での取り組み～ 者： 藤井隆之
講 開 場 講	演 催	会	名： 人生 100 年時代の CKD 治療～腎臓を守るために今できること～ 日： 2025 年 12 月 9 日 所： Web
講	演		名： CKD 診断のトレンド～当院の取り組みから～ 者： 田中宏明

講演 開場 講演	演 催 演 演	会 名 日 所 名 者	第5回 Sakura CKD Joint Conference 2026年1月15日 千葉県佐倉市 ネフロンを守れ！ 藤井隆之(座長)、大橋靖(演者)
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 名 日 所 名 者	第5回 Sakura CKD Joint Conference 2026年1月15日 千葉県佐倉市 感染関連糸球体腎炎のアップデート 越坂純也
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 名 日 所 名 者	ケレンディア WEB カンファレンス 2026年2月3日 Web DKD、専門医はどのように診ている～ finerenone の使用経験も踏まえて～ 藤井隆之(座長)、佐藤英一(演者)
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 名 日 所 名 者	高血圧管理・治療ガイドライン 2025 を診療に活かす 2026年3月25日 千葉県佐倉市 JSH2025 腎臓内科の立場から 藤井隆之

【消化器内科】

『講演』

講演 開場 講演	演 催 演 演	会 名 日 所 名 者	『内視鏡で守る健康～検診と二次精密検査の本当の役割』 2025年9月13日 千葉県佐倉市 内視鏡で守る健康～検診と二次精密検査の本当の役割～ 胃がん・大腸がん 齊藤将喜
----------------	------------------	--	---

【循環器科】

「国内学会」

学	会	名：	第 33 回日本心血管インターベンション治療学会 ; CVIT 2025 学術集会
開	催	日：	2025 年 7 月 17 日～ 19 日
場		所：	大阪府大阪市
演		題：	A lotus root-like appearance in diffuse long segment of right coronary artery
演		者：	Toshinori Ko, Kenichi Tokuyama, Yusuke Hosokawa

「講義」

講	義	名：	成人看護 循環器全般～心血管解剖、心電図（虚血・不整脈）、血圧、動脈・静脈疾患、心不全、虚血性心疾患～
開	催	日：	2025 年 5 月～ 6 月
場		所：	千葉県千葉市
演		者：	徳山権一

講	義	名：	GLP-1 Update Seminar
開	催	日：	2025 年 6 月 3 日
場		所：	Web
演		題：	GLP-1 受動体作動薬をより効果的に使用するための方策
演		者：	徳山権一(座長)

講	義	名：	マンジャロ Online Seminar
開	催	日：	2026 年 2 月 27 日
場		所：	Web
演		題：	循環器疾患合併糖尿病患者における早期治療強化の重要性 － GIP/GLP-1 受容体作動薬の立ち位置を練る －
演		者：	徳山権一(座長)

【緩和医療科】

『論文』

雑	誌	名：	Journal of Palliative Medicine
題		名：	Gefapixant Citrate, a Selective P2X3 Receptor Antagonist, May Improve Cancer-Related Hypergeusia: A Case Report
著		者：	Murakami S, Yamagishi K, Kitani A, Ueta T, Matsuura Y, Kubota T, Uezono Y.
巻、ページ、年度：			2026 Feb 11:10966218251385732.

『国内学会』

学	会	名：	第7回日本緩和医療学会関東・甲信越支部学術集会
開	催	日：	2025年10月18日
場		所：	千葉県千葉市
演		者：	村上 敏史(座長)

『講義』

講	義	名：	緩和ケア研修会
開	催	日：	2025年8月30日
場		所：	東京都港区
演		題：	コミュニケーション、がん疼痛事例検討、療養場所の選択と地域連携 (グループワーク協力)
演		者：	村上敏史

講	義	名：	緩和ケア研修会
開	催	日：	2025年11月23日
場		所：	千葉県木更津市
演		題：	がん患者等の療養場所の選択、地域における連携、在宅における緩和 ケアの実際
演		者：	村上敏史

講	義	名：	緩和ケア研修会
開	催	日：	2025年12月6日
場		所：	千葉県市原市
演		題：	e-learning の復習・質問(ファシリテーター)
演		者：	村上敏史

講	義	名：	緩和ケア研修会
開	催	日：	2026年2月21日
場		所：	東京都狛江市
演		題：	コミュニケーション、がん疼痛事例検討、療養場所の選択と地域連携 (グループワーク協力)
演		者：	村上敏史

『講演』

講	演	会	名：	緩和ケア連携 Web セミナー in 北総
開		催	日：	2025年7月18日
場			所：	千葉県印西市
講	演		名：	Closing Remarks
講	演		者：	村上敏史

講	演	会	名：	令和7年度成田赤十字病院 緩和ケア地域連携カンファレンス
開		催	日：	2026年1月15日
場			所：	千葉県成田市
講	演		名：	地域における PCU の役割と現状
講	演		者：	村上敏史

講演会	名：	緩和ケア連携 Web セミナー in 佐倉
開催	日：	2026 年 3 月 9 日
場	所：	千葉県佐倉市
講演	者：	村上敏史(座長)
講演会	名：	第 17 回印旛薬剤師フォーラム
開催	日：	2026 年 3 月 16 日
場	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	“副作用”と“腎機能”から読み解く緩和薬物療法 ～ヒドロモルフォンとガバペンチノイド、薬剤師がチェックすべき評価の視点～
講演	者：	村上敏史

『その他』

その日氏	の	他：	千葉県がん診療連携協議会 緩和医療専門部会委員
		付：	2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日
		名：	村上敏史
その日氏	の	他：	日本緩和医療学会 専門医症例報告書事前審査委員
		名：	村上敏史

【乳腺外科】

『国内学会』

学会	名：	第 47 回日本癌局所療法研究会
開催	日：	2025 年 5 月 9 日
場	所：	千葉県千葉市
講演	題：	脱毛を拒否した局所進行 Stage4 Triple negative 乳癌に対し局所切除と S-1 が奏功した 1 例
講演	者：	佐塚哲太郎
学会	名：	第 30 回日本緩和医療学会学術大会
開催	日：	2025 年 7 月 4 日～ 5 日
場	所：	福岡県福岡市
講演	題：	口腔内腫瘍に対して、啞え型スパーサーを自作し定位照射を行った 1 症例
講演	者：	川上浩幸、高橋光一郎、木谷哲、村上敏史、金子貴之、戸塚大輔、吉田奈留美、神尾眞由美
学会	名：	第 33 回日本乳癌学会学術総会
開催	日：	2025 年 7 月 10 日～ 12 日
場	所：	東京都新宿区
講演	題：	術前化学療法を施行した HR 陽性・HER2 陰性乳癌の効果判定および予後予測における CPS+EG スコアの有用性
講演	者：	川島太一、木谷哲、宮内充、有田誠司、笹井大督、富田歩子

学 開 場 演 演	会 催	名： 第33回 日本乳癌学会学術総会 日： 2025年7月10日～12日 所： 東京都新宿区 題： 酸素投与を要する乳癌術後15年目の多発肺転移に対して内分泌療法とCDK4/6阻害薬の併用療法が奏功した1例 者： 佐塚哲太郎
学 開 場 演 演	会 催	名： 日本放射線腫瘍学会第38回学術大会 日： 2025年11月27日～29日 所： 東京都千代田区 題： 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対し、乳房全切除後放射線治療を行った1例 者： 木谷哲、戸塚大輔、金子貴之、神尾眞由美、川上浩幸

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名： がん教育(東京学館高等学校) 日： 2025年10月16日 所： 千葉県印旛郡酒々井町 題： がんのはなし 者： 木谷哲、野間香奈子
---------------------------	--------	---

『講演』

講 開 場 講	演 催 演	会 者	名： Breast Cancer Web Conference 日： 2025年10月20日 所： Web 者： 木谷哲(座長)
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 者	名： あなたを守るがん検診講演会 日： 2025年10月25日 所： 千葉県佐倉市 名： あなたを守るがん検診 者： 木谷哲
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 者	名： 中外eセミナー HER2 Insight in CHIBA 日： 2026年1月20日 所： Web 名： フェスゴ導入による医療現場へのインパクト 者： 川島太一(座長)、中島裕理
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 者	名： がん診療医のための緩和ケアセミナー 日： 2026年3月27日 所： Web 名： がん治療と緩和ケア 者： 木谷哲

【外科】

『論文』

雑誌 名： 外科 南江堂
題 名： 腹直筋に発生した顆粒細胞腫の1例
著 者： 重城智也、小池直人、大島祐二、有田誠司、武内俊章、笹井大督
巻、ページ、年度： 88 (3) 227-232, 2026

『国内学会』

学会 名： 第7回千葉肝胆膵サージカルフォーラム
開催 日： 2025年5月31日
場 所： 千葉県千葉市
演 題： 悪性胆道狭窄を否定できず肝外胆管切除を伴う肝左葉切除を施行した
肝内良性胆道狭窄の1例
演 者： 小池直人、大島祐二、武内俊章、山本真梨子、佐々木拓馬、鈴木貴友、
有田誠司、笹井大督

学会 名： 第61回日本胆道学会学術集会
開催 日： 2025年10月2日
場 所： 愛知県名古屋市
演 題： 手術リスクの高い肝門部領域胆管癌患者に対しリンパ節郭清を伴う肝
外胆管切除を行った経験
演 者： 小池直人、大島祐二、笹井大督

学会 名： 第21回がんワクチン療法研究会学術集会
開催 日： 2025年11月15日
場 所： 東京都新宿区
演 題： 免疫チェックポイント阻害剤が著効した悪性腫瘍の2例
演 者： 小池直人、大島祐二、武内俊章、佐々木拓馬、鈴木貴友、山本真梨子、
有田誠司、笹井大督

学会 名： 第87回日本臨床外科学会学術集会
開催 日： 2025年11月21日
場 所： 東京都新宿区
演 題： 増大経過を示した脾腫瘍に対する腹腔鏡下脾臓摘出術後に門脈血栓を
来した1例
演 者： 佐々木拓馬、大島祐二、鈴木貴友、山本真梨子、武内俊章、有田誠司、
小池直人

学会 名： 第30回千葉内視鏡外科研究会
開催 日： 2026年2月21日
場 所： 千葉県千葉市
演 題： 腹腔鏡下に加療した盲腸後窩ヘルニアの1例
演 者： 鈴木貴友、佐々木拓馬、山本真梨子、大島祐二、小池直人

学会 名： 第20回千葉大腸疾患研究会
開催 日： 2026年2月28日
場 所： 千葉県
演 題： 外来治療を受ける患者のセルフケア支援について
演 者： 小池直人(座長)、伊藤直美(演者)

学	会	名：	第 104 回千葉県外科医会研究会(優秀演題賞)
開	催	日：	2026 年 3 月 14 日
場		所：	千葉県
演		題：	大腸穿孔術後の炎症反応再燃に対しステロイドパルス療法が著効したバリウム性腹膜炎の 1 例
演		者：	鈴木大介、小池直人、大島祐二、武内俊章、山本真梨子、佐々木拓馬、鈴木貴友、有田誠司

『講演』

講	演	会	名：	聖隷佐倉市民病院健診センター 20 周年記念講演
開		催	日：	2025 年 11 月 22 日
場			所：	千葉県佐倉市
講	演		名：	健診センター 20 年の歩みと今後の展望
講	演		者：	有田誠司

『その他』

そ	の	他：	第 20 回千葉大腸疾患研究会
日		付：	2026 年 2 月 28 日
場		所：	千葉県
氏		名：	小池直人(当番世話人)

【呼吸器外科】

「国内学会」

学	会	名：	第 66 回日本肺癌学会学術集会
開	催	日：	2025 年 11 月 6 日～ 8 日
場		所：	東京都
演		題：	胃癌の術前 CT 検査で特徴の異なる多発肺結節を認めた低肺機能患者の一例
演		者：	廣橋健太郎、眞崎義隆

学	会	名：	第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会
開	催	日：	2025 年 10 月 23 日～ 25 日
場		所：	大阪府
演		題：	肺底動脈大動脈起始症と部分肺静脈還流異常を合併した右肺癌に対して胸腔鏡下右下葉切除術を施行した 1 例
演		者：	平井有紀、穴山貴嗣、廣橋健太郎、小野里優希、鎌田稔子、和田啓伸、吉野一郎、吉田成利

【整形外科】

「論文」

- 雑誌
題 名 : Spine Surg Relat Res
名 : Identifying Anatomical Predictors of Median Arcuate Ligament Overlap to Guide Selective Use of Contrast-Enhanced Computed Tomography in Adult Spinal Deformity Surgery
著 者 : Iijima Y, Kotani T, Sakuma T, Kishida S, Ise S, Inoue S, Shimizu F, Setojima Y, Ohyama S, Iwata S, Mizutani M, Sakashita K, Sunami T, Okuwaki S, Ogata Y, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 10 (2) :253-262. 2025
- 雑誌
題 名 : Spine Surg Relat Res
名 : Impact of Baseline HRQOL on Brace-Related Stress in Female Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis: A Longitudinal Retrospective Study
著 者 : Asada T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Sakashita K, Ogata Y, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.
巻、ページ、年度 : 9 (6) :682-689. 2025
- 雑誌
題 名 : Cureus
名 : Comparison of Three Evaluation Methods for the Lumbar Intervertebral Disc Vacuum Phenomenon in Predicting Postoperative Residual Lower Back Pain
著 者 : Ohyama S, Aoki Y, Inoue M, Sato Y, Sato M, Wakita H, Yoh S, Takahashi H, Nakajima A, Kotani T, Yawara E, Orita S, Inage K, Shiga Y, Nakagawa K, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 17 (9) :e93408. 2025
- 雑誌
題 名 : Spine Surg Relat Res
名 : Skeletal Maturity, Brace Compliance, and In-Brace Correction Rate Are Important Factors Associated with Cobb Angle Progression after Brace Treatment in Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis
著 者 : Sakashita K, Asada T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Ogata Y, Okuwaki S, Ohyama S, Mizutani M, Akazawa T, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.
巻、ページ、年度 : 9 (5) :539-545. 2025
- 雑誌
題 名 : Eur J Trauma Emerg Surg
名 : Comparison of the O-arm-based navigation system with conventional fluoroscopy for percutaneous screw fixation in patients with fragility fractures of the pelvis
著 者 : Mizutani M, Kotani T, Ogawa R, Yano S, Kishida S, Okuwaki S, Ohyama S, Ogata Y, Iijima Y, Sakuma T, Orita S, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 51 (1) :221. 2025

- 雑誌名 : J Orthop Sci
 題名 : Optimizing S1 nerve root block using three-dimensional computed tomography imaging: Identifying the ideal fluoroscopic angle and predicting S1 neural foramen position
 著者 : Suzuki N, Kotani T, Ohyama S, Sakashita K, Okuwaki S, Iwata S, Iijima Y, Mizutani M, Sakuma T, Orita S, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Minami S, Ohtori S.
 巻、ページ、年度 : 30 (6) :1005-1012. 2025
- 雑誌名 : Eur Spine J
 題名 : Machine learning algorithms for predicting future curve using first and second visit data in female adolescent idiopathic scoliosis patients
 著者 : Ohyama S, Maki S, Kotani T, Ogata Y, Sakuma T, Iijima Y, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Arai T, Toshi N, Tokeshi S, Okuyama K, Tashiro S, Suzuki N, Eguchi Y, Orita S, Minami S, Ohtori S.
 巻、ページ、年度 : 34 (9) :3693-3701. 2025
- 雑誌名 : Spine J
 題名 : Timeline of curve progression around menarche in small adolescent idiopathic scoliosis curves without influence of braces: a single-center longitudinal cohort study of 1
 著者 : Ogata Y, Kotani T, Asada T, Ohyama S, Okuwaki S, Iijima Y, Sakuma T, Ohtori S, Yamazaki M.
 巻、ページ、年度 : 25 (8) :1708-1718. 2025
- 雑誌名 : J Orthop Sci
 題名 : Analysis of orthopedic surgery-related incidents in operating rooms using a nationwide incident reporting database
 著者 : Nakano S, Kotani T, Nakajima A, Sonobe M, Inakuma K, Ohtori S, Nakagawa K.
 巻、ページ、年度 : 30 (4) :711-717. 2025
- 雑誌名 : J Orthop Sci
 題名 : Factors influencing the achievement of early surgery in proximal femoral fractures under a Japanese incentive policy
 著者 : Yamada Y, Kotani T, Kishida S, Ogata Y, Okuwaki S, Ohyama S, Iwata S, Iijima Y, Ise S, Sakuma T, Ueno K, Kajiwara D, Moriyasu R, Nakajima T, Minami S, Hashimoto E, Ochiai N, Ohtori S.
 巻、ページ、年度 : 30 (3) :518-522. 2025
- 雑誌名 : Spine Surgery and Related Research
 題名 : Identifying Anatomical Predictors of Median Arcuate Ligament Overlap to Guide Selective Use of Contrast-Enhanced Computed Tomography in Adult Spinal Deformity Surgery
 著者 : Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Shunji Kishida, Keisuke Ueno, Shohei Ise, Sho Inoue, Yusuke Setojima, Fumiya Shimizu, Shuhei Ohyama, Shuhei Iwata, Masaya Mizutani, Kotaro Sakashita, Takahiro Sunami, Shun Okuwaki, Yosuke Ogata, Yasuhiro Shiga, Shohei Minami, Seiji Ohtori
 巻、ページ、年度 : 10 (2) :253-262, 2025

雑誌 名： 東京都予防医学協会年報 2026 年版
 題 名： 脊柱側弯症検診の実施成績
 著 者： 南昌平
 巻、ページ、年度： 55、33-38、2025

雑誌 名： 千葉県学校保健集団検診報告書
 題 名： 脊柱側弯症検診
 著 者： 南昌平
 巻、ページ、年度： 令和 6 年度,7-8,2025

雑誌 名： ミレニアム 千葉県医師会
 題 名： ウォーキングのすすめ
 著 者： 南 昌平
 巻、ページ、年度： 94、8、2025

「国際学会」

学 会 名： Scoliosis Research Society 60th Annual Meeting
 開 催 日： 2025 年 9 月 16 日～ 20 日
 場 所： Charlotte, North Carolina, USA
 演 題： Pre-Bracing Health-Related Quality of Life Predicts Brace-Related Psychological Stress in Adolescents with Idiopathic Scoliosis
 演 者： T Asada, T Kotani, T Sakuma, Y Iijima, K Sakashita, Y Ogata, T Akazawa, S Minami, S Ohtori

学 会 名： SRS Asia Pacific Meeting
 開 催 日： 2026 年 2 月 6 日～ 7 日
 場 所： 福岡県福岡市
 演 題： Comparative study for surgical outcomes between young and middle-aged patients with adult idiopathic scoliosis
 演 者： Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Shohei Minami, Seiji Ohtori

学 会 名： SRS Asia Pacific Meeting
 開 催 日： 2026 年 2 月 6 日～ 7 日
 場 所： 福岡県福岡市
 演 題： Risk factors for Allogeneic Red Blood Cell Transfusion in Pediatric Spinal Deformity Surgery
 演 者： Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Shohei Minami, Seiji Ohtori

「国内学会」

学 会 名： 第 54 回日本脊椎脊髄病学会学術集会
 開 催 日： 2025 年 4 月 17 日～ 19 日
 場 所： 千葉県千葉市
 演 題： 一般口演 39「成人脊柱変形・アライメント」
 演 者： 小谷俊明(座長)

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 54 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日： 2025 年 4 月 17 日～ 19 日 所： 千葉県千葉市 題： 成人脊柱変形手術における重篤な内臓合併症 —急性腹腔動脈圧迫症候群の予防と対策— 者： 小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、井上翔、水谷雅哉、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 54 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日： 2025 年 4 月 17 日～ 19 日 所： 千葉県千葉市 題： 成人脊柱変形患者における正中弓状靱帯 overlap に関する検討 者： 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 54 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日： 2025 年 4 月 17 日～ 19 日 所： 千葉県千葉市 題： 頸椎後縦靱帯骨歌唱手術後の膀胱機能回復に関する予後因子 者： 瀬戸嶋佑輔
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 98 回日本整形外科学会学術総会 日： 2025 年 5 月 22 日～ 25 日 所： 東京都千代田区 題： シンポジウム「側彎症の診断治療における AI(Artificial Intelligence)の役割」 者： 小谷俊明(座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 98 回日本整形外科学会学術総会 日： 2025 年 5 月 22 日～ 25 日 所： 東京都千代田区 題： Risk Factors for Median Arcuate Ligament Overlap in Adult Spinal Deformity Patients 者： Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Shohei Minami, Seiji Ohtori
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 98 回日本整形外科学会学術総会 日： 2025 年 5 月 23 日 所： 東京都千代田区 題： 骨粗鬆症を伴う大腿骨近位部骨折術後の地域連携 者： 岸田俊二(演者・座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 38 回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会 日： 2025 年 6 月 13 日 所： 愛知県名古屋市 題： 脊柱変形手術に対する自己血輸血の有用性 者： 小谷俊明(座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 38 回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会 日： 2025 年 6 月 13 日 所： 愛知県名古屋市 題： 脊柱変形手術に対する自己血輸血の有用性 者： 小谷俊明、南昌平

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 一般口演 17「骨粗鬆症リエゾンサービス 2」 者： 小谷俊明(座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： カプランマイヤー曲線を用いた大腿骨近位部骨折患者における緊急加算の効果解析 者： 小谷俊明、永木文子、岸田俊二、山田有徳、飯島靖、佐久間毅、加藤木丈英、伊勢昇平、水谷雅哉、稲毛一秀
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日 所： 千葉県千葉市 題： 千葉県印旛医療センタークリニックにおける大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症治療アンケート調査 者： 岸田俊二、小谷俊明、飯嶋靖、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本股関節学会学術集会 日： 2025 年 10 月 24 日 所： 山口県下関市 題： 大腿骨近位部骨折患者における術後 1 年骨粗鬆症治療継続率の検討 者： 岸田俊二、横山雄大、田中遼成
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側彎症学会学術集会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 山田井上メモリアルレクチャー 者： 小谷俊明(座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側彎症学会学術集会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 海外招待講演 2 者： 小谷俊明(座長)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側彎症学会学術集会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： Clinical Relevance of Low BMI on Predicting Curve Progression For Female Adolescent Idiopathic Scoliosis with Risser ≥ 3 者： 瀬戸嶋佑輔
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 12 回日本脊椎前方側方進入手術学会(JALAS) 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 横隔膜を攻略！胸腰椎前方アプローチで迷わないための戦略 者： 小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、井上翔、瀬戸嶋佑輔、清水文也、南昌平

学	会	名：	第 59 回日本側彎症学会学術集会 (JSS) 第 15 回日本成人脊柱変形学会 (JSASD)
開	催	日：	2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	成人期における思春期特発性側弯症の変性変化 その画像的特徴と予測因子
演		者：	小谷俊明、坂下孝太郎、岩田秀平、水谷雅哉、佐久間毅、飯島靖、 奥脇駿、大山秀平、小方陽介、南昌平、大鳥精司
学	会	名：	Spine Week Japan 2025
開	催	日：	2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	Comparative study for surgical outcomes between young and middle-aged patients with adult idiopathic scoliosis
演		者：	Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Sho Inoue, Yusuke Setojima, Fumiya Shimizu, Shohei Minami, Seiji Ohtori
学	会	名：	Spine Week Japan 2025
開	催	日：	2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	Risk factors for Allogeneic Red Blood Cell Transfusion in Pediatric Spinal Deformity Surgery
演		者：	Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Sho Inoue, Yusuke Setojima, Fumiya Shimizu, Shohei Minami, Seiji Ohtori
学	会	名：	第 15 回最小侵襲脊椎治療学会
開	催	日：	2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	腰椎椎間板ヘルニアに対するヘルニコア治療のための L5/S1 椎間板穿刺角度の 3DCT による解析
演		者：	清水文也、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、井上翔、水谷雅哉、 南昌平
学	会	名：	第 66 回関東整形災害外科学会
開	催	日：	2026 年 3 月 20 日～ 21 日
場		所：	栃木県宇都宮市
演		題：	特発性側弯症に対する治療体系の変遷－装具治療と手術治療の過去・ 現在・未来－
演		者：	飯島靖

「講義」

講	義	名：	千葉大学医学部ユニット講義
開	催	日：	2025 年 12 月 23 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	側弯症について
演		者：	小谷俊明

「講演」

講演会	名：	第 54 回日本脊椎脊髄病学会 ランチョンセミナー
開催	日：	2025 年 4 月 17 日
会場	所：	千葉県千葉市
講演	名：	思春期特発性側弯症の保存療法と Shilla 手術 —エビデンスに基づく経過観察，装具治療と Shilla 手術の現状—
講演	者：	小谷俊明
講演会	名：	アムジェン Web 講演会
開催	日：	2025 年 5 月 27 日
会場	所：	Web
講演	名：	骨粗鬆症に対する注射製剤を用いた地域連携
講演	者：	小谷俊明
講演会	名：	Osteoporosis liaison seminar
開催	日：	2025 年 5 月 29 日
会場	所：	千葉県浦安市
講演	名：	骨粗鬆症に対する病診連携と多職種連携 ～リエゾンサービスの取り組み～
講演	者：	小谷俊明
講演会	名：	北海道科学大学フォローアップ講座
開催	日：	2025 年 6 月 17 日
会場	所：	北海道札幌市
講演	名：	骨粗鬆症について
講演	者：	小谷俊明
講演会	名：	旭化成社内研修セミナー
開催	日：	2025 年 9 月 3 日
会場	所：	千葉県千葉市
講演	名：	骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略と地域連携
講演	者：	飯島靖
講演会	名：	イベニティ Web セミナー
開催	日：	2025 年 9 月 26 日
会場	所：	Web
講演	名：	骨粗鬆症に対する注射製剤を用いた地域多職種連携
講演	者：	小谷俊明
講演会	名：	整形外科疾患病診連携セミナー in 志太榛原
開催	日：	2025 年 11 月 5 日
会場	所：	静岡県藤枝市
講演	名：	骨粗鬆症に対する病診連携と多職種連携 ～リエゾンサービスの取り組み～
講演	者：	小谷俊明
講演会	名：	ケアネット社講演
開催	日：	2026 年 3 月 2 日
会場	所：	Web
講演	名：	骨粗鬆症性椎体骨折に対する連携の力 ～多職種・病診連携によるトータルマネジメントの実際～
講演	者：	小谷俊明

講 演 会	名：	ほねぶとプロジェクト 骨粗鬆症多職種地域連携の会
開 催	日：	2026年3月4日
場 所	所：	茨城県つくば市
講 演	名：	骨粗鬆症に対する多職種連携と病診連携 ～リエゾンサービスの取り組み～
講 演	者：	小谷俊明

「その他」

そ の	他：	第17回 日本脊椎脊髄病学会アジアトラベリングフェロー
日	付：	2025年9月21日～28日、10月5日～11日
場 所	所：	インド コインバトール、インドネシア スラバヤ
題 名	名：	Pathophysiology and Management of Acute Celiac Artery Compression Syndrome in Adult Spinal Deformity Surgery
氏 名	名：	Yasushi Iijima

【小児科】

『論文』

雑 誌	名：	小児科
題 名	名：	学校検尿での尿糖陽性を契機に診断した TINU 症候群の女児例
著 者	者：	石倉麻里奈、鈴木繁、川村研
巻、ページ、年度	度：	66巻6月号、622-626、2025

『国内学会』

学 会	名：	第233回日本小児科学会千葉地方会
開 催	日：	2026年2月15日
場 所	所：	千葉県千葉市
演 題	題：	低身長精査時に見つかった頭蓋内病変
演 者	者：	田中野々花、鈴木繁、石倉麻里奈、川村研

『講演』

講 演 会	名：	薬剤師のための災害医療スキルアップセミナー① in 佐倉
開 催	日：	2025年6月18日
場 所	所：	千葉県佐倉市
講 演	名：	Introduction：佐倉市における災害時の薬剤インフラ
講 演	者：	鈴木繁

講 演 会	名：	防災講話
開 催	日：	2025年10月17日
場 所	所：	千葉県佐倉市
講 演	名：	院内防災設備 災害医療とトリアージ 防災訓練概要
講 演	者：	矢澤勝己、鈴木繁、小川侑男

講演会	名：	2025 年度学校検尿結果報告会
開催	日：	2025 年 11 月 20 日
場	所：	千葉県富里市
講演	名：	学校検尿と検尿異常について
講演	者：	川村研

『その他』

その	の	他：	DRP 医療情報館 医療コラム
日		付：	2025 年 4 月 9 日
場		所：	Web
場		名：	小児の病気 小児インフルエンザウイルス感染症を別の視点から考えよう
氏		名：	鈴木繁

その	の	他：	大塚災害薬事サポーター養成プログラム
日		付：	2025 年 6 月 18 日
場		所：	千葉県佐倉市
氏		名：	鈴木繁(座長)、富田歩子

その	の	他：	DRP 医療情報館 医療コラム
日		付：	2025 年 7 月 4 日
場		所：	Web
場		名：	小児の病気 身長が低いのは病気なの？
氏		名：	鈴木繁

その	の	他：	DIGITaL STaD 健康お役立ち情報
日		付：	2025 年 7 月 17 日
場		所：	Web
場		名：	食物アレルギーは血液検査で診断できる？
氏		名：	鈴木繁

その	の	他：	DIGITaL STaD 健康お役立ち情報
日		付：	2025 年 9 月 11 日
場		所：	Web
場		名：	街路樹はなぜイチョウの木なの？
氏		名：	鈴木繁

その	の	他：	DRP 医療情報館 医療コラム
日		付：	2025 年 10 月 6 日
場		所：	Web
場		名：	小児の病気 おねしょを治そう
氏		名：	鈴木繁

その	の	他：	DRP 医療情報館 医療コラム
日		付：	2026 年 1 月 6 日
場		所：	Web
場		名：	小児の病気 小児ワクチンの意義を再考する
氏		名：	鈴木繁

【泌尿器科】

『論文』

雑誌 名： 泌尿器科学会雑誌
題 名： 尿管坐骨孔ヘルニアを腹腔鏡下にメッシュを使用せず修復した一例
著 者： 石塚直樹、稲原昌彦、鈴木悠太、五十嵐辰男、木藤 宏樹
巻、ページ、年度： Jpn. J. Urol 116 (4) : 114-119, 2025

『国内学会』

学会 名： 第8回日本泌尿器科学会千葉地方会学術集会
開催 日： 2025年11月8日
場 所： 千葉県浦安市
演 題： 原発性尿路上皮癌による自然上部尿溢流の2例
演 者： 杉本龍春

『講演』

講演 会 名： 令和7年度母体保護法指定医講習会
開催 催 日： 2026年2月23日
場 所： 千葉県千葉市
講演 演 名： 千葉県における性感染症 - 過去19年間の動向 -
講演 演 者： 五十嵐辰男

講演 会 名： 第38回ちば思春期研究会(第19回千葉STI研究会共同開催)
開催 催 日： 2026年2月15日
場 所： 千葉県千葉市
講演 演 名： 千葉県性感染症の最新情報
講演 演 者： 五十嵐辰男

【眼科】

『論文』

雑誌 名： International Ophthalmology
題 名： The effect of habitual sitting posture on peripheral retinal alterations
著 者： Izumi Yoshida, Masashi Sakamoto, Satoshi Hirano, Hiroki Nakayama, Chiaki Fujimoto, and Sayaka Kanai
巻、ページ、年度： (2025) 45:446 <https://doi.org/10.1007/s10792-025-03802-0>

【耳鼻咽喉科】

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名：手術室勉強会 日：2025年5月2日 所：千葉県佐倉市 題：20250502 手術室勉強会 鼻手術 者：竹内成夫
講 開 場 演 演	義 催	名：薬剤師勉強会 日：2025年5月20日 所：千葉県佐倉市 題：【耳鼻科医の処方】の仕組み ～抗菌薬、抗ウイルス薬による根治処方から対症処方まで～ 者：竹内成夫
講 開 場 演 演	義 催	名：手術室勉強会 日：2025年12月26日 所：千葉県佐倉市 題：20251226 手術室勉強会 耳手術 者：竹内成夫

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	名：杏林製薬社内向け講演会 日：2025年8月1日 所：千葉県千葉市 名：杏林製薬製品の耳鼻咽喉科領域での役割 者：竹内成夫
-----------------------	----------------------	--

【放射線治療科】

「国内学会」

学	会	名：	第 30 回日本緩和医療学会学術大会
開	催	日：	2025 年 7 月 4 日～ 5 日
場		所：	福岡県福岡市
演		題：	口腔腫瘍に対して、啞え型スパーサーを自作し定位照射を行った 1 症例
演		者：	川上浩幸

「講演」

講	演	会	名：	緩和ケア病棟講習会
開		催	日：	2026 年 2 月 26 日
場			所：	千葉県佐倉市
講	演		名：	緩和ケアと放射線治療－症状緩和へのアプローチ－
講	演		者：	川上浩幸

看護部

「国内学会」

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 23 回日本高齢者腎不全研究会 日： 2025 年 7 月 26 日～ 27 日 所： 広島県広島市 題： 透析の見合わせを選択した高齢腎不全患者の事例を振り返る ～高齢者の意思を支えること～ 者： 永田愛子
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 29 回日本看護管理学会学術集会 日： 2025 年 8 月 22 日～ 23 日 所： 北海道札幌市 題： 「予期せぬ急変を予防する手術リスクアセスメントの多職種情報共有 システム構築」 ～大腿骨近位部骨折手術療法の高齢患者に焦点を当てて～ 者： 加藤和美
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本股関節学会学術集会 日： 2025 年 10 月 24 日～ 25 日 所： 山口県下関市 題： 大腿骨近位部骨折患者の術後せん妄の発症要因と対策の検討 者： 堀内彩花
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側彎症学会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 側弯症装具治療における装着時間と季節や気温との関係 者： 木村弘美
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側彎症学会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 側弯症装具治療において装具装着時間と装具治療からくるストレスは 経時的に変化するか～装具治療 2 年経過の報告～ 者： 大崎美奈子
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回千葉県透析研究会 日： 2025 年 12 月 7 日 所： 千葉県千葉市 題： 主義獲得困難だった後期高齢腹膜透析患者のセルフケア支援を振り返る 者： 篠田あみ
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回千葉県透析研究会 日： 2025 年 12 月 7 日 所： 千葉県千葉市 題： 透析だよりを毎月発行することでセルフケア支援及び家族の患者サ ポート支援となるか 者： 竹内真理子

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 14 回千葉緩和医療学会学術大会 日： 2026 年 2 月 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 非ガンの緩和ケア 者： 宍倉亜希子
-----------------------	--------	---

「講義」

講 開 場 演 演	義 催	名： 日本看護協会 認定看護師教育課程 日： 通年 所： 動画 題： 共通科目「相談」 者： 高橋弥生
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名： 訪問看護師養成講習会 日： 2025 年 9 月 3 日 所： Web 題： 多職種連携による入退院支援 者： 山口美恵、岩崎彩加
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名： コンサルテーションの実際 日： 2025 年 10 月 3 日 所： 東京都清瀬市 題： 糖尿病看護領域におけるコンサルテーションの実際 者： 高橋弥生
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名： 慢性期看護援助論 日： 2025 年 12 月 所： 千葉県船橋市 題： 慢性期看護援助論 者： 高橋弥生
-----------------------	--------	--

「講演」

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 	名： 千葉県腎疾患対策 Web 講演会 2025 日： 2025 年 10 月 14 日 所： 千葉県千葉市 名： 慢性腎臓病透析予防に関する当院での取り組みと今後の課題 者： 山本真紀
-----------------------	----------------------	-----------------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 	名： 千葉県老人保健施設協会「看護・介護リーダー部会」研修会 日： 2025 年 10 月 18 日 所： 千葉県印西市 名： 褥瘡ケアについて 者： 青木佐紀子
-----------------------	----------------------	-----------------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 	名： 入退院時連携研修会 日： 2025 年 10 月 31 日 所： 千葉県白井市 名： 多職種が関わる入退院時連携 者： 岩崎彩加
-----------------------	----------------------	-----------------------	---

講演会場	名：	令和7年度CKDシール事業に関する研修会
開催	日：	2025年11月3日
場所	所：	千葉県千葉市
講演	名：	透析患者の身体ケア
講演	者：	永田愛子
講演会場	名：	糖尿病 介護者セミナー
開催	日：	2025年12月10日
場所	所：	千葉県
講演	名：	糖尿病について－足のトラブルチェック方法－
講演	者：	高橋弥生
講演会場	名：	第2回 よくわかる！ メディカルスタッフ スキルアップセミナー
開催	日：	2026年1月18日
場所	所：	東京都港区、Web
講演	名：	成長ホルモン治療の継続支援 「背が伸びたい！」気持ちを支える当院の関わり
講演	者：	有川邦子
講演会場	名：	第13回北総スキンケアフォーラム
開催	日：	2026年1月24日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	現場で活かすストーマケアの基本
講演	者：	青木佐紀子

「その他」

その日 場 題 氏	他：	特定行為研修共通科目 フィジカルアセスメント基礎 実習
	付：	2025年9月17日
	所：	東京都品川区
	名：	身体診察基本手技 フィジカルアセスメント総論
	名：	永田愛子
その日 場 題 氏	他：	第13回北総スキンケアフォーラム 演習
	付：	2026年1月24日
	所：	千葉県佐倉市
	名：	地域でつなげようストーマケア
	名：	高野弘栄
その日 場 題 氏	他：	第13回北総スキンケアフォーラム スタッフ・運営
	付：	2026年1月24日
	所：	千葉県佐倉市
	名：	地域でつなげようストーマケア
	名：	青木佐紀子
その日 場 題 氏	他：	在宅医療・介護連携推進事業講演会
	付：	2026年3月25日
	所：	千葉県佐倉市
	名：	自分らしい生き方・最期今をどう生きるか？から始める人生会議
	名：	竹澤英恵(パネリスト)

医療技術

【検査科】

『講義』

講義	名：	国際医療福祉大学 医学検査学科講義
開催	日：	2025 年 12 月 25 日
場所	所：	千葉県成田市
演題	題：	臨床検査技師の仕事 ～現場目線から～
演者	者：	舎川衛

『講演』

講演会	名：	第 11 回合同学術集会
開催	日：	2025 年 12 月 13 日
場所	所：	静岡県浜松市
講演	名：	健診センターにおける追加検査可能日数の検討
講演	者：	桐谷香帆

【薬剤科】

『論文』

雑誌	名：	日本病院薬剤師会雑誌
題名	名：	手術室担当薬剤師が培養検査を提案し診断と治療に貢献し得た Cutibacterium acnes による脊椎インプラント感染症の 1 例
著者	者：	平野公基、本田勝亮、高岡雄一、堀井亮平、柏原道志、長岡翔、 北田絢子、原田萌衣、市村仁志、小谷俊明、矢部勝茂、富田歩子
巻、ページ、年度		62 (2) 179-183、2026

雑誌	名：	千葉県病薬会報
題名	名：	当院の CKD シール運用について
著者	者：	飯塚由佳
巻、ページ、年度		第 230 号、P13 ～ 15、2026

『国内学会』

学会	名：	第 98 回日本整形外科学会学術総会
開催	日：	2025 年 5 月 22 日～ 25 日
場所	所：	東京都千代田区
演題	題：	薬剤師視点でみた地域連携
演者	者：	鈴木諒、岸田俊二

学 開 場 演	会 催	名： 第 11 回日本医薬品安全性学会学術大会 日： 2025 年 8 月 2 日 所： 愛知県名古屋市 題： シンポジウム 2 感染症治療薬の安全対策 - 症例から見えてきた問題点への対応-抗菌薬による重大な副作用の症例検討 検査値異常からの副作用のアプローチ
演		者： 平野公基
学 開 場 演 演	会 催	名： 日本病院薬剤師会関東ブロック第 55 回学術大会 日： 2025 年 8 月 2 日 所： 茨城県つくば市 題： ワルファリンとトラマドールの併用により PT-INR が延長した一例 者： 中谷有岐、平野公基、北畠千種、市村仁志、富田歩子
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 大腿骨近位部骨折後におけるデノスマブ外来受診率調査 者： 鈴木諒、岸田俊二、加藤木丈英、木村弘美、富田歩子
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 35 回日本医療薬学会年会 日： 2025 年 11 月 22 日～ 24 日 所： 兵庫県神戸市 題： <i>Cutibacterium acnes</i> による脊椎インプラント感染症治療中に発症した Ceftriaxone による好中球減少症の一例 者： 平野公基、中谷有岐、北畠千種、市村仁志、飯島靖、富田歩子
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 35 回日本医療薬学会年会 日： 2025 年 11 月 22 日～ 24 日 所： 兵庫県神戸市 題： 疑義照会簡素化プロトコル新規項目導入後における現状把握と課題の検討 者： 北田絢子、鈴木諒、土橋夏美、松田裕美、三和知佳、飯塚由佳、富田歩子
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 1 回日本炎症免疫薬学会学術集会 日： 2026 年 3 月 13 日 所： 神奈川県横浜市 題： シンポジウム 2 「周術期における免疫抑制薬の休薬の現状と課題」 者： 平野公基

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名： 横浜薬科大学 実務実習事前教育 日： 2025 年 6 月 19 日 所： 神奈川県横浜市 題： 実務実習事前教育 無菌調製とケミカルハザードの回避について 者： 平野公基
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名： 佐倉市立王子台小学校 キャリア教育講演会 日： 2026 年 3 月 5 日 所： 千葉県佐倉市 題： 薬のスペシャリストの秘密 者： 富田歩子
講 開 場 演 演	義 催	名： 北海道科学大学 薬剤師生涯学習 病態・薬物治療フォローアップ講座 第 3 回骨粗鬆症 日： オンデマンド配信 所： Web 題： 骨粗鬆症薬物治療 者： 鈴木諒

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： Asahi Osteoporosis OLS Seminar in NARITA 日： 2025 年 7 月 16 日 所： 千葉県成田市 名： 薬剤師が支える骨折予防ケア～ FLS と地域連携の実践から～ 者： 鈴木諒
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 不眠症診療 Web セミナー in 佐倉 日： 2025 年 9 月 30 日 所： 千葉県千葉市 名： 今後の睡眠薬のあるべき姿とレンボレキサントへの期待 ～実臨床におけるレンボレキサントの使用経験を踏まえて～ 者： 富田歩子(座長)
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 横浜薬科大学同窓会「浜薬会」開学 20 周年直前記念講演会 (感染症・地域活動)研修会 日： 2025 年 10 月 12 日 所： 神奈川県横浜市 名： 薬局薬剤師が知っておくべき感染症 ～予防策・キードラッグとその相互作用トピックスについて～ 者： 平野公基
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 第 10 回千葉骨粗鬆症研究会 日： 2025 年 11 月 8 日 所： 千葉県千葉市 名： 骨粗鬆症リエゾンサービスにおける薬剤師の挑戦と可能性 者： 鈴木諒
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 第 13 回東京(関東)医薬品安全性研究会 日： 2025 年 11 月 16 日 所： Web 名： 抗菌薬による薬剤性肝障害の評価と対応 者： 平野公基

講演会	名：	第10回佐倉薬剤師ネットワーク研修会
開催	日：	2026年3月2日
場所	所：	Web
講演	名：	肺がんレジメン(アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法)について
講演	者：	天野正康
講演会	名：	第5回せいれいレジメン茶屋
開催	日：	2026年3月26日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	Nivolumab+SOX療法
講演	者：	鈴木諒

『その他』

その日 場 題 氏	の	他：	横浜薬科大学 薬学概論Ⅰ
		付：	2025年4月5日
		所：	神奈川県横浜市
		名：	ジャンプアッププログラム：卒業生との懇親会
		名：	平野公基
その日 場 題 氏	の	他：	千葉県病院薬剤師会
		付：	2025年5月10日
		所：	千葉県千葉市
		名：	第84回臨時総会
		名：	富田歩子(議長)
その日 場 題 氏	の	他：	日経メディカル連載コラム 抗菌薬はAST専従薬剤師にお任せを！
		付：	2025年12月25日
		所：	Web
		名：	培養検査が外部委託の施設、抗菌薬選択は？
		名：	平野公基
その日 場 題 氏	の	他：	東邦大学薬学部
		付：	2026年2月14日
		所：	千葉県習志野市
		名：	OB・OG就職懇談会
		名：	桑原健太

【放射線科】

『国内学会』

学	会	名：	千葉県診療放射線技師会第76回学術大会勉強会
開	催	日：	2026年2月1日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	嚥下造影検査に関わる医療従事者の被ばく線量低減の検討
演		者：	渡邊強

『講義』

講	義	名：	線量測定講習会2025
開	催	日：	2025年4月27日
場		所：	千葉県佐倉市
演		題：	患者照射基準点の線量測定と装置周辺の空間線量を理解しよう
演		者：	渡邊強

講	義	名：	画像技術学
開	催	日：	2025年6月20日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	画像技術学Ⅰ
演		者：	園田優

講	義	名：	画像技術学
開	催	日：	2025年6月27日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	画像技術学Ⅰ
演		者：	園田優

『講演』

講	演	会	名：	フレッシュャーズセミナー
開		催	日：	2025年6月1日
場			所：	千葉県千葉市
講	演		名：	医療安全
講	演		者：	金子貴之

講	演	会	名：	OMNIBUS 第17回勉強会
開		催	日：	2025年6月7日
場			所：	Web
講	演		名：	イチから学ぶSTAT事例 ～CT、一般撮影編～
講	演		者：	藤井智也

講	演	会	名：	第17回聖隷放射線部関東合同学術大会
開		催	日：	2025年6月13日
場			所：	千葉県佐倉市
講	演		名：	散乱線除去グリッドのX線入射位置が画質に及ぼす影響
講	演		者：	田家愛深

講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 17 回聖隷放射線部関東合同学術大会 2025 年 6 月 13 日 千葉県佐倉市 MRI における金属アーチファクトの基礎的検討 多田百未
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 2 回千葉・茨城合同 SIGNA User's Meeting(第 34 回千葉 UM/ 第 37 回茨城 UM) 2025 年 10 月 18 日 千葉県佐倉市 MR Myelography で“見えろグラフィー”～神経も血管も一網打尽～ 片岡義貴
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	神奈川県診療放射線技師会 横浜西部地区勉強会 2025 年 12 月 3 日 Web 知らなきゃ損する！告示研修の今とこれから 園田優
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 2 回千葉県臨床検査技師会・千葉県診療放射線技師会合同研修会 2026 年 2 月 8 日 千葉県千葉市 腎臓を診る、腎臓を読む～検査データ×臨床画像で深める臨床判断力～ MRI 編 多田百未
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 1 回千葉県診療放射線技師会マネジメントスキルセミナー 2026 年 3 月 8 日 千葉県千葉市 リーダーシップとマネジメントの基礎 園田優
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 28 回聖隷放射線部門合同学術大会 2026 年 3 月 14 日 静岡県浜松市 一般撮影「再撮影の現状と減少に向けた取り組み」 高石真人
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 28 回聖隷放射線部門合同学術大会 2026 年 3 月 14 日 静岡県浜松市 スペシャリストによる知識技術の継承 CT 塚本悟之
講演 開場 講演	演 催 演 演	会 演 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 28 回聖隷放射線部門合同学術大会 2026 年 3 月 14 日 静岡県浜松市 放射線治療「症例を基にした施設の強みや特徴」 戸塚大輔

講演会場	名：	第 28 回聖隷放射線部門合同学術大会
	日：	2026 年 3 月 14 日
	所：	静岡県浜松市
講演者	名：	MRI「全身麻酔下 MRI を中心とした脊椎 MRI の運用」
	者：	花香夏生

【栄養科】

『国内学会』

学会開催場	名：	千葉県透析研究会
	日：	2025 年 12 月 7 日
	所：	千葉県千葉市
講演者	題：	当院における維持血液透析患者の GLIM 基準による栄養評価と短期生命予後の関連について
	者：	小倉文子
学会開催場	名：	第 29 回日本病態栄養学会年次学術集会
	日：	2026 年 1 月 30 日～2 月 1 日
	所：	京都府京都市
講演者	題：	慢性腎不全を呈する患者への切れ目のない介入により効果が見られた 1 症例
	者：	飯塚光

【臨床工学室】

『論文』

雑誌題	名：	千葉県臨床工学技士会会誌
	名：	ビタミン E 固定化ヘモダイアフィルタ「ヴィエラ V-RA」が ESA 投与量に与える影響の検討
著者	者：	保科正浩
巻、ページ、年度	第 31 号、60 ページ、2025 年度	
雑誌題	名：	腎と透析 99 巻別冊 アクセス 2025
	名：	スマートフォンと自作電子聴診器を用いた簡易的 VA 機能評価方法の検討
著者	者：	小林大輔
巻、ページ、年度	99 巻、120 ページ、2025 年度	

『国際学会』

学	会	名：	台湾透析技術学会
開	催	日：	2026 年 1 月 11 日
場		所：	台湾高雄市
演		題：	透析室におけるリスク管理(災害対策を含む) 『Risk Management in Dialysis Units - Including Disaster Preparedness -』
演		者：	阿部拓馬

『国内学会』

学	会	名：	第 35 回日本臨床工学会
開	催	日：	2025 年 5 月 17 日～18 日
場		所：	大阪府大阪市
演		題：	当院の脊髄刺激療法外来における記録内容統一化の効果
演		者：	植山奈美子

学	会	名：	第 35 回日本臨床工学会
開	催	日：	2025 年 5 月 17 日～18 日
場		所：	大阪府大阪市
演		題：	一般演題：VA ②
演		者：	小林大輔(座長)

学	会	名：	第 70 回日本透析医学会学術集会・総会
開	催	日：	2025 年 6 月 27 日～29 日
場		所：	大阪府大阪市
演		題：	レオカーナ治療における血清 Ca 値の変化
演		者：	小林大輔

学	会	名：	日本透析アクセス医学会
開	催	日：	2025 年 9 月 13 日～14 日
場		所：	東京都墨田区
演		題：	清潔性を担保した実用的なエコー下穿刺物品の検討
演		者：	小林大輔

学	会	名：	第 52 回千葉県透析研究会
開	催	日：	2025 年 12 月 7 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	清潔性を担保した実用的なエコー下穿刺物品の検討
演		者：	小林大輔

学	会	名：	第 30 回千葉県臨床工学会
開	催	日：	2026 年 1 月 25 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	より簡単に！素早く！透析情報へのアクセスを可能にした『防災 QR コード』
演		者：	古屋淳子

学	会	名：	第 30 回千葉県臨床工学会
開	催	日：	2026 年 1 月 25 日
場		所：	千葉県千葉市
演		題：	一般演題 2「循環・呼吸器関連」
演		者：	中條馨代(座長)

『講義』

講	義	名：	第 17 回千葉 IVR 技術セミナー Part1
開	催	日：	2025 年 5 月 25 日
場		所：	Web
演		題：	心電図の基礎と原理, 代表的疾患の波形から学ぶ
演		者：	掛谷祐太

『講演』

講	演	会	名：	第 30 回千葉県臨床工学会
開	催		日：	2026 年 1 月 25 日
場			所：	千葉県千葉市
講	演		名：	受入側施設としての災害準備と課題 ～透析医療における災害対応の実際～
講	演		者：	阿部拓馬

講	演	会	名：	第 14 回 JHAT 隊員養成研修会
開	催		日：	2026 年 2 月 28 日
場			所：	千葉県千葉市
講	演		名：	災害時情報収集シミュレーション机上訓練 1 ～千葉 大規模停電対応～ 受け入れ側施設としての災害準備と課題 ～透析医療における災害対応の実際～
講	演		者：	阿部拓馬

『その他』

そ	の	他：	聖隷 CE L01 研修
日		付：	2025 年 10 月 25 日
場		所：	静岡県浜松市
題		名：	業務参画を通じて学んだこと
氏		名：	掛谷祐太

そ	の	他：	聖隷 CE L01 研修
日		付：	2025 年 10 月 25 日
場		所：	静岡県浜松市
題		名：	「私が挑戦していることと、描く将来像」
氏		名：	河村響(座長)

そ	の	他：	聖隷 CE L01 研修
日		付：	2025 年 10 月 25 日
場		所：	静岡県浜松市
題		名：	再穿刺に向き合う私の挑戦信頼される透析環境の実現に向けて
氏		名：	岡野孝祐

その 日 場 題 氏	の	他： 第3回聖隷CE学会 付： 2026年2月15日 所： 千葉県佐倉市、静岡県浜松市 名： 医療者が患者になって初めて見えたこと ～命・安全・信頼はどこで揺らぐのか～ 名： 石井博
その 日 場 題 氏	の	他： 第3回聖隷CE学会 付： 2026年2月15日 所： 千葉県佐倉市、静岡県浜松市 名： Stealth station S8 と O-arm2 を使用したことによるナビゲーション時間短縮効果についての検証 名： 原田拓也
その 日 場 題 氏	の	他： 第3回聖隷CE学会 付： 2026年2月15日 所： 千葉県佐倉市、静岡県浜松市 名： Green Dialysis 名： 小林大輔(座長)

【リハビリテーション室】

『論文』

雑 題	誌	名： 理学療法学 名： 肩甲下筋断裂併発症例における鏡視下腱板修復術後5週の下垂位外旋可動域と術後12ヶ月の治療成績との関係
著 卷、ページ、年度：	者：	奥村太郎、伊勢昇平、小川侑男、廣田知佐恵、桑原康太、白井智裕 52 (3)、1-9、2025
雑 題	誌	名： Therapeutic Apheresis and Dialysis 名： Association between physical function and hospitalization among older patients with pre-dialysis chronic kidney disease after educational hospitalization: A single-center prospective cohort
著 卷、ページ、年度：	者：	Tabata.A、Yabe.H、Katogi.T、Mitake.Y、Oono.S、Fujii.T. 29、682-690、2025
雑 題	誌	名： Renal Replacement Therapy 名： Inpatient physical therapy and changes in physical function in an older patient with acute-phase IgA nephropathy: a case report with literature review.
著 卷、ページ、年度：	者：	Tabata.A、Yabe.H、Katogi.T、Mitake.Y、Oono.S、Fujii.T. 11、1-10、2025
雑 題	誌	名： Renal Replacement Therapy 名： Factors of geriatric syndrome associated with low physical function in older patients with chronic kidney disease: a cross-sectional study.
著 卷、ページ、年度：	者：	Tabata.A、Yabe.H、Katogi.T、Mitake.Y、Oono.S、Fujii.T. 11、59、2025

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| 雑誌
題 | 名 : | Renal Replacement Therapy |
| | 名 : | Factors influencing presenteeism in employed patients undergoing hemodialysis: a single-center cross-sectional study. |
| 著
者、ページ、年度 : | 者 : | Tabata.A、Yabe.H、Katogi.T、Mitake.Y、Oono.S、Fujii.T.
11、101、2025 |
| | | |
| 雑誌
題 | 名 : | Monthly Book Medical Rehabilitation |
| | 名 : | 急性期（病院）におけるリハビリテーション治療（目標設定・メニュー・効果・問題点） |
| 著
者、ページ、年度 : | 者 : | 加藤木丈英、岸田俊二、小谷俊明
No.318:Page55-62、2025 |
| | | |
| 雑誌
題 | 名 : | 日本腎臓リハビリテーション学会誌 |
| | 名 : | 保存期慢性腎臓病患者における動脈硬化指標と骨格筋量の関連～性差も含めた検討～ |
| 著
者、ページ、年度 : | 者 : | 大野隼汰、田畑吾樹、矢部広樹、三嶽侑哉、加藤木丈英、藤井隆之
4（2）、159-168、2025 |
| | | |
| 雑誌
題 | 名 : | 理学療法科学 |
| | 名 : | 肩腱板断裂患者における鏡視下腱板修復術前後の睡眠と疼痛の変化－ピッツバーグ睡眠品質指数を使用して－ |
| 著
者、ページ、年度 : | 者 : | 廣田知佐恵、奥村太郎、小川侑男、桑原康太、白井智裕
40（1）、1-5、2025 |
| | | |
| 雑誌
題 | 名 : | Clinical and Experimental Nephrology |
| | 名 : | Effects of home-based exercise on physical function and health-related quality of life in older patients with pre-dialysis chronic kidney disease: a single-center randomized controlled trial. |
| 著
者、ページ、年度 : | 者 : | Tabata.A、Yabe0.H、Katogi.T、Mitake.Y、Oono.S、Yamaguchi.T、Fujii.T.
30、65-74、2026 |
| | | |
| 雑誌
題 | 名 : | 理学療法の科学と研究 |
| | 名 : | 拘縮を伴う腱板断裂における鏡視下腱板修復術後成績に関与する術前因子の検討 |
| 著
者、ページ、年度 : | 者 : | 小川侑男、伊勢昇平、奥村太郎、廣田知佐恵、桑原康太、白井智裕
17（1）、15-19、2026 |

『国内学会』

- | | | | |
|-----------------------|--------|-----|--|
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : | 第 54 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 |
| | | 日 : | 2025 年 4 月 17 日～ 19 日 |
| | | 所 : | 千葉県千葉市 |
| | | 題 : | 術後 40 年以上が経過した思春期特発性側弯症患者の運動能力と脊椎パラメーターの関係 |
| | | 者 : | 加藤木丈英、赤澤努、小谷俊明、飯島靖、佐久間毅、南昌平 |

学 開 場 演	会 催	名： 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会 日： 2025 年 6 月 27 日～ 29 日 所： 大阪府大阪市 題： 慢性腎臓病 (CKD) 患者における骨脆弱性と骨折リスクの検討 (合同企画シンポジウム 2 日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会合同企画「透析患者の骨折予防戦略」)
演		者： 加藤木丈英、藤井隆之、三嶽侑哉、田畑吾樹、大野隼汰、鈴木理志
学 開 場 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 透析導入患者における脆弱性骨折の疫学的調査 (口述発表)
演		者： 加藤木丈英、藤井隆之、宮崎木の実、堀井亮平、鈴木諒、石田拓未、鈴木理志
学 開 場 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 多職種連携による骨折予防トータルケア体制の実装と成果 - 「さくらモデル」と「骨粗鬆症マネージャー外来」を活用した地域主導型アプローチの実践 - (OLS スキルアップシンポジウム)
演		者： 加藤木丈英、小谷俊明、木村弘美、鈴木諒、石田拓未、岸田俊二、藤井隆之
学 開 場 演	会 催	名： 第 27 回日本骨粗鬆症学会 日： 2025 年 9 月 12 日～ 14 日 所： 千葉県千葉市 題： ポスター 21 「転倒予防・サルコペニア・ロコモ」
演		者： 加藤木丈英 (座長)
学 開 場 演	会 催	名： 第 7 回聖隷リハビリテーション学術研修大会 日： 2025 年 9 月 28 日 所： 静岡県浜松市 題： 高齢ネフローゼ症候群患者に対する早期リハビリテーションの有用性～1 症例を通じて～
演		者： 加藤翔悟、三嶽侑哉、田畑吾樹、大野隼汰
学 開 場 演	会 催	名： 第 7 回聖隷リハビリテーション学術研修大会 日： 2025 年 9 月 28 日 所： 静岡県浜松市 題： 思春期特発性側弯症における LumbarStiffnessDisabilityIndex を用いた日常生活動作の経時的変化
演		者： 藤浪萌、加藤木丈英、奥村太朗、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、南昌平
学 開 場 演	会 催	名： 第 7 回聖隷リハビリテーション学術研修大会 日： 2025 年 9 月 28 日 所： 静岡県浜松市 題： 当院における心不全教育入院の取り組み、及び一症例の報告
演		者： 玉上一貴、三嶽侑哉、田畑吾樹

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本肩関節学会学術集会、第 22 回日本肩の運動機能研究会 日： 2025 年 10 月 10 日～ 11 日 所： 福岡県福岡市 題： 術後 6 ヶ月 JOA83 点到達因子とリハビリテーション終了の関連 者： 桑原康太、伊勢昇平、奥村太朗、小川侑男、廣田知佐恵
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本肩関節学会学術集会、第 22 回日本肩の運動機能研究会 日： 2025 年 10 月 10 日～ 11 日 所： 福岡県福岡市 題： 当院における鏡視下腱板修復術後の再断裂に関与する因子の検討 者： 小川侑男、伊勢昇平、奥村太朗、廣田知佐恵、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本肩関節学会学術集会、第 22 回日本肩の運動機能研究会 日： 2025 年 10 月 10 日～ 11 日 所： 福岡県福岡市 題： ARCR 後 5 週の他動外旋可動域 25 度以上の症例における再断裂の関連因子の検討 者： 奥村太朗、伊勢昇平、小川侑男、廣田知佐恵、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本肩関節学会学術集会、第 22 回日本肩の運動機能研究会 日： 2025 年 10 月 10 日～ 11 日 所： 福岡県福岡市 題： 鏡視下腱板修復術後自動運動開始時の結帯と臨床成績 者： 廣田知佐恵、伊勢昇平、小川侑男、奥村太朗、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 33 回日本腰痛学会 日： 2025 年 10 月 10 日～ 11 日 所： 富山県富山市 題： 長期術後経過を有する思春期特発性側弯症患者における身体機能・脊椎アライメント・腰痛・HRQoL の関連 者： 加藤木丈英、赤澤努、奥村太朗、赤澤努、小谷俊明、飯島靖、佐久間毅、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側弯症学会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 思春期特発性側弯症における日常生活動作の経時的変化 者： 藤浪萌、加藤木丈英、奥村太朗、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側弯症学会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： LumbarStiffnessDisabilityIndex を用いた思春期特発性側弯症術後患者の腰椎不撓性に関与する因子の検討 者： 奥村太朗、加藤木丈英、藤浪萌、飯島靖、佐久間毅、小谷俊明、南昌平

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 59 回日本側彎症学会学術集会 日： 2025 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日 所： 千葉県千葉市 題： 長期術後経過を有する思春期特発性側弯症患者における身体機能・脊椎アライメント・HRQoL の関連(口述発表) 者： 加藤木丈英、奥村太朗、赤澤努、小谷俊明、飯島靖、佐久間毅、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 31 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 日： 東京都港区 所： 2025 年 11 月 22 日～ 23 日 題： 腹膜透析導入期における入院リハビリテーションが身体機能と ADL に与える効果 者： 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 11 回日本糖尿病理学療法学術大会 日： 2025 年 12 月 20 日～ 21 日 所： 千葉県千葉市 題： 高齢ネフローゼ症候群患者に対する早期リハビリテーションの有用性～1 症例を通じて～ 者： 加藤翔悟、三嶽侑哉、田畑吾樹、大野隼汰
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 11 回日本糖尿病理学療法学術大会 日： 2025 年 12 月 20 日～ 21 日 所： 千葉県千葉市 題： 高齢保存期慢性腎臓病患者の透析導入と社会的孤立との関連：単施設前向きコホート研究 者： 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 11 回日本糖尿病理学療法学術大会 日： 2025 年 12 月 20 日～ 21 日 所： 千葉県千葉市 題： 高齢透析導入期患者の入院関連機能障害に関連する因子の検討 者： 大野隼汰、田畑吾樹、三嶽侑哉、加藤木丈英
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 16 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 日： 2026 年 3 月 14 日～ 15 日 所： 福岡県久留米市 題： 高齢入院血液透析患者の入院関連能力低下に関連する因子の検討 者： 三嶽侑哉、矢部広樹、山口智也、田畑吾樹、大野隼汰、加藤木丈英、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 16 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 日： 2026 年 3 月 14 日～ 15 日 所： 福岡県久留米市 題： 保存期 CKD 患者における 6 分間歩行距離の代表値と関連因子の検討 者： 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 16 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 日： 2026 年 3 月 14 日～ 15 日 所： 福岡県久留米市 題： 保存期慢性腎臓病患者の透析導入と 5 回椅子立ち上がりテストとの関連～単一施設前向きコホート研究～ 者： 大野隼汰、田畑吾樹、三嶽侑哉、川上里奈、加藤木丈英

『講義』

講	義	名：	第 25 回日本側彎症学会研修セミナーベーシックコース
開	催	日：	2025 年 12 月 13 日～ 14 日
場		所：	大阪府大阪市
演		題：	symposium3 術後管理 リハビリリ 側弯症リハのポイント
演		者：	加藤木丈英

『講演』

講	演	会	名：	静岡県理学療法士協会：腎臓リハビリテーションにおけるフレイルとサルコペニア対策の重要性
開	催		日：	2025 年 4 月 20 日
場			所：	Web
講	演		名：	CKD 患者に対するリハビリテーション
講	演		者：	田畑吾樹

講	演	会	名：	第 8 回天王寺骨粗鬆症連携の会
開	催		日：	2025 年 10 月 16 日
場			所：	大阪府大阪市
講	演		名：	骨粗鬆症地域連携「さくらモデル」の 10 年 －実践から見えた成果と課題－
講	演		者：	加藤木丈英

講	演	会	名：	第 31 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 ワークショップ
開	催		日：	東京都港区
場			所：	2025 年 11 月 22 日
講	演		名：	PD 患者に対する運動療法(リハビリテーション)の可能性
講	演		者：	田畑吾樹

講	演	会	名：	Japan Bone Academy2025
開	催		日：	2025 年 11 月 23 日～ 24 日
場			所：	東京都港区
講	演		名：	聖隷佐倉市民病院の FLS の実際～理学療法士とマネジメントリーダー～
講	演		者：	加藤木丈英

講	演	会	名：	女性の健康習慣 2026 オンラインセミナー「骨量測定の実際」
開	催		日：	2026 年 3 月 11 日
場			所：	東京都台東区
講	演		名：	骨を強くする、正しい動かし方
講	演		者：	加藤木丈英

講	演	会	名：	第 16 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 よくわかるシリーズ
開	催		日：	2026 年 3 月 14 日～ 15 日
場			所：	福岡県久留米市
講	演		名：	よくわかる！腎リハの種類別アプローチと臨床応用
講	演		者：	田畑吾樹

院内研修

2025 年度実績

病院の理念を基盤に、より良い医療を実践するための人づくりを目的として、以下の研修を実施した。

新入職員導入研修

ね　　ら　　い：　聖隷佐倉市民病院職員としての自覚を持つ
日　　　　　時：　2025 年 4 月 1 日（火）
対　　　　　象：　新卒及び新卒と同等と職場長がみなす職員
参　　加　　者：　43 名

新人研修

ね　　ら　　い：　就職してから今日までを振り返り、明日からの力とする
日　　　　　時：　2025 年 5 月 29 日（木）－ 30 日（金） 2 日間【宿泊】
対　　　　　象：　新卒及び新卒と同等と職場長がみなす職員
参　　加　　者：　32 名

2 年目研修

ね　　ら　　い：　効果的なコミュニケーションのあり方を身に付けるきっかけとする
日　　　　　時：　2025 年 6 月 27 日（金）1 日
対　　　　　象：　卒後 2 年目就職者または同等と職場長がみなす職員
参　　加　　者：　30 名

ステップアップ研修

ね　　ら　　い：　コーチングのスキルを身につけるとともに、効果的な OJT について学ぶ
日　　　　　時：　2025 年 9 月 4 日（木）－ 5 日（金） 2 日間【日帰り】
対　　　　　象：　卒後 4 年以上または同等と職場長がみなす職員
参　　加　　者：　33 名

中堅研修

ね　　ら　　い：　効果的なリーダーシップを身につけるきっかけとする
業務における問題点を明確にするとともに、解決法を学び対策を見出す
問題解決に向け実行する力を身につける
日　　　　　時：　2025 年 10 月 23 日（木）－ 24 日（金） 2 日間【日帰り】
対　　　　　象：　概ね 4 年以上の経験または同等の能力を持ち、職場の指導的役割を担う職員
参　　加　　者：　25 名

中堅フォローアップ研修

ね　　ら　　い：　中堅研修の振り返りと問題解決課題の成果を確認し解決法を確実に自分のものとする
日　　　　　時：　2026 年 2 月 27 日（金） 1 日
対　　　　　象：　中堅研修参加者
参　　加　　者：　25 名

聖隷佐倉市民病院 第20回院内学会 プログラム

テーマ：地域に選ばれる病院を目指して～隣人愛の継承～

開催日 2025年11月15日（土）

開催場所 聖隷佐倉市民病院 6階ホール

第1群 座長 【 福元 麻衣子 】

1	栄養管理体制の見直しによる成果	栄養科	飯塚 光
2	採血後漏血を減らすには？	検査科	藤木 和美
3	健診腹部MRIの有用性の検討	放射線科	上原 陸
4	新卒看護師採用強化への取り組みと成果	総務課 看護管理室	鈴木 麻友馨
5	この嚥下なのになぜ誤嚥・・・？嚥下機能は良好と評価したのに、肺炎を繰り返す謎に迫る	リハビリテーション室	川上 里奈

第2群 座長 【 井上 利紗 】

6	整形外科病棟における危険予知トレーニングの学習効果の検証	B3病棟	湯浅 涼子
7	思春期特発性側弯症における日本語版LSDLを用いた日常生活動作の経時的変化	リハビリテーション室	藤浪 萌
8	より簡単に！素早く！透析情報へのアクセスを可能にした「防災QRコード」について	臨床工学室	古屋 淳子
9	IT-BCPと情報セキュリティ訓練の取り組み ～医療情報システムの継続性と安全性を支える実践～	総合企画室	住江 駿

第3群 座長 【 加藤 雄揮 】

10	自賠責保険請求における効率化への取り組み	外来医事課	高部 慶
11	口腔ケア困難事例における看護師による脱感作・K-point刺激法導入前後の比較—看護師の意識変化と行動変容、口腔内衛生状態の変化—	A2病棟	四宮 早織
12	Instagramでつなぐ病院の未来 — 広報委員会の挑戦と成果	広報委員会	橋本 萌
13	思春期特発性側弯症装具治療に関する心理療法外来の設置	整形外科外来	清水 啓介

聖隷佐倉市民病院 キャンサーボード

当院キャンサーボードは、2021年に始まり2026年で6年目を迎えます。2025年度も、症例の治療方針についての話し合いだけではなく、有害事象対策、緩和ケアと幅広いトピックスで開催しました。また、IrAE対策の見直しとして、IrAEマニュアルの改訂、救急・時間外外来での対応等について、議論を重ねました。2026年度もがん治療の質の向上のため、前進あるのみです。

2025年度実績

- 第1回 キャンサーボード 開催日：2025年5月22日 17:30～
〈症例振り返り〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
講師 東邦大学医療センター佐倉病院 皮膚科 三津山 信治 先生
「分子標的薬によるGrade3皮疹に対する対処」
- 第2回 キャンサーボード 開催日：2025年6月26日 17:30～
〈症例検討〉 泌尿器科 稲原 昌彦 医師
「左腎癌術後の原発不明癌骨転移の治療方針について」
- 第3回 キャンサーボード 開催日：2025年8月28日 17:30～
〈講演〉 緩和医療科 村上 敏史 医師
「緩和ケア～村上先生の流儀～」
- 第4回 キャンサーボード 開催日：2025年10月30日 17:30～
〈ディスカッション〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「当院のIrAE対策を見直す①」
- 第5回 キャンサーボード 開催日：2025年11月20日 17:30～
〈ディスカッション〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「当院のIrAE対策を見直す②」
- 第6回 キャンサーボード 開催日：2025年12月25日 17:30～
〈ディスカッション〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「当院のIrAE対策を見直す③」
- 第7回 キャンサーボード 開催日：2026年2月26日 17:30～
〈ディスカッション〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「当院のIrAE対策を見直す④」

2025年度 聖隷佐倉市民病院市民公開講座

市民公開講座

開 催 日 : 2025年6月28日
開 催 場 所 : 聖隷佐倉市民病院 6階ホール
演 題 : 転ばぬ先の骨対策！ 見て・聞いて・体験する骨粗しょう症
講 師 : 整形外科 院長補佐 岸田 俊二
リハビリテーション室 係長 加藤木 丈英
栄養科 係長 安 拓郎
薬剤科 中谷 有岐

市民公開講座

開 催 日 : 2025年9月13日
開 催 場 所 : 聖隷佐倉市民病院 6階ホール
演 題 : 内視鏡で守る健康～検診と二次精密検査の本当の役割～
講 師 : 消化器内科 部長 齊藤 将喜
内視鏡センター 大城 宏之

市民公開講座

開 催 日 : 2025年11月1日
開 催 場 所 : 聖隷佐倉市民病院 6階ホール
演 題 : 未来をともに考える公開講座～人生会議と緩和ケアを知る一日～
講 師 : 緩和医療科 部長 村上 敏史
看護部 課長 石井 早苗

市民公開講座

開 催 日 : 2026年1月31日
開 催 場 所 : 聖隷佐倉市民病院 6階ホール
演 題 : 『血管異常のサインを見逃すな！足の血管の病気にご注意を！』
講 師 : 血管外科 主任医長 木原 一樹
血管外科 部長 金岡 健

第 59 回日本側彎症学会 開催記

第 59 回日本側彎症学会 会長 小谷俊明

2025 年、私が学会長を務めた第 59 回日本側彎症学会を含む「Spine Week Japan 2025」が、みなさまのお力添えにより無事終了いたしました。

当初、本学会は私の故郷である香川県高松市での開催を計画しておりました。しかし、大鳥精司教授のお声がけもあり、結果として幕張メッセで日本初となる脊椎関連 7 学会の合同開催という形になりました。これほど大規模な学会は大学が主催することが多く、一般病院が日々の診療と並行して運営することは容易ではありません。前例のない 7 学会合同ゆえに苦労の連続で、実に 4 年前から手探りで準備を進めてまいりました。この挑戦を乗り越えられたのは、当院職員のみなさまの温かいご理解と多大なるご協力があったからこそです。

今回掲げたテーマは「連携の力で築く：側彎症診療の新しい展望」でした。このテーマを体現してくれたのが、聖隷佐倉のチームです。若手医師や当院で研修を終えた卒業生が当院の側彎症患者さんのデータを多角的に解析し続け、ナース・PT・クラークをはじめとする多職種のスタッフが連携して研究に取り組んだ結果、本学会では当院から全国トップとなる 30 演題を発表しました。一般病院がこれほどの演題数を一つの学会で発表することは異例であり、聖隷佐倉の高い研究アクティビティを全国の舞台で広く示すことができました。学会場でチームの素晴らしい発表を聞きながら、会長として壇上に立つ以上に、聖隷佐倉の一員であることを誇らしく感じた瞬間でした。

その活発な研究活動は、受賞という形でも実を結びました。坂下孝太郎先生が「日本側彎症学会 最優秀演題賞」を、水谷雅哉先生が「日本脊椎インストゥルメンテーション学会 Case Report Award」を受賞する快挙を成し遂げたのです。さらに 2025 年度は当院から 23 編の英語論文が採択されており、その主著者の多くは若手医師たちです。日々の臨床に全力で向き合いながら、国内の学会にとどまらず世界に向けて聖隷佐倉の医療と研究の水準を発信し続けていることは、私たちの大きな誇りです。こうした成果を支えているのは、職員一人ひとりが互いにサポートし合い、高め合える職場風土があるからこそです。

こうした成果はすべて、当院で働くみなさまの献身的な支えのおかげです。これからも、みなさまが「聖隷佐倉で働いていること」を誇りに思える病院であり続けるよう、みなさまとともに歩んでまいります。本当にありがとうございました。



2025 年度 病院年報

発行日 ● 2026 年 7 月
編集 ● 総合企画室
発行 ● 社会福祉法人 聖隷福祉事業団
聖隷佐倉市民病院
〒285-8765
佐倉市江原台2丁目36番2
TEL 043-486-1151
FAX 043-486-8696
ホームページ <https://www.seirei.or.jp/sakura/>
